

○ 判決要旨

區有林ヲ伐採シ得ヘキ權利ヲ有セサルトキト雖行爲當時ニ於ケル諸般ノ事情ニ照シ之ヲ伐採スルコトハ區ノ認許スル慣例ニシテ差支ナキモノト誤信シ之ニ付相當ノ理由アリト認メラルル場合ニ在リテハ竊盜ノ犯意アリト爲スヲ得ス

【參照】森林法第八十四條

森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ

刑法第三十八條 罪ノ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カシテ

罪本重カシテ可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

○ 事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ有罪判決ヲ爲シタルニ對シ本院ハ左記ノ如キ犯意ニ關スル事實誤認ノ上告論旨ヲ理由アリトシ昭和七年四月二十八日事實審理開始ノ決定ヲ爲シ審理ヲ遂ケタル末左記後段ノ如ク判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和五年四月初旬頃松本憲侍 松下菊平ヲ雇使シ京都府熊野郡下佐濃村字竹藤小字小島エ六十二番地ナル同村字竹藤區有山林内ニ於テ自家用薪材ニ供スル目的ヲ以テ松及四ツ手等雜木約五十本贓額金十六圓九十五錢ノモノヲ盜伐シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ森林法第八十四條第七號ニ該當スルヲ以テ刑法施行法第十九條第一項第二條第二十條ヲ適用シ其ノ所定刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月及罰金三十圓ニ處スヘク情狀刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノアリト認ムルヲ以テ刑法第二百五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫スヘク尙右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ十五日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

原判決ヲ破毀ス
被告人武ハ無罪

○ 理 由

辯護人間狩宥遵上告趣意書第二點ノ論旨ハ其ノ理由アリ原判決破毀ヲ免カレサルコト昭和七年四月二十八日ノ事實審理開始決定ニ於テ説明スル所ノ如シ仍テ該決定ニ基キ本案ニ付審理ヲ遂クルトコロ

區有林伐採ニ付認許ノ慣例アリトスル誤信ト竊盜ノ犯意

被告人ハ昭和五年四月初旬頃松本憲侍 松下菊平ノ兩名ヲ雇使シ京都府熊野郡下佐濃村字竹藤小字小島エ六十二番地ナル同村字竹藤區有山林内ニ於テ自家用薪材ニ供スル目的ヲ以テ松及四ツ手等ノ雜木約五十本此ノ價格金十六圓九十五錢ノモノヲ伐採セシメタルモノニシテ其ノ事實ハ被告人ノ當公判廷ニ於ケル其ノ旨ノ陳述ニ徴シ之ヲ認メ得ル所ナリトス然ルニ被告人及辯護人ハ右竹藤區有林ハ井根立林ト稱シ竹藤區内ニ耕地ヲ有スル區民ハ自家ノ雜用ニ供スル爲右山林ノ樹木ヲ伐採スルコトヲ得ル慣行上ノ入會權存スルモノニシテ被告人モ亦此ノ慣行ニ基キ本件樹木ノ伐採ヲ爲シタルモノナレハ竊盜罪ヲ構成スルモノニ非スト辯疏スルニ付按スルニ係争竹藤區有林カ井根立林ト稱シ同區民ハ其ノ耕地ニ使用スル井堰用材ヲ右山林中ヨリ伐採スルコトヲ得ル慣行ノ存在スルコトハ原審證人仲村定藏野村藤太郎ニ對スル訊問調書中各其ノ旨ノ供述錄取セラレアルニ徴シ之ヲ認メ得ヘキモ其ノ慣行タルヤ井堰用材ニ使用スル場合ニ限定セラレ其ノ他ノ雜用ニ供スル爲ニハ其ノ伐採ヲ許ササルモノナルコト前顯各證人ニ對スル訊問調書中同趣旨ノ供述記載アルニ依リ明ナルヲ以テ被告人等辯解ノ如ク單ニ井堰用材ニ供スルニ止マラス少クモ其ノ大部分ハ之ヲ自家用薪材ト爲スノ目的ノ下ニ伐採ヲ爲シタル本件ニ在リテハ其ノ慣行上ノ權利行使ヲ認ムルニ由ナキモノト云ハサルヲ得ス然レトモ(一)當審受命判事ノ證人松本ぬい 松本らの 松本幸之助ニ對スル訊問調書中ノ供述記載ニ徴スルトキハ本件小島エ六十二番地ノ山林ノ中被告人カ伐採シタル西方ノ部分ヲ其ノ前年タル昭和四年春頃係争井堰ニ因リ

テ灌溉ヲ受クル田地ノ所有者松本幸之助ニ於テ自家用ノ爲伐木シタル事實アリ當時幸之助ノ母らのハ被告人ノ母ぬいニ對シ井根立林ノ下ニ田地ヲ所有スル者ハ其ノ樹木ヲ伐採シ得ヘキモノナレハ同山林ヲ伐採スヘキ旨ヲ勸誘シタル事實アリ被告人ノ母ぬいハ其ノ旨ヲ被告人ニ告ケ遂ニ本件伐採ヲ爲スニ至リタル事情ナルコトヲ知り得ヘク(二)同受命判事ノ證人松本與之助及同松本勘兵衛ニ對スル訊問調書中ノ供述記載ニ徴スレハ小字長野區ニハ本件井根立林ニ類似セル區有林三箇所存在シ其ノ井根立林ニ在リテハ其ノ附近ノ井堰ニ因リテ灌溉ヲ受クル田地ノ所有者ハ組合ヲ設ケ其ノ組合員ノ同意承諾アル場合ニハ區有林ノ樹木ヲ單ニ井堰用ノミニ止マラス井堰用ニ支障ヲ生セサル範圍ニ於テ自家ノ建築材又ハ薪用ニ伐採スルコトヲ許サル慣行存在セル事實ヲ看取シ得ヘク(三)然シテ本件井根立林ハ竹藤區内ニ屬スルモ其ノ面積ノ最大部分ハ長野區ニ隣接スルコト(四)伐採場所時刻其ノ他ノ態樣等ニ照シ自己ノ行爲カ盜伐ニ當ルコトヲ認識シタルモノト認ムルニ足ラサル事等ノ事情ヲ綜合シ一面本件ニ在リテハ被害者竹藤區ニ於テ毫モ被告人ノ所爲ヲ問責シタル事迹ノ觀ルヘキモノナキ點其ノ他諸般ノ事情等ヲ參酌シテ考量スルトキハ被告人ハ本件竹藤區有林ヲ伐採スル當時井堰修繕用材ニ不足ヲ生セシメサル範圍ニ於テ本件井根立林ヲ自家用ノ爲ニ伐採スルコトハ竹藤區ノ認許スル慣例ニシテ差支ナキモノト誤信シタルモノニシテ之ニ付相當ノ理由アリタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ被告人ノ本件行爲ハ罪ヲ犯スノ意ニ出テタルモノト爲スヲ得サルカ故ニ竊盜罪ヲ構成スヘキモノニ非ス敍上ノ

【要旨】

區有林伐採ニ付認許ノ慣例アリトスル誤信ト竊盜ノ犯意

理由ニ基キ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條同第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與

○公務執行妨害被告事件 (昭和七年(九)第七八一號 棄却)
(同年八月四日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 山科鶴松 辯護人 片山 藤吉 熊哲

【第一審】 佐世保區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

檢束處分ヲ解カシムル爲ノ脅迫ト公務執行妨害

○判決要旨

檢束處分ヲ解カシムル爲其ノ執行者ニ脅迫ヲ加ヘタルトキハ刑法

第九十五條第二項ノ公務執行妨害罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

行政執行法第一條 當該行政官廳ハ泥酔者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ武器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬭爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス
又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人山科鶴松ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人吉迫清男ハ長崎縣北松浦郡柚木村池野炭坑第四坑ノ坑夫ニシテ豫テ社會民衆黨ニ入黨セルモノ
又被告人山科鶴松ハ曩ニ社會民衆黨ニ入會シ現ニ同黨相浦分會長トナリ居レル者ナルカ昭和六年九月一日右第四坑ノ坑夫數十名ハ勞働條件改善要求條項十數箇條ヲ同坑坑長後藤房三ニ提出シ翌二日ヨリ

檢束處分ヲ解カシムル爲ノ脅迫ト公務執行妨害

罷業状態ニ入り屢其ノ交渉ヲ重ネ居タルモ炭坑側トノ意見ノ合致ヲ見ス雙方相反目シ險惡ノ情勢ヲ呈スルニ至リシカ被告人清男ハ該爭議團ノ團長被告人鶴松ハ該爭議團ノ統制部長ナリ孰レモ爭議團ヲ指揮活動シ居タルモノナルトコロ

第一事實省略

第二 同年九月五日右爭議團數十名ハ同炭坑事務所ニ押寄せ形勢不穩ナリシヨリ多數ノ警察官之ヲ警戒シ居タル中同日午後三時過頃同坑事務所前廣場ニ於テ爭議團員長野勝次カ暴行スル虞アリシヨリ警戒中ノ巡査部長松本淨ニ於テ之ヲ檢束ノ上同村巡査駐在所ニ連行スルヤ清男 鷄松及原審相被告人古賀專ノ三名ハ右警察官ノ處置ニ憤慨シ其ノ場ニ居合セタル數十名ノ爭議團員ト共ニ被檢束者奪還ノ目的ヲ以テ同駐在所ニ殺到シ極度ニ昂奮喧噪セル多衆ノ威力ノ下ニ同所玄關事務室ニ於テ相浦警察署長警部補石本甚助ニ對シ共同シテ「署長モ糞モアルカ長野ヲ返セ何ノ理由ヲ檢束シタカ檢束シタ松本部長ヲ出セビービー警部補ノ癖ニ威張ルナ警察ナト恐シクナイ炭坑ニハダイナマイトハ幾何テモアル殺氣立テハダイナマイトテモ投ゲルナゲ」ト不穩ノ言詞ヲ交々絶叫シ同署長ヲシテ長野勝次ノ檢束ヲ繼續スルニ於テハ多衆カ暴動化シ駐在所ニ對シ如何ナル危害ヲ加フルニ至ルヤモ計リ難キ畏怖ノ念ヲ惹起セシメ遂ニ長野勝次ノ檢束處分ヲ解カシメ以テ公務ノ執行ヲ妨害シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人鶴松ノ判示第二ノ所爲ハ刑法第九十五條第二項第一項第六十條ニ該當スルヲ以テ

孰レモ懲役刑ヲ選擇シ被告人鶴松ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人片山哲上告趣意書第四點本件ニ於ケル公務ノ意義ハ署長ノ檢束命令ノミニ限定シテ考フヘキニ非ラス檢束命令ヨリ釋放命令ニ至ル迄ヲ通シテ全部ヲ一連ノ關係ニ於テ考慮セサルヘカラス而シテソレハ客觀的情勢ニ應シテコノ命令ノ意義ヲ考ヘル必要ノアルモノナリコノ署長ノ命令ヲ總括的ニ考ヘル時ニハ一時の檢束ヲナシタルモ後ニ至リソノ當時ノ情勢ニヨリ更ニ釋放命令ヲ發スルト云フコトカコノ際ニ於ケル公務ノ意義ナラサルヘカラスカク考ヘルコトカ社會的ニ妥當性ヲ有スルモノテアリ同時ニ之カ本件ノ如キ經濟問題カラ來ル紛争ヲ解決スルニヨキ法律的解釋ナリト信スルモノナリ元來原判決ハ本件カ經濟紛争ヨリ來ルモノナルコトヲ明カニシ之ニ當面スル取締官ノ公務ノ意義トソノ範圍限界ヲ明瞭ニスルコトヲ必要トスヘキニ拘ラス之レ無クシテ只ソノ形式サヘ備ハリ一片ノ命令サヘアレハソレニテ足レリト判示スルニ至ツテハ被告人ノ承服スル能ハサルモ亦止ムヲ得スト謂ハサルヘカラス即チ原判決ノコノ點ニ關スル理由極メテ不備ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】 行政官廳カ暴行ヲ爲スノ虞アル者ヲ檢束スルコト及其ノ被檢束者ヲ解放スルコトハ行政執行法ニ基ク公務ニシテ右檢束處分ヲ解カシムル爲其ノ執行者ニ脅迫ヲ加ヘタルトキハ刑法第九十五條第二項ノ公務執行妨害罪ヲ構成スルモノトス而シテ原判決ニ依レハ被告人等カ被檢束者勝次ヲ解放セシムル爲判示石本警察署長ニ對シ脅迫ヲ加ヘテ其ノ目的ヲ貫徹シタルコトヲ認定シタルモノニシテ其ノ間公務ノ意義及其ノ範圍限界ヲ誤リテ說示シアルヲ認メス然レハ原判決ニハ所論ノ如キ理由不備ノ違法アルナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○出版法違反及猥褻被告事件 (昭和七年(九)第七六四號 棄却)
(同年八月六日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 大木喜仲 辯護人 富田數雄

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

出版法第二十七條ニ所謂風俗壞亂ノ意義——同條ノ適用

○判決要旨

- 一人ノ性交ニ關スル狀態ヲ露骨ニ敘述シタル文書ハ出版法第二十七條ニ所謂風俗ヲ壞亂スル文書ニ該當スルモノトス【要旨第一】
- 二出版法第二十七條違反ノ著作者及發行者力同一人ナルトキト雖各別ニ其ノ刑ヲ併セ科スヘク刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス【要旨第二】

【參照】 出版法第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○事實

出版法第二十七條ニ所謂風俗壞亂ノ意義 同條ノ適用

原判決ハ左記事實ヲ認メ出版法第二十七條刑法施行法第十九條第二條第二十條第五十五條等ヲ適用シテ被告人ヲ第一ノ事實ニ付著作者並ニ發行者トシテ各禁錮二月ニ判示第二ノ事實ニ付罰金七十圓ニ夫々處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル(押收處分省略)旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 猥褻文書ノ出版ヲ企テ犯意ヲ繼續シテ
(一) 昭和五年十二月十五日頃東京府荏原郡池上町一ノ倉二百九十二番地ナル被告人ノ當時ノ居宅ニ於テ豫テ所持シ居リタル原本ニ依リ「痴狂題袖ト袖後編」ト題シ(中略)云々ナル男女性交ノ狀ヲ描寫シタル風俗壞亂ノ記事ヲ有スル文書百部ヲ自ラ謄寫印刷ノ上製本シテ編纂シ之ヲ豫テ所持シ居リタル會員名簿ニ依リ其ノ頃群馬縣群馬郡明石村小林七二郎外數十名ニ一部金二圓宛ニテ發賣シ

(二) 昭和六年一月十五日頃被告人ノ前記居宅ニ於テ豫テ所持セル原本ニ依リ「老人若返リ法性愛短篇章」ト題シ(中略)云々ナル男女性交ノ狀ヲ描寫シタル風俗壞亂ノ記事ヲ有スル文書百部ヲ自ラ謄寫印刷ノ上製本シテ編纂シ前記會員名簿ニ依リ其ノ頃前記小林七二郎外數十名ニ一部金二圓宛ニテ發賣シ

(三) 同年九月二十三日頃岩田睦男ト共謀ノ上前記被告人居宅ニ於テ豫テ被告人ノ所持シ居タル原本ニ依リ「戀ノ百面相」風雲秘集鴛鴦譜」ト題シ(中略)云々ナル男女交接ノ狀ヲ描寫シタル風俗壞亂ノ記事ヲ有スル文書三百部ヲ編纂シ其ノ頃内五十四部ヲ京都市丸田町西洞院留島秋月外四十數名ニ一部金三圓乃至十圓ニテ發賣シ

第二 昭和六年七月初旬ヨリ七月十五日頃迄ノ間鈴木辰雄ト共謀ノ上被告人カ豫テ紺野角三郎ヨリ買入レテ所持シ居リタル男女性交ノ狀ヲ描寫シタル石版刷ノ猥褻圖畫十二枚一組ノモノ十組ヲ大阪府泉北郡忠岡村村田東洋藏外約十八名ニ一組四十八錢宛ニテ販賣シ
タルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人富田數雄上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ判示第一ノ事實(一)(二)(三)ヲ共ニ出版法違反ノ行爲ナリト認定シ之ニ對シ出版法第二十七條ヲ適用シ之カ犯罪行爲ノ内容ハ何レモ男女性交ノ狀ヲ描寫シタル風俗壞亂ノ記事ヲ有スル文書ヲ編纂シテ發賣シタリト謂フニアリ而シテ之カ斷罪ノ證據トシテハ單ニ公判廷ニ於ケル被告ノ供述ノミヲ以テセラレタリ然レトモ凡ソ文書タルヤ猥褻ノ文書ト然ラ

サル文書ノ種別アルコトハ勿論之カ風俗ヲ壞亂スルモノト然ラサルモノトノ種別ヲモ存在シ猥褻ノ文書ナリヤ否ヤハ文書ノ内容自體ノ描寫シタル事項ノ名稱ヲ指シテ之ヲ別チ風俗ヲ壞亂スル文書ナリヤ否ヤハ其ノ文書ノ内容カ社會ニ及ス影響ニヨリ定ムヘキモノナルカ故ニ右前者後者ハ全然其ノ觀察點ヲ異ニシ從ツテ猥褻ノ文書タリト雖何等風俗ヲ壞亂セサルモノアルト同時ニ記事ノ内容ハ猥褻ノ文書ニ非スト雖之カ風俗ヲ壞亂スルモノ又存在セサルヘカラス殊ニ出版法第二十七條カ猥褻ノ文字ヲ避ケ廣ク風俗壞亂ノ文書ト規定シタルハ猥褻ノ文書ト雖風俗ヲ壞亂セサルモノハ之ヲ處罰スルノ必要ナキコトヲ明カニシタルノミナラス又之カ反面ニハ猥褻ノ文書ニ非スト雖風俗ヲ壞亂スル文書ハ之ヲ處罰スルコトヲ規定シタリ尙刑法第七十五條ノ如キ販賣ノ目的ヲ以テ猥褻ノ文書ヲ所持シタル者ヲモ處罰スル旨ノ特別ノ規定ヲ設ケ猥褻ノ文書タルヤ其ノ文書ノ内容ニ記載サレタル事項ノ名稱ヲ以テシ之カ社會ニ對スル影響ノ有無ニ關セス之ヲ猥褻ノ文書ト稱スルモノナルコト明カニ規定シタリ果シテ然ラハ本件ニ對シ原審判決ハ猥褻ノ文書タルコトノ認定ト同時ニ之カ社會ニ對スル影響ノ内風俗ヲ壞亂スヘキモノナルコトヲモ認定セサルヘカラス然ルニ原審判決ハ本件認定ノ證據トシテ單ニ被告ノ供述ノミヲ掲ケタルニヨリ被告カ男女性交ノ狀ヲ描寫シタル文書ヲ編纂シタルコトヲ認定シタルノミニシテ斯ノ如キ文書カ果シテ風俗ヲ壞亂スルモノナリヤ否ヤノ點ニ付テハ何等認定ノ理由ヲ與ヘシテ漫然猥褻ノ文書即風俗壞亂ノ文書ナリトシ男女性交ノ理論ヲ説ケル產婆學研究書ノ發賣又ハ產科婦人科

【要旨第一】

ノ醫學上ノ書物ノ販賣ト毫モ異ル所ヲ發見シ能ハサルハ之原審カ猥褻ノ文書タルコトノミヲ認メ之カ風俗ヲ壞亂シタリヤ否ヤノ點ヲ認定セスシテ出版法第二十七條ヲ適用シタル結果ニ外ナラス故ニ原審判決ハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シ同時ニ理由ヲ附セサル判決ナリト言ハサルヘカラスト云フニ在リ然レトモ人ノ性交ニ關スル狀態ヲ露骨ニ敘述シタルモノハ一般讀者ヲシテ情慾ヲ連想セシメ一見羞耻厭惡ノ感ヲ惹起セシムルモノナレハ出版法第二十七條ニ所謂風俗ヲ壞亂スル文書ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ風俗ヲ壞亂スル文書ハ必スシモ猥褻ノ文書ニ限ラスト雖猥褻ノ文書ハ必ス風俗ヲ壞亂スル文書ト謂ヒ得ヘシ原審判決ニ依レハ被告人カ男女性交ノ狀ヲ描寫シタル文書ヲ編纂シテ之ヲ發行シタルコトヲ認定シタルモノニシテ現時ニ於ケル社會ノ通念ヲ標準トシテ之ヲ觀レハ右判示ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタル趣旨ナレハ原審判決ニハ所論ノ如ク判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シ又ハ判決ニ理由ヲ附セサル違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

第二點原審判決ハ本件判示第一事實ニ付被告ヲ著作者及發行者トシテ各禁錮二箇月ニ處スト判決シ著作ト發行ノ行爲カ同一人ニ於テ併存スル場合ニ於テモ之ヲ二箇ノ犯罪トシ出版法第二十七條ヲ適用シ同法第三十二條ニ所謂數罪俱發ノ例ヲ用ヒストノ規定ニ立脚シタルモノノ如シ然レトモ出版法第二十七條ニ於テ著作者發行者ヲ處罰スル旨ヲ規定シタルハ犯罪主體ノ異ル場合ヲ規定シタルニ過キスシテ一犯罪主體カ著作ノ行爲ト發行行爲ヲ併セシタル場合ハ刑法第五十四條ノ所謂手段結果ノ行爲ニ外

ナラサルカ故ニ之ヲ一箇ノ行爲トシテ處罰スヘキモノニシテ之ヲ別箇ノ犯罪トシテ處罰スルハ法ノ適用ニ誤謬アリト云ハサルヘカラス蓋シ出版法第二十七條ニ於テモ著作者發行者ト規定シ特ニ(者)ノ文字ヲ用ヒタルノミナラス同法第一條ニ於テモ編纂シ又ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト謂ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト謂ヒ何レモ「者」者ト謂ヒ「ノ」文章ヲ用ヒ之ト同法第二十七條ノ著作者發行者ノ文意ト對照スルニ同法第二十七條ハ犯罪主體ノ異ル場合ニ於テノミ適用アルモノナルコト明カナリ蓋シ出版法第二十七條カ著作者ヲモ處罰スヘキ旨ヲ規定シタルハ著作者ハ文書ノ内容ヲ作爲スルモ之カ風俗壞亂タルヘキ社會ニ對スル影響ニハ直接關係ヲ有セサルカ故ニ假ニ猥褻ノ記事ヲ以テ著作スルモ風俗壞亂ヲ理由トシテ處罰シ能ハサルモ多クノ場合共犯又ハ幫助ノ關係ヲスルカ故ニ之ヲ處罰セントスル法律ノ趣旨ナルコト明カナリ從テ一箇ノ犯罪主體ニ於テ著作ト發行ノ行爲ヲ併行シタリトスルモ之ヲ數罪トシテ處罰スヘキ法意ニ非ス故ニ本件ニ於テ原審カ被告ノ著作行爲ト發行行爲ニ付各別ニ之ヲ處罰シタルハ原審カ法律ノ適用ニ誤謬アルノミナラス刑量又之ニ伴ヒ重キニ失スルノ結果ニ至レルモノナリト云フニアリ

【要旨第二】

然レトモ假令同一人カ著作者ト發行者トヲ兼ネテ出版法第二十七條ニ違犯シタルト雖恰モ別人カ著作者及發行者トシテ敍上ノ規定ニ違犯シタル場合ト均シク各別ノ犯罪成立スヘキヲ以テ同法第三十二條ニ依リ其ノ刑ヲ併科スヘキモノトス蓋シ著作者トシテ同條違犯ノ行爲ヲ爲スト其ノ發行者トシテ同條

違犯ノ行爲ヲ爲ストハ各別箇ノ行爲ナルヲ以テ同一人カ各別ニ犯スコトヲ得ヘケレハナリ原判示ニ依レハ被告人ハ著作者及發行者トシテ風俗ヲ壞亂スル文書ヲ出版シタリト云フカ故ニ同法第三十二條ニ依リ各別ニ刑ヲ量定シテ之ヲ併科スヘク刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ原判決ニハ法律適用ノ誤謬ナク又記録ニ徵スルモ被告人ニ對スル科刑甚シク重ニ失シタリト見ルヘキモノアルヲ認メス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○常習特殊竊盜及常習累犯竊盜被告事件

(昭和七年(九)第七七五號
同年八月六日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 植村 金助 辯護人 坂田 幸太郎

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

竊犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂常習ノ意義

○判示事項

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂常習ノ意義

○判決要旨

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂常習トハ反覆シテ同法律所定ノ條件ニ依ル竊盜又ハ強盜ヲ爲ス習癖ヲ謂ヒ其ノ行爲力ニ以上ナリトスルモ單純一罪ヲ以テ處斷スヘク連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

【參照】

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第二條

常習トシテ左ノ各號ノ方法ニ依リ

刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ

其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ對シ竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ三年以上、強盜ヲ以テ論

ズベキトキハ七年以上ノ有期懲役ニ處ス

一 兇器ヲ攜帶シテ犯シタルトキ

二 二人以上現場ニ於テ共同シテ犯シタルトキ

三 門戶牆壁等ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造

物若ハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ

四 夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シタルトキ

同第三條 常習トシテ前條ニ掲ケタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ

シテ其ノ行爲前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上

六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科

スヘキトキハ前條ノ例ニ依ル

刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一罪トシ

テ之ヲ處斷ス

○事實

第二審ハ左記事實ヲ認メ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第二條第三條刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シテ被告人ヲ懲役五年ニ處シ押收ニ係ル證第三號(俗稱ヤットコ)及證第四號(伸金底取)ハ各之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ(甲)大正十三年十一月二十九日姫路區裁判所ニ於テ竊盜罪ニヨリ懲役十月ニ(乙)同十四年十二月二十五日伊丹區裁判所ニ於テ同罪ニヨリ同二年ニ(丙)昭和三年六月十一日大津區裁判所ニ於テ同罪ニヨリ同三年六月ニ各處セラレ何レモ其ノ當時夫々右刑ノ執行ヲ了リ居タルモノナル處常習トシテ

- 一 昭和七年二月二十二日午前三時頃岡山市天瀬煙草小賣竝雜貨商淺野政吉方表硝子戸ヲ俗稱ヤットコ(證第三號)ヲ以テ開キ同所ヨリ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル錢箱中ヨリ同人所有ノ現金約九十錢ヲ

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂常習ノ意義

- 二 同月二十四日午前二時頃岡山縣上道郡西大寺町紙商本田政次郎方表戸ヲ前同様外シテ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約七圓在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 三 同日午前五時頃同所八百物商升也孫四郎方表戸ヲ前同様外シテ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約二十錢在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 四 同月二十八日午前三時頃岡山市難波町八百物商西田千代方表戸ヲ伸金底取(證第四號)ヲ以テ外シ同所ヨリ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約二圓十錢在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 五 同年三月四日午前一時頃同市瓦町煙草小賣商野村靜雄方表硝子戸ヲ外シテ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約二圓ヲ
- 六 同日午前三時頃同市濱田町酒商横山稔方表硝子戸ヲ前記ヤットコヲ以テ外シ同所ヨリ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル机ノ抽斗中ヨリ同人所有ノ現金約三圓金側腕時計及鍵數箇ヲ
- 七 同日午前四時過頃同市船頭町時計商中川熊八方表硝子戸ヲ前同様開キテ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル机ノ抽斗中ヨリ同人所有ノピンセット一箇ヲ
- 八 同月六日午前一時頃倉敷市濱田町菓子商大倉一義方表硝子戸ヲ前記伸金底取ヲ以テ外シ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約四圓在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ

- 九 同日午前四時頃同市大黒町中村理髮店方表硝子障子ヲ外シテ屋内ニ侵入シ店ノ間ニアリタル同家ノ現金約十二錢在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 十 同月九日午前一時頃岡山市下石井食料品商島越寛一方表硝子ヲ前記ヤットコヲ以テ外シ同所ヨリ屋内ニ浸入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノ現金約一圓八十錢在中ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 十一 同日午前二時頃同市下田町金物機械商西中多次郎方表硝子戸ヲ開キテ屋内ニ浸入シ店ノ間ニアリタル同人所有ノナシヨナル金錢器一箇ヲ
- 十二 同日午前二時過頃屋内ニ侵入シテ竊盜ヲ爲サントシ右西中多次郎方隣家印刷業今倉正英方窓硝子障子ヲ開キタルニ鐵格子ノ設備アリタルニヨリ屋内ニ侵入スルコト能ハス其ノ儘鐵格子ノ間ヨリ手ヲ差入レ屋内ニアリタル財布四五箇ヲ
- 夜間他人ノ住居ニ侵入シ竊盜スルノ方法ニヨリ竊取シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ハ縷々述フル所アルモ之ヲ要約スルニ自分ハ昭和六年十二月十一日滋賀刑務所ヲ出テ大阪市ニ於テ小道具ヲ買入レ岡山市内山下七十番地ノ實兄蕪崎幸吉方ニ寄寓シ二十六七町離レタル

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂常習ノ意義

旭町瓦製造業橋本淨方へ瓦ノ製造ニ雇ハレ其ノ後同町ノ工場近ク十日市ニ轉宅シ昭和七年三月八日午前一時半頃雨宿リノ爲岡山驛ニ入り居眠リシテ居ル所ヲ不審ノ點アリトシテ引致サレタルモ自分ハ原判示ニアル如キ犯罪ヲ爲シタルコトナシ警察官ニ對スル聽取書ニハ私ニハ前科アル爲虚偽ノ事實ヲ警察官ノ口ニ合セル様ニ陳述シタル記載アリ原判示事實ノ相違スルコトハ私ノ日記(昭和七年二月二十一日ヨリ翌三月七日マテ掲載)ニ依ルモ明ナリ(1)證第三四號ハ何レモ岡山ニ於テ買求メタルモノニシテ(2)判示ナシヨナル金錢器七箇ハ證據トシテ現存セス(3)判示(二)(三)ノ日ハ西大寺會式ニテ晝夜警戒嚴ナル時ナレハ家宅侵入出來ヌ場合ナリ(4)判示(六)(七)被害者ノ所ハ二十町モ離レ被害者中川熊八方ハ人通頻繁ナレハ屋内ニ侵入スルカ如キコトハ出來得ル理由ナシ(5)判示(十)(十一)(十二)ノ行爲ハ午前一時頃ヨリ同二時頃ニ互ル約一時間内ニ三箇所ニ於テ竊盜スルコトハ不能ナリ(6)私ハ本年三月八日午前二時頃警官ニ引致サレタルモノナレハ判示三月九日ノ行爲ハ出來得ル理由ナシ(7)參考ノ端書ハ橋本淨方三月七日私カ拘引サル迄仕事ニ通ヒ居リタル計算ニ關スル立證ナリ要之原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アリ尤モ自分ハ昭和七年二月二十九日岡山市藤野町ノ共同便所ニ於テ時計ト鍵トヲ拾ヒタル點ハ遺失物拾得罪トナルヘキモ盜罪ニ付テハ全然責任ナシ次ニ原判決ハ常習特殊竊盜ノ罪ニ依リ(一)乃至(十二)ノ行爲ヲ連續犯トセスシテ刑法第五十四條第一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ失當アリト言ヒ辯護人坂田幸太郎上告趣意書事實認定ノ資料タル證據ノ證明力カ判事ノ自由ナル心

證ニ任セラレタリトハ言ヘ憶測的ニ事實ノ認定ヲ爲サシムルモノニアラス實驗ノ法則ニ即シタルモノナルコトヲ要ス而シテ實驗ノ法則トシテハ(一)現實ニ目撃シタルカ(二)被告人ノ自由意思ニ基ク自白ナルカ(三)演繹的法理ニヨルカ右三者ノ外ニ出テス而テ第二審判決ノ示ス理由中ニハイ、現實ニ目撃シタルモノハ被害者竝ニ他ノ何人モナシロ、被告人ハ警察官及檢事ノ訊問ニツキテハ自白セラルモ之ハ自由意思ニ基ク自白ニアラス何トナレハ第一審竝ニ第二審裁判所ニ於ケル被告人ノ供述ニ明カナル如ク一時ノ苦ヲ免レンタメノ自白ニ外ナラス眞實自白スル意思ヲ以テ自白シタルニ非スハ、第二審裁判所ノ判決ニ於テ示ス理由ニ因レハ被害者ノ盜難屆盜難始末書及被告人ノ所持セル鍵ヤットコ伸金底取時計被告人自白等ニヨリ事實ト符合セルノ故ヲ以テ犯罪アリト認定セラレ居ルモ第一被告人ノ自白ナルモノハ前述ノ通り自由意思ニ基ク自白ニアラス故ニ事實認定ノ資料タルノ資格ナキヤ明カナリ第二被害者ノ盜難始末書盜難屆モ眞實ニ該當スルトスト爲スハ不當ナリ一步讓リテ被害者ノ提出セル書面内容ノ事實カ眞實ナリトスルモ何故ニ右記載ノ物件ヲ所持シ居レハ犯罪者ナリヤ公判廷ニ於ル被告人ノ供述ニ因レハ被告人ハ前記時計ハ拾得シタルモノニシテ鍵ハ拾得セリト陳述シ居リヤットコ伸金底取ノ用法上ニツキテモ被告人ノ考案セントスル器具ノ作成ニハ必要缺クヘカラサルモノニシテ敢テ右器具ヲ家宅侵入ニ使用シタルモノト斷スルハ其ノ意ヲ解スルヲ得ス凡現象界タルヤ現象ハ無數且ツ同一ノ存在ナシ吾人モソノ一現象故ニ人類ノ行爲モ同一存在ナルモノナシ只類似ナルモノアル

ノミ類似スルノ故ヲ以テ真ナリト斷シ符合スルノ故ヲ以テ犯罪者ナリト斷スルヲ得ス要スルニ第二審裁判所ハ時計鍵ヤットコ伸金底取ヲ所持シ居ルモノハ皆竊盜ヲナスモノナリトノ憶測ニ因ル認定ヲ以テ犯罪者ナリト認定シ經驗ノ法則ヲ没却シタル斷定ナリ何トナレハ憶測ハ法則ニ非サルヲ以テナリ裁判所ノ自由心證ハカカル憶測的判斷ヲ内容トスヘキモノニ非ラス一般的ニ真ナリト認メ得ラルヘキ方法即チ經驗ノ法則ヲ準據トスル判斷方法ニ因ラサルヘカラス判斷ノ方法誤リ居ル故ニ其ノ認定モ誤謬ナリト言ハサルヲ得ス第二審判決ハ誤謬ナル事實ヲ基礎トシテ認定セラレタル判決ナルヲ以テ事實ニ即シタル正當ナル判決ト言フヲ得ス而モ右事實以外ニ犯罪アリト認定スルニ足ルヘキ事實ナキヲ以テ第二審裁判所ノ判決ヲ破毀シ證據不充分トシテ無罪トスヘキモノナリト言フニ在リ

【要旨】

然レトモ記録ヲ按スルニ原判決カ證據ニ引用セル被告人ニ對スル司法警察官ノ聽取書ノ供述記載ハ措信スヘカラサル理由ナク又原審ハ經驗上ノ法則ヲ没却シテ事實ヲ認定シタルモノト認メ難シ從テ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルヲ見ス而シテ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ニ所謂盜罪ノ常習トハ反覆シテ同法律所定ノ條件ニ依ル竊盜又ハ強盜ヲ爲ス習癖ヲ謂ヒ其ノ行爲ノ數如何ニ拘ラス單純一罪ヲ以テ處斷スル法意ナリト解スヘキモノトス從テ其ノ本質ハ一種ノ慣行犯ヲ以テ視ルヘク其ノ成立ニハ意思ノ繼續ヲ必要トセサルモノナレハ假令同一ノ意思ヲ繼續シテ行爲ヲ數回反覆シタルトキト雖一箇ノ集合犯ヲ構成スルニ過キス之ヲ連續犯トシテ論スヘキモノニ非サルコト更ニ論ヲ俟タサルナリ原

判決ハ敍上ノ見解ニ基キ被告人ノ行爲ニ對シ昭和五年法律第九號盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第二條第三條刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シテ處斷シタルハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○公文書變造行使詐欺逃走被告事件

(昭和七年(九)第七七六號
同年八月六日第三刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 若松正一 辯護人 市原 統

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○ 判示事項

連續行爲ト刑法第四十五條ノ適用

連續行為ト刑法第四十五條ノ適用

○判決要旨

單一ノ犯意ニ基ク同種ノ犯罪行為ノ反覆中他ノ罪ニ依リ有罪ノ確定判決ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ犯意ノ繼續ハ中斷セラルルモノトス

【參照】 刑法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トシ、若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

共通法第十八條 一ノ地域ニ於テ刑事ノ訴訟若ハ即決處分又ハ假出獄ニ關シテ爲シタル裁判、處分其ノ他ノ手續上ノ行為ハ他ノ地域ニ於ケル法令ノ適用ニ關シテハ其ノ地ニ於テ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條第一項但書ノ規定ハ私訴ニ之ヲ準用ス

關東州犯罪即決例第六條 即決ノ言渡ハ正式裁判ノ申立期間ノ經過ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス

○事實

第二審判決ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ判示第一ノ罪ニ付懲役六月ニ處シ判示第二ノ罪ニ付懲役一年ニ處シ判示第三ノ罪ニ付懲役一年六月ニ處ス但シ其ノ未決勾留日數中原審ノ分百五十日(昭和二年五月二十四日附勾留狀ニヨルモノ)ヲ右第一ノ罪ノ本刑中ニ同上中三百日(昭和四年十二月十八日附勾留狀ニヨルモノ)ヲ右第三ノ罪ノ本刑中ニ當審ノ分百二十日ヲ右第三ノ罪ノ本刑中ニ夫々算入ス押收ニ係ル郵便貯金通帳四通(昭和二年押第五二二號ノ中九、一〇及昭和四年押第一一九七號ノ一、二)中ノ各變造部分木判四箇(昭和二年押第五二號ノ二及昭和四年押第一一九九號ノ五乃至七)セルロイド一枚(昭和四年押第一一九九號ノ一〇)藥品二塊(押同上ノ一、二)彫刻用小刀九箇(昭和二年押第五二二號ノ一、昭和四年押第二四四號ノ五)及小瓶入水藥一箇(昭和四年押第二四四號ノ一〇)ハ何レモ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 郵便貯金通帳ノ預入高記載欄ノ文字ヲ擅ニ改竄シテ恰モ眞實以上ノ金額ヲ預入レタルモノノ如ク裝ヒテ郵便局ヨリ金錢ヲ騙取セント企テ犯意ヲ繼續シ昭和二年四月三十日頃曩ニ架空人川口義雄外二名ノ名義ヲ以テ郵便貯金ヲ爲シ東京市神田區神田駿河臺郵便局ヨリ交付セラレタル川口義雄ノ記號番號いはる一一五六二號(昭和二年押第五二二號ノ一〇)同區神田橋郵便局ヨリ交付セラレタル山口義夫名義ノ記號番號い字二七二八四號(押同上ノ九)及同區神田猿樂町郵便局ヨリ交付セラレタル野中正雄名義ノ記號番號いとも二七九六五號ノ各郵便貯金通帳ヲ東京驛構内ニ持參シ其ノ受入高欄ニ夫々金額八拾五錢ト記載シアリタルヲセルロイドヲ溶解セル醋酸アミユール液ヲ用ヒテ其

連續行為ト刑法第四十五條ノ適用

ノ「錢」字ヲ抹消シ其ノ跡ニ夫々一圓」字ヲ捺捺顯出シ以テ前示各郵便局長カ夫々八十五錢受入ノ當日恰モ金八拾五圓宛ヲ預リタルモノノ如ク其ノ印章アル右各通帳預入高欄ノ記載ヲ夫々變造シ

第二 其ノ後右犯行發覺シテ東京地方裁判所ニ起訴セラレ其ノ保釋出獄中昭和三年七月十九日大審院ニ於テ本件發生前ニ犯セル有價證券偽造行使詐欺罪ニ依リ懲役一年二月ニ處シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ確定判決ヲ受ケタルカ

(一) 越ヘテ同年八月二十一日頃朝鮮京城府龍山郵便局ニ到リ架空人緒方正夫名義ヲ以テ金二十一圓ヲ預入レ同局ヨリ朝ぼの四五七九四番貯金通帳一通ノ交付ヲ受クルヤ之ニ前同様ノ醋酸アミユール液ヲ塗付シタル上同月二十二日頃ヨリ同年十月十三日頃迄ノ間前後十回ニ合計三百五十圓五十錢ノ預入ヲナシ同年九月中旬頃行使ノ目的ヲ以テ當時其ノ止宿シ居リタル京城府黃金町上山勇仕方ニ於テ該通帳受入高欄内ノ記載ヲ前同様抹消シ其ノ跡ニ木判ヲ用ヒテ眞實預入レタル金額以上ノ數字ヲ記入シ以テ恰モ同局長カ合計千三百七十圓以上ノ郵便貯金ヲ受入レタルモノノ如ク記載シテ右郵便局長ノ印章アル該通帳預入高欄ノ記載ヲ夫々變造シ次テ同月十九日龍山郵便局ニ到リ係員ニ前記通帳ヲ提出シテ其ノ中ノ右記變造公文書全部ヲ夫々行使シ因テ同局係員ヲ欺罔シタル上其ノ場ニ於テ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ金額一千圓ノ朝鮮銀行券一枚ヲ騙取シ

(二) 同年十一月二十四日關東廳遞信局ノ監督ニ屬スル滿洲安東縣南滿洲鐵道株式會社附屬地内ノ

安東縣郵便局ニ赴キ架空人坂本榮吉名義ヲ以テ金百五十圓ヲ預入レ同局ヨリ滿ろ二〇三八二番貯金通帳ノ交付ヲ受クルヤ之ニ前同藥液ヲ塗布シタル上同月二十六日ヨリ同年十二月十四日迄ノ間七回ニ合計七十一圓ノ預入ヲ爲シ其ノ間二回ニ合計二百二十圓ノ拂戻ヲ受ケ差引一圓殘高ヲ剩スノミトナリタルカ同年十二月十五日頃行使ノ目的ヲ以テ安東縣旅館家庭館ニ於テ右通帳受入高欄内ノ記載ヲ前同様抹消シ改竄シ以テ恰モ同郵便局長カ右ノ期間内ニ合計一千五、六百圓ノ郵便貯金ヲ受入レタルモノノ如ク記載シテ其ノ印章アル前記通帳受入高欄ノ記載ヲ夫々變造シ次テ同月二十八、九日頃前後三回ニ右郵便局係員ニ該貯金通帳ヲ提出シテ其ノ中ノ前記各變造公文書ヲ夫々行使シ以テ係員ヲ欺罔シタル上夫々其ノ場ニ於テ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ額面合計一千四百二十圓ノ朝鮮銀行券(三枚)ヲ騙取シ

第三 其ノ後前項記載ノ犯行發覺シテ朝鮮釜山ノ官憲ニ檢舉セラレ次テ滿洲安東縣所在ノ帝國領事館ニ送致セラレタル上昭和四年二月七日在安東日本領事館警察署警視尾崎三郎ヨリ關東州警察犯處罰規則第一條第四十七號ノ反則者トシテ拘留十六日ニ處スル旨ノ即決言渡ヲ受ケ其ノ確定執行後更ニ前記領事館檢事事務取扱木原新一郎ヨリ公文書偽造行使詐欺被疑事件ニ關スル起訴前ノ強制處分トシテ昭和四年二月二十四日ニ勾留狀ヲ發セラレ其ノ執行ヲ受クルニ至リタルカ之ヨリ前同月二十二日ニハ東京地方裁判所カ前項冒頭記載ノ保釋決定ヲ取消シタル爲前記領事館檢察當局ハ東京地方裁

判所檢事局ノ囑託ニ基キ同裁判所ノ發セル勾留狀ニ依リ被告人ヲ同廳管下ノ刑務所ニ押送セントシテ其ノ指揮ヲ爲スニ至リタリ然ルニ被告人ハ

(一) 其ノ途次滋賀縣大津警察署巡查河本政雄護送ノ下ニ三重縣拓植署ニ到ラントシテ其ノ搭乘セル列車カ同年三月八日午後七時四十分頃滋賀縣甲賀郡大原市場驛ヨリ三重縣阿山郡柘植驛ニ向ヒテ進行中河本巡查ノ隙ヲ視ヒ車中ヨリ飛降りテ逃走シ

(二) 其ノ後同年五月二十五日頃架空人杉田半助名義ヲ以テ東京市淺草區淺草北松山郵便局ニ金五十五錢ヲ預入レ同局ヨリいとゆ三九七六〇番貯金通帳ノ交付ヲ受クルヤ之ニ前同溶液ヲ塗布シタル上其ノ後三回ニ合計二圓六十錢ノ預入ヲナシ同月二十九日頃行使ノ目的ヲ以テ東京府北多摩郡小金井驛附近ノ原野ニ於テ右通帳受入高記入欄内「錢」字ヲ前同様抹消シテ其ノ跡ニ木判ヲ以テ「圓」字ヲ夫々押捺顯出シ以テ恰カモ同郵便局長カ右ノ時日ニ合計百數十圓ノ受入ヲ爲シタルモノノ如ク記載シ以テ其ノ印章アル前記通帳受入高欄ノ記載ヲ夫々變造シ次テ同月三十日同郵便局ニ該通帳ヲ提出シテ其ノ中ノ前記各變造公文書ヲ夫々行使シ因テ同局係員ヲ欺罔シタル上其ノ場ニ於テ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ金百圓ヲ騙取シ

(三) 次テ同月三十一日名古屋市ニ到リ架空人石川佐太郎及福田敬二ノ名義ヲ以テ夫々同市新榮町郵便局及同市名古屋代官郵便局ニ各金五圓ヲ預入レテ夫々わほい二〇三七〇番及わほさ一三四四

七番貯金通帳各一通(昭和四年押第一一九九號ノ一、二)宛ノ交付ヲ受ケタル上石川分ノ通帳ニ依リ右新榮町郵便局ニ(イ)同年六月一日金三圓同月三日金一圓翌日金一圓八十五錢同月五日金一圓七十五錢同月七日金二圓翌八日金七圓同月十二日金四圓(ロ)同年六月十七日金十圓ヲ預入レ又其ノ前後ナル同年六月十日金二十圓同月十八日金十五圓ノ各拂戻ヲ受ケ(此ノ分ノ殘高六十六錢也)尙ホ福田分ノ通帳ニ依リ名古屋代官郵便局ニ(イ)同月一日三日七日ノ三回ニ各金一圓宛同月四日金一圓七十五錢翌五日金二圓(ロ)同月十日金十圓同年七月二十二日金十五圓同年九月二十四日金十圓ヲ各預入レ(ハ)同年六月十二日金二十圓同月二十一日金一圓(ニ)同年九月二十六日金二十圓ノ拂戻ヲ受ケ(此ノ分ノ殘高五圓七十五錢也)タルカ同年六月二十二三日頃行使ノ目的ヲ以テ名古屋築港附近ノ原野ニ於テ石川分ノ通帳中(イ)ノ各受入高記載欄及福田分ノ通帳中(イ)ノ各受入高記載欄(ハ)ノ拂出高記載欄ノ各記載ヲ前同様夫々抹消改竄シ以テ恰カモ前記石川分ノ通帳中(イ)ノ預入欄ニ於テハ其ノ日時ニ新榮町郵便局長カ合計金千二百圓ノ受入ヲナシ福田分ノ通帳中(イ)ノ預入欄ニ於テハ合計金千四百八十五圓ノ受入(ハ)ノ拂出欄ニ於テハ合計金百二十五圓ノ拂出ヲ夫々名古屋代官郵便局長カ爲シタルモノノ如ク記載シ以テ各右郵便局長ノ印章アル前記貯金通帳二通ノ各受入高記載欄及拂出高記載欄ノ記載ヲ變造シタル上同年七月下旬前後三回ニ石川分ノ通帳ヲ右新榮町郵便局ニ提出シテ其ノ中ノ前記變造公文書ヲ夫

々行使シ因テ同局長渡邊鑄三郎ヲ欺罔シタル上其ノ都度同局ニ於テ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ合計金九百五十圓ヲ騙取シ更ニ同年九月二十六日前記福田分ノ通帳ヲ名古屋代官郵便局ニ提出シテ其ノ中ノ前記各變造公文書ヲ夫々行使シテ前記(ニ)ノ金二十圓ノ拂戻ヲ受ケタル外尙ホ同月三十日右通帳ヲ同局ニ提出シテ前同様其ノ中ノ變造公文書ヲ夫々行使シ以テ同局係員ヲ欺罔シタル上即坐ニ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ金一千圓ヲ騙取シ

(四) 同年七月一日架空人井上武夫名義ヲ以テ東京府豊多摩郡代々幡町笹塚郵便局ニ金一圓ヲ預入レ同局ヨリいぬく一〇五五二番貯金通帳一通ノ交付ヲ受クルヤ前同藥液ヲ之ニ塗布シタル上同月二日更ニ金八十五錢ヲ預入レ其ノ旨ノ記入ヲ得次テ行使ノ目的ヲ以テ同日前記小金井驛附近ノ原野ニ於テ前同様右通帳受入高記入欄内ノ「錢」字ヲ抹消シテ其ノ跡ニ「圓」字ヲ顯出シテ恰カモ同郵便局長カ當日金八十五圓ヲ受入レタルモノノ如ク改竄シ以テ其ノ印章アル右通帳受入高欄ノ記載ヲ變造シタル上同月四日該通帳ヲ同郵便局ニ提出シテ其ノ中ノ前記變造公文書ヲ行使シ因テ同局係員ヲ欺罔シタル上其ノ場ニ於テ郵便貯金拂戻名義ノ下ニ金七十圓ヲ騙取シタルモノナリ

以上判示第二及第三項記載ノ各犯行中夫々其ノ同一罪名ニ係ル分ハ何レモ繼續ノ犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第一百五十五條第二項第一項第五十五條ニ該當スルトコロ所犯ノ情狀ニ憫諒スヘキモノ無シトセサルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第三號ニ依リ其ノ刑ニ酌量減輕ヲ施シタル範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘク次ニ被告人ノ判示第二ノ所爲中公文書變造ノ點ハ刑法第一百五十五條第二項第一項第五十五條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第一百五十八條第一項第五十五條第二項第一項第五十五條ニ其ノ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スル所右三者ノ間ニハ順次ニ手段タリ結果タル關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ牽連ノ一罪トナシ其ノ最モ重シト認ムル變造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク最後ニ判示第三ノ所爲中逃走ノ點ハ刑法第九十七條ニ其ノ公文書變造ノ點ハ刑法第一百五十五條第二項第一項第五十五條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第一百五十八條第一項第五十五條第二項第一項第五十五條ニ其ノ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ後三者ノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ牽連ノ一罪トシテ犯情重シト認ムル變造公文書行使罪ノ刑ニ從フヘク而シテ之ト前記逃走ノ罪トハ併合罪ニ係ルヲ以テ刑法第四十七條本文及但書第十條ニ依リ重キ前者ノ刑ニ法定ノ併合加重ヲ爲シタル範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク尙ホ主文掲記ノ押收物件ハ何レモ被告人ノ本件犯行ニ因リテ生シ若クハ被告人カ其ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルモノト認ムルヲ

以テ總テ刑法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スルヲ相當トス仍テ未決勾留日數ノ算入ニ付刑法第二十一條訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ夫々適用スルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人市原統上告趣意書第五點原審判決ニ第一ノ罪ニ付懲役六箇月第二ノ罪ニ付懲役一年第三ノ罪ニ付懲役一年六箇月ニ處ストアリテ第一第二第三ノ罪ヲ各獨立シタル罪トシテ判決御言渡アリタルモ如何ナル理由ニ基キ如何ナル法律ノ適用ニ依リテ夫レ夫レ獨立ニ處罰サルヘキモノナルカノ理由竝ニ法律適用ノ記載ナキハ不法ナルノミナラス第一第二第三ノ罪ハ逃走罪ハ別トシテ凡テ郵便局ニ對スル貯金帳ニ改竄ヲ加ヘテ財物ヲ不法ニ取得セントシ又ハ取得ヲ完了セルモノニ外ナラス所謂同種同質ノ罪名ニシテ上告人ノ意思ヨリスレハ最初ヨリ概括繼續ノ犯意ニ出テソノ決意ノ遂行トシテ以上第一以下第三ノ行爲ノ行ハレタルモノニ外ナラス時間ノ關係ニ於テモ短期間内ニ如上ノ行爲ノ反覆セラレタルモノナルカ故ニ繼續シタル一箇ノ決意ニ出テタルモノト認ムルヲ相當トスヘク他ニ決意ノ繼續ヲ否定スヘキ特別ノ理由アルニ非ス或ハ第一審判示ノ如ク第一ノ事實ニ付テハ其ノ後ニ於テ被告人カ前ニ犯シタル詐欺事件ノ判決確定シタルカ故ニ亦第二ノ事實ニ付テハ安東領事館警察署ニ於テ二週間勾留ス

ヘキ即決處分確定シタルカ故ニ何レモ刑法第四十五條後段ニヨリ併合罪ノ處分ノ場合ニ該當シ各分離判決ヲ爲スヘキ場合ナリトセラレタルハ之ヲ想像シ得サルニ非ス然レトモ併合罪ハ各自獨立シタル別箇ノ犯罪カ二箇以上存セシ場合ヲ想像シタル規定ニシテ本件ノ如ク連續シタル犯罪トシテ當然刑法第五十五條ニ因リ一箇ノ犯罪ト爲スキヘ場合ヲ包含セス若シ之ヲ刑法第四十五條後段ニヨリテ處置セザルヘカラストセハ上掲第一事實以下第三事實ニ至ル迄全部一括シテ一箇ノ犯罪トシテ併合セザルヘカラサル理論トナルヘキモノナラサルヘカラス法文ニ裁判確定前ニ犯シタルモノヲ併合罪トストアルハ裁判確定前ニ犯サレ尙之ヲ繼續シツアルモノヲ分割シテ別箇ニ處斷スト解スヘキモノニハ非サルカ如シ泉二博士ノ學說ヲ見ルニ連續犯ノ一部ヲ指摘シテ起訴シタル時ト雖裁判所ハ其ノ全體ニ付テ審判スルヲ要ストセラレ(日本刑法論五九九)然レトモ連續犯カ一罪トシテ處斷セラルルハ事實ヲ認定スル裁判所ノ審理ニ屬シ得ル範圍ニ留ルモノニシテ其ノ以後ノ行爲ハ更ニ別箇ノ犯罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス但シ上述ノ範圍ヲ決定スルノ標準トナルヘキ時期ニ付テハ學者ノ見解一致セス或ハ第二審裁判所ニ於テ事實審理ヲ終結シタル時期ヲ標準トナスヘキモノナリトシ或ハ同裁判所ノ判決言渡時期ニ仍ルヘキモノナリトシ或ハ同判決確定時期ニ仍ルヘキモノナリトス蓋シ正解ハ第二ノ見解ニ在リ何トナレハ裁判所ハ判決言渡前ニ在リテハ何時ニテモ審理ヲ再開シ得ルト共ニ言渡後ハ再審理ヲ爲スノ餘地ナケレハナリトセラレタリ(日本刑法論六〇〇頁)刑法ノ大家泉二博士ノ所論ニヨルモ以

上ノ如シ即之ヲ本件ニ適用スル以上論述シタル第一第二第三ノ事實ハ何レモ第二審判決言渡遙ニ以前既ニ第一審ノ裁判ノ際全部裁判所ニ明白ニ表レタル事實ナルカ故ニ第一乃至第三ノ事實ハ當然連續セル一罪トシテ其ノ審理ヲ爲スヲ要スヘク裁判所ハ其ノ審理ノ結果ニ基キ一箇ノ判決ニ於テ其ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルハ明瞭ナリトス原審ニ於テ第一事實カ分離セラレサルヘカラサル理由トシテ第一事實以前ニ犯サレタル別箇ノ事件カ第一事實ノ審理中ノ確定判決ヲ受ケタルモノナルカ故ニ其ノ判決確定ノ當時ニ遡ツテ之ヲ考フルニ當時確定スヘキ別箇ノ事件ノ外既ニ豫審ノ終了シタル第一事實アリタルモノナリ此ノ兩者ハ當然併合罪ノ關係ニ在ルヘキモノニシテ只其一箇カ既ニ大審院ニ繼續シタルカ故ニ併合シテ判決ヲ下スヲ得ス併合罪ニ付將來二箇ノ判決カ下サルヘキ場合トナリ其ノ當然ノ結果トシテ原審ニ於テ第一事實ヲ獨立シテ判決ヲ下シタルコトハ之ヲ想像シ得サルニ非スコレ既ニ論シタル所ナリ然レトモ第一ノ事實カ獨立シテ判斷サルヘキコトハ成程其ノ當時ニ於テハ然リシナラムモ被告人ニ於テ短期間内ニ再ヒ第二第三ノ犯行アリタルコトニ因リテ第一ノ事實ハ最早獨立シテ考ヘ得ヘカラサルニ至リ第一第二第三ノ行爲ハ連續シタル一箇ノ行爲トシテ觀察セサルヘカラサルニ至リタルモノトス從テ此等ノ全部ノ行爲ハ判決確定前ニ犯サレタル行爲ナル性質ヲ失ヒ從テ刑法第四十五條適用範圍外ノモトナルヘキモノト信ス換言スレハ以上ノ場合ニ於テ單ニ四十五條ヲ適用シテ事實ニ反スル分割ノ判決ヲ爲シタルコトハ擬律錯誤トシテ破毀ヲ免レスト論スルヲ得ヘシト信ス殊ニ第二事實

ト第三事實トハ著シク短期間内ニ連續シテ爲サレ豫審終結決定モ同時ニ一箇ノ決定トシテ終了ヲ告ケ第一審公判ニ於テ當然併合審理サレタルモノナルカ故ニ兩箇ノ事實ヲ各自獨立ノモノトシテ犯意ノ繼續ヲ遮斷シテ觀察スヘキ何等ノ理由ナシ原審ニ於テハ此ノ點ニ於テモ各自獨立ノモノトセル理由竝ニ法條ヲ示ササルモ思フニ安東縣ニ於テ違警罪即決裁判アリタルカ故ニ其ノ裁判確定シタルニ因リ第二事實ハ第四十五條後段適用ノ場合ト爲サレ獨立ニ判決ヲ下ササルヘカラサルモノト爲サレタルモノノ如シ案スルニ刑法第四十五條ノ規定ハ連續セル一箇ノ犯罪以外ニ於テ獨立シタル數箇ノ犯罪アル場合ニ於テモ成ルヘク獨立シテ數箇ノ判決ヲ爲スコトヲ避ケ併合審理シテ一箇ノ判決ヲ希望シタル趣旨ナルカ故ニ第一ノ事實ト第二ノ事實ト安東縣ニ於テ拘留ノ裁判確定ノ當時ニ於テハ存在シタルモノナルカ故ニ併セテ之ヲ裁判スヘキヲ適當トスヘク然ルニ司法裁判所以外ニ於テハ之等ノ審理裁判ヲ爲スヘキ權限無ク當然ソノ審理ヲ受理スヘカラス從テ刑法第四十五條ニ於テ確定裁判トハ司法裁判所ニ於ケル判決ニ因ル裁判ノ確定ヲ指示シ安東縣ノ即決言渡ノ如キモノハ之ヲ包含セスト解スルヲ相當ト信ス萬一斯クノ如キ所論ヲ許スヘキモノトセハ既ニ第二第三ノ事實ヲ分割シテ獨立二箇ノ判決ヲ爲シタル點ニ於テモ法條ヲ明示セサル外擬律錯誤ニヨリ破毀ノ御判決ヲ得ラルヘキカト云フニ在レトモ併合罪ハ確定裁判ノ前ニ犯シタル數箇ノ犯罪ノ關係ニシテ此犯罪ト確定裁判後ニ犯シタル犯罪トハ價値ヲ異ニセル別箇ノ犯罪ニシテ累犯ノ關係ヲ生スルモ併合罪ノ關係ヲ生スルコトナク數箇ノ犯罪行爲

カ併合罪ナリヤ否ヤハ上記ノ標準ニ從ヒテ之ヲ決スヘキモノトス又單一ノ意思ニ基キ同種ノ犯罪カ反覆セラルル間ニ他ノ犯罪ニ付有罪ノ確定判決アリタルトキハ法律上其ノ判決以前ニ於ケル敍上反覆犯罪行爲ハ該判決ヲ受ケタル犯罪ト併合罪ノ關係ニアルヲ以テ縱シヤ其ノ反覆セラルル犯罪行爲カ何等カノ事由ノ爲メ之レト共ニ確定判決ヲ受ケストスルモ敍上法律上ノ關係ニ消長ヲ來スヘキ理由アルコトナク從テ此法律上ノ效果トシテ被告人ノ敍上反覆犯罪行爲ニ關スル意思ノ繼續ハ中斷セラレ該確定判決前ニ於ケル犯罪行爲ト其ノ後ニ犯シタル行爲トハ別箇ノ犯罪トシテ處罰スヘク右確定判決ノ前後ニ於ケル反覆行爲カ單一ノ犯意ニ基ケルヲ理由トシテ一罪ヲ成スモノト論スルヲ得ス原判決ヲ查スルニ判示第一ノ公文書變造行爲ト同第二ノ公文書變造行使詐欺行爲トノ間ニ有罪ノ確定判決存シ又右第二ノ同上行爲ト同第三ノ同上行爲トノ間ニ拘留十六日ニ處スル即決言渡ノ確定セル事實アリテ此即決言渡ハ其ノ確定ニ依リ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スヘキコトハ共通法第十八條關東州犯罪即決令第六條ノ解釋上明カナルヲ以テ刑法第四十五條ニ所謂確定裁判ト同一ニ解スヘキモノトス隨テ右第一乃至第三ノ上記判示行爲ハ同法條ニ依リ併合罪ノ關係ヲ生スルコトナキヲ以テ之ヲ各別ニ處斷シタル原判決ハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○刑事補償法ニ因ル補償請求ノ決定ニ對スル抗告事件

(昭和七年(一)第三四號
同年八月八日第二刑事部決定 棄却)

【被告人】 補償請求人 秋山政治郎 代理人辯護人 山本敏雄

【原 審】 大阪控訴院

○判 示 事 項

刑事補償請求ト檢事ニ對スル自白 刑事補償法第四條第二項ニ所謂重大ナル過失

○決 定 要 旨

一被疑者ハ檢事ノ取調ニ對シ犯罪事實ヲ自白シタル場合縱令其ノ自白力眞實ニ合致セス後日無罪ノ確定判決ヲ受ケタルトキト雖

刑事補償請求ト檢事ニ對スル自白 刑事補償法第四條第二項ニ所謂重大ナル過失

當該檢事ノ取調カ不法ニ出テタルモノニ非サル限リ被疑者ハ結局任意ニ虚偽ノ自白ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス【要旨第一】

二 自白ヲ爲ストキハ勾留又ハ起訴等ノ處分ヲ惹起スルニ至ルヘキコトヲ被疑者ニ於テ認識シ得ヘキ場合ニ在リテハ被疑者ノ重大ナル過失ニ因ル行爲力此等ノ處分ノ原由ト爲リタルモノト解スルヲ相當ナリトス【要旨第二】

【参照】 刑事補償法第四條第二項 本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ起訴、勾留、公判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ原由ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サズ

○ 事 實

原審ノ補償請求棄却ノ決定ニ對シ抗告人ヨリ即時抗告ノ申立ヲ爲シ當院ハ被告人ノ勾留ニ因ル刑事補償ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定ヲ爲シタリ

○ 主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

抗告代理人抗告ノ要旨原審ハ抗告人カ第一回檢事聽取書及第二回ノ檢事聽取書ニ陳述シタリトシテ記載サレアル記事カ本件ノ勾留ヲ受ケルニ付抗告人ニ重大ナル過失アルヲ以テ刑事補償法第四條第二項ニ依リ補償請求ハ理由ナキモノトシテ棄却サレタルモ本件勾留ハ決シテ抗告人ノ重大ナル過失ニ因ル行爲アリタリト認メ得サルモノナリ即チ第一回檢事聽取書記載ノ事實ヲ見ルニ抗告人カ須濱徳藏ニ會テ尋ネタ處須濱ハ支村 後藤田 岡田 吉川等ヨリ金千五百圓遺ルカラト云ツテ來タカ人ヲ馬鹿ニシテ居ルトブン／＼怒ツテ居ル最中テ此ノ話ハ止メニスル兄弟水盃ヲシテ木村ト岡村方へ斬込ム馬二十頭餘ヲ連レテ木村へ怒鳴リ込メテ遣ル岡村ト云フ奴ハ惡イ奴タ二年半モ人ヲウロ／＼サシテ置キナカラ報酬ヲ寄越サナイト云ツテ怒ツテ居ツタト記載シ島野ヲシテ岡村ヲ島野宅迄來サセ須濱カドダイ怒ツテ居リ決心シタ兄弟水盃シテ馬二十頭引連レ岡村ト木村へ斬込ムト云ツテ居タカトウシタノテスカト岡村ニ尋ネ居ル記載アリ右ニ依リテモ前記ノ言葉ニ依リ岡村ニ對シ恐喝シテ金員ヲ出金セシメ又ハ不法ナル契約ヲナサシメタル事實ハ認メ得サル事明白ナリ抗告人ハ右文面ニ依リテハ斯ル事ヲ須濱カ云ツテ居タカトウシタノテスカト岡村ニ向ヒ正シタル事ヲ認メラルルニ過キヌ又第二回檢事聽取書ニ同様ノ記載アレトモ其ノ記載ノミニ依リテ直ニ恐喝ノ犯罪アリトシテ即日起訴シ勾留處分ヲ爲スヘキハ餘リニ事實探究セサル嫌アルノミナラス右抗告人ノ陳述ト證據物トシテ押收サレタル本問題ノ契約書

竝五百圓也ノ受渡シトノ間ニ數日間ノ日數ヲ經過シ居ル點ヲ以テシテモ容易ニ抗告人ノ恐喝事實ナキ事ヲ認メ得ラルヘキ状態ニアリタリ依テ抗告人カスル事實ノ陳述ヲナスト雖之ニ依リテ岡村ヲ恐喝シタルモノナリト速斷シ得サルハ勿論斯ル陳述カ勾留ヲ受ケルニ付重大ナル過失行爲ナリト認メ得サル次第ナリ唯抗告人トシテハ一部ノ過失アリタル様思ハルモ之ハ普通過失アリタルニ止マリ右ヲ以テシテハ重大ナル過失ト認メ得サル處ニシテ寧ロ檢察官ノ取調カ事實ノ真相ヲ摺ミ得ル過失カ本件勾留ヲ見ルニ至リタルモノナリ恐喝ナリト決定受ケタル契約證書成立ニ付岡村カ恐怖ノ結果ナシタルモノナリトノ點ハ抗告人ノ右記載ニ依リテハ認メ得サルモノニシテ少クモ寧ロ岡村カ右契約ノ成立ニ付平穩且満足シテ作成シタル事實ヲ認メ得ルモノナリ然ラハ抗告人陳述ノ一部分カタマノ一不利益ノ記載アリタリトスルモ右陳述カ重大ナル過失ナリヤ否ヤハ聽取書全體ヲ以テ判斷セサルヘカラサルモノナリ即チ右契約書ニ基ク金員ハ委任報酬契約書ニ依リテモ明カナレハ抗告人等カ得ヘキ利益金ヲ以テ解決スル筋合ノモノナレハ抗告人カ岡村ヲ恐喝シテ作成スヘキ契約書ノ金員ヲ抗告人ノ利益金ヲ以テ處置スヘキカ如キ事ハ常識上判斷シ得サルモノナレハ此ノ一點ヲ以テシテモ恐喝ノ事實ナキ事ヲ容易ニ知り得ヘキモノナリ斯ル場合ニ於テハ原審認定ノ如ク一局部ニ抗告人ニ不利益ナル記載アリトシテモ之ヲ抹殺シテ尙餘アルモノナレハ重大ナル過失トノ認定ヲ受ケ得ヘキ限ニアラサルモノナリト云フニ在リ

仍テ取寄ニ係ル抗告人等ニ對スル恐喝等被告事件ノ記録中所論抗告人ニ對スル檢事ノ第一二回聽取書ヲ調査スルニ其ノ供述セル内容ハ抗告人ハ島野茂吉ヨリ木村作五郎所有ノ大阪市東淀川區本庄中通四丁目一番地上宅地六百三十二坪ノ賣却周旋方ノ依頼ヲ受ケタルトコロ須濱德藏ヨリ該土地ニ付同人ト管理人岡村德三郎トノ間ニ報酬立退料等ニ關シ紛争ヲ生シ居ルコトヲ聞キ且德藏ニ於テ德三郎ノ處置ヲ憤慨シ居リタルモ同人ニ對シ德三郎ニ對スル報酬等ノ問題ハ自己ニ於テ之ヲ交渉シ遣ハスニ付該土地ニ關スル件ヲ一任セヨト申シ其ノ承諾ヲ得昭和四年五月島野茂吉ニ右事情ヲ告ケ同人ヲシテ德三郎ヲ茂吉方ニ連行カシメ德三郎ニ對シ須濱ハ大變立腹シ斯ウナッタラ兄弟水盃シ馬二十頭程ヲ連レ岡村方ト木村方ヘ斬込ムト云ヒ居ル旨申シ德藏ニ對スル事件ノ解決方ヲ自己ニ一任セシメ遂ニ德三郎ヲシテ須濱兄弟ニ立退料及報酬トシテ金三千五百圓ヲ交付スルコトヲ承諾セシメ須濱兄弟ノ承諾モ得以テ德三郎ヨリ前記土地ノ賣却竝ニ同地上ノ建物取除方ノ委任ヲ受ケ其ノ手数料ハ地主手取三萬四千圓ノ賣却代金ノ剩餘金ヲ以テ之ニ充當スルコトニ爲シタリ尙ホ抗告人ハ須濱カ非常ニ立腹シ兄弟水盃シテ岡村方ヘ斬込ムト云ヒ居リシ旨岡村德三郎ニ云ヒタルカ德藏ハ斯様ノコトハ全然申シ居ラサリシモノニシテ實ハ斯様ノ事ヲ德三郎ニ申シ同人ヨリ須濱ニ報酬立退料ヲ出サセ德藏ヲ此ノ事件ヨリ追出シ土地ノ賣却建物立退等ノ件ハ自己ニ引受ケ利益ヲ得ントシタルモノナル旨ノ記載アリテ此等ノ供述ニ依レハ抗告人ハ被疑者トシテ昭和五年九月十五日當該檢事ノ取調ニ對シ起訴事實ト同趣旨ノ恐喝事實ヲ

【要旨第一】

自白シタルモノト認メサルヲ得ス果シテ然ラハ抗告理由中抗告人ハ檢事ノ取調ニ對シ本件恐喝ノ事實ヲ自白シタルモノニ非サル旨ノ所論ハ理由ナキモノト云フヘシ然リ而シテ被疑者カ檢事ノ取調ニ對シ犯罪事實ヲ自白シタル場合縱シヤ後日無罪ノ確定判決ヲ受ケ其ノ自白カ眞實ニ合致セサルニ至リタルトキト雖當該檢事ノ取調ニシテ拷問又ハ誘導訊問等ノ不法非違ニ出テタルモノニ非サル限り被疑者ハ結局任意ニ虚偽ノ自白ヲ爲シタルモノト認ムヘク苟モ斯クノ如ク被疑者カ任意ニ虚偽ノ自白ヲ爲シタル事實存在シ而モ其ノ自白ヲ爲スニ於テハ勾留又ハ起訴等ノ處分ヲ惹起スヘキ當然ノ原因ヲ生スルニ至ルヘキコトヲ被疑者ニ於テ認識シ得ヘキ場合ニ在リテハ被疑者ノ重大ナル過失ニ因ル行爲カ此等ノ處分ノ原因ト爲リタルモノト解スルヲ相當ナリトス一面記録ヲ調査スルニ本件ノ被疑者タリシ抗告人ノ前被恐喝事實ノ自白カ當該檢事ノ不法訊問ニ基因スル事迹ノ徵スヘキモノナキノミナラス右ノ如キ自白アル以上勾留又ハ起訴等ヲ惹起スヘキ當然ノ原因ヲ生スルニ至ルヘキコトハ抗告人ノ當ニ認識シ得ヘキ所ナリト認メラルルカ故ニ本件ノ起訴勾留及公判ニ付スルノ處分ハ抗告人ノ重大ナル過失ニ因ル行爲ニ基クモノト云ハサルヲ得ス從テ原審カ抗告人ノ補償請求ハ刑事補償法第四條第二項ニ該當スルモノトシテ之ヲ排斥シタルハ相當ニシテ本件抗告ハ理由ナキモノトス

敍上ノ理由ニ基キ刑事補償法第十八條刑事訴訟法第四百六十六條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

【要旨第二】

○收賄贈賄被告事件

(昭和七年(九)第七五三號 棄却)
 同年八月八日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 本間伊之吉 辯護人 一石川時之助
 外一名 小西喜雄
 【第一審】 安濃津地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限——人ノ心理現象ヲ認定スヘキ證據

○判決要旨

一四日市市臨時上水道部副部長ハ部長ヲ補佐スル爲其ノ處理スヘキ一切ノ事務ニ付調査其ノ他ノ行爲ヲ爲シ部長事故アル場合ニハ部長ヲ代理シ部長ノ權限ニ屬スル一切ノ事務ヲ處理スル權限

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ證據

アルモノトス【要旨第一】
二人ノ心理現象ト雖其ノ人自身ノ供述以外ノ證據ニ依リ之ヲ認定
スルヲ妨ケス【要旨第二】

【參照】四日市市臨時上水道部職制第十一條 部長ハ市長ノ命ヲ承ケ部員ヲ統督シ上

水道ノ布設及給水ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ之ヲ代理ス

刑事訴訟法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

○事實

等二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據說明法律ノ適用ヲ爲シ被告人本間伊之吉ヲ懲役五月ニ處シ
未決勾留日數中二十日ヲ本刑ニ算入シ被告人伊之吉ヨリ金五百圓ヲ追徴シ被告人中桐徳三郎ヲ罰金百
圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金二圓ノ割合ヲ以テ換算シタル期間被告人徳三郎
ヲ勞役場ニ留置スヘキ旨ノ判決ヲ言渡シタリ

被告人本間伊之吉ハ大正十五年四月十九日三重縣四日市市技師ニ任セラレ同市ニ於ケル上水道敷設ノ
設計ニ從事シ其ノ後同市ニ於テ其ノ工事ニ着手シ臨時上水道部ヲ設置スルヤ昭和三年十一月五日其ノ
副部長兼主任技師ヲ命セラレ爾來鐵管等ノ指名入札者ノ選定材料購入納品ノ檢收納入期日延期ニ關
スル許否納入期遲滯ニ對スル違約金徵收ノ可否納入品代金支拂ニ對スル許否購入ノ豫算額決定等ニ關

スル職務ヲ執掌シ昭和六年二月三日ノ解職迄其ノ職ニ在リタルモノ又被告人中桐徳三郎ハ大阪住吉
區平野政所町二丁目十八番地ニ於テ中桐鐵工所ナル名義ヲ用ヒ鐵工業ヲ營メル中桐彦太郎ノ養子ニシ
テ同人ニ代リ其ノ營業ニ從事セルモノナルカ

第一 被告人本間伊之吉ハ前記職務ニ從事中

(1) 大阪市浪速區船出町二丁目久保田鐵工所カ四日市市長ト締結シタル上水道用鐵管ノ供給契約
ニ基ク納入物品ノ檢收並納入期延期申請ノ許否等ニ關與シタル處昭和五年十一月四日右鐵工所店
員タル原審相被告人長瀬保治カ納入品代金請求ノ爲右臨時上水道部ニ赴キタル際同人ニ對シ名ヲ
貸借ニ藉リテ金員ヲ要求シ保治カ前示供給契約ニ關スル被告人本間伊之吉ノ職務行爲ニ對スル謝
禮並同人ノ職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ供與セララルモノナルコトヲ知リナカ
ラ同日同市三瀧橋附近ノ路上ニ於テ保治ヨリ金三百圓ノ交付ヲ受ケ以テ收賄シ

(2) 前記中桐鐵工所カ四日市市長ト締結シタル水壓試驗機並上水道用鐵管附屬品制水辨等ノ供給
契約ニ基ク納入物品ノ檢收等ニ關與シタルモノナル處昭和五年十二月十四日大阪住吉區平野政
所町ナル被告人中桐徳三郎方ニ於テ同人ニ對シ名ヲ貸借ニ藉リテ金員ヲ要求シ徳三郎カ前示供給
契約ニ關スル被告人本間伊之吉ノ職務行爲ニ對スル謝禮並同人ノ職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得
タキ趣旨ノ下ニ供給スルノ情ヲ知リナカラ同日同所ニ於テ徳三郎ヨリ金二百圓ノ交付ヲ受ケ以テ

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ
證據

收賄シ

第二 被告人中桐徳三郎ハ昭和五年十二月十四日前記第一ノ(2)ノ如ク自宅ニ於テ被告人本間伊之吉ニ對シ其ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝同人ノ職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ金二百圓ヲ交付シ以テ贈賄シタルモノナリ

而シテ被告人本間伊之吉ノ前記收賄ノ行爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス
證據ヲ按スルニ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク外ハ

1、當院公庭ニ於ケル(イ)被告人本間伊之吉ノ私ハ大正十五年四月十九日四日市市役所技師ニ任セラレ次テ昭和三年十一月五日同市臨時上水道部副部長兼主任技師トナリタルモノナルカ昭和六年二月三日解職トナリタリ四日市市ニテハ昭和三年七月十四日頃市會ニ於テ上水道布設ノ決議アリテ其ノ後工事ニ着手シタルモノナリ原審相被告人長瀬保治ハ大阪市浪速區船出町二丁目久保田鐵工所ノ店員ニテ鐵管販賣及代金取立ノ事務ニ從事シ居タルモノニシテ同鐵工所ハ昭和四年五月二十二日及同月二十八日ノ二回四日市市長ト上水道鐵管ノ供給契約ヲ取結ヒタリシカ昭和五年十一月四日私ハ長瀬保治ヨリ百圓札三枚ヲ受取り其ノ後費消シタリ而シテ長瀬ヨリ返濟方ノ催促アリシコトナク又返濟シタルコトモナシ又被告人中桐徳三郎ノ養父彦太郎ハ鐵工業ヲ營ミ居レルモ實際ノ事業ハ徳三郎カ爲シ居レリ而シテ中桐鐵工所ハ四日市市長ト昭和四年四月十八日及同年五月三十日ノ兩回ニ水

壓試驗機竝ニ上水道用鐵管附屬品制水辨消火栓排氣辨等ノ供給契約ヲ爲シタルモノナルカ私ハ昭和五年十二月十四日判示中桐徳三郎方ヘ行キ同人ヨリ金二百圓ヲ受取りタルコトアル旨(ロ)被告人中桐徳三郎ノ私ハ舊姓ヲ高塚ト云ヒ大正五年二月中桐姓ト爲リタルモノナルカ鐵工業ニ付テハ養父彦太郎ニ代リ私カヤリ居レリ中桐鐵工所ハ昭和四年四月十八日四日市市長ト水壓試驗機一臺ノ供給契約ヲ爲シ其ノ代金ハ一千百十五圓ナリ又同年五月三十日辨栓類ノ供給契約ヲ爲シ其ノ代金ハ二萬四千六百七十四圓ナルカ昭和五年十二月十四日本間伊之吉カ私方ヘ來リシ際私ハ同人ニ金二百圓ヲ渡シタルコトアル旨ノ各供述

2、豫審判事ノ強制處分ニ依ル被疑者本間伊之吉ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ昭和三年十一月頃四日市市ニ於テ愈々上水道工事ヲ始メルコトニナリ市役所内ニ臨時上水道部カ設置サレタルヲ以テ當時ノ土木課長タル小寺松治郎カ其ノ部長トナリ上水道布設ニ關スル萬端ノ事務ヲ取扱ヒ私カ副部長トシテ部長ヲ補佐シ矢張部長ト同様ノ仕事ヲスルカ上水道用ノ鐵管及其ノ附屬品等ノ購入ニ付テモ部長ト相談シタリ納入者ヲモ推薦シタルコトアリ同市ノ上水道ノ鐵管ハ久保田鐵工所ヨリ又其ノ附屬品タル消火栓、制水辨、排氣辨等ハ中桐鐵工所ヨリ購入スルコトニナリタルカソレハ豫メ納入者氏名ヲ定メ其レ等ノ者ニ對シテ納入額ノ入札ヲサセ其ノ最低入札者ヨリ購入スルコトニナシタルカ久保田ト中桐トカ最低入札者ナリシ故兩所ヨリ購入スルコトニナリタルモノナリ而シテ鐵工

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ
證據

所ヲ指名スルトキ私ハ中桐鐵工所ヲ推薦シタルモノナル旨ノ記載

一一〇三 (四)

3、被告人本間伊之吉ノ第一回豫審調書中同人ノ供述トシテ私ノ上ニ小寺水道部長アリテ私ハ主トシテ技術ニ關スル事ヲ擔當シ居リタルカ事務上ノ事ニ就テモ副部長トシテ常ニ部長ノ相談ヲ受ケ兩名相談ノ上決定シ居リタリ主ナル事ハ上水道布設ニ要スル鐵管及其ノ附屬品等ノ購入其ノ供給者ノ指名入札ニ關シ入札人ノ選定、納入品ノ檢收、納入期日延期ニ對スル許否、納入期遲滞ニ對スル延滞違約金徵收ノ可否、納入品代金支拂請求ニ對スル許否、大體ノ購入豫算額決定等ニ關スル仕事ヲ爲シ又部長ヨリ相談ヲ受ケテ協議シ居リタルモノナリ、鐵管及其ノ附屬品ノ辨檢供給契約書ハ證第一三號第一五號第一六號中各該當契約書ナルカ其ノ内久保田鐵工場ト契約シタル直管ニ對スル部分ハ隨意契約ニ依リシモノニテ異形管ニ關スル契約ト中桐鐵工所トノ辨檢類ノ契約ハ指名入札ニ依リシモノナリ昭和五年十一月四日當時四日市市役所ヨリ久保田鐵工所ニ支拂フヘキ納入鐵管代金ハ八萬何千圓カアリシカ其ノ請求ノ爲メ同日長瀬保治カ市役所ノ水道部ニ來リ私及小寺部長ト部長室ニテ面會シ代金ノ支拂ヲ請求シタリシヲ以テ小寺部長ト私ト相談ノ結果口徑六百耗ノ直管タケノ代金ノ支拂ヲ延ハシ其ノ餘ハ支拂ヒヤルコトニ決メテ八萬何千圓カノ内五萬五千八百何十圓カヲ其ノ日支拂フコトニシ私カ水道部書記内山猛雄ニ支拂金ノ精算ヲ命シ支拂命令書ヲ作成サセテ私ト部長カソレニ認印ヲ押シテ部長ハ水道部ヨリ外出シタリ其ノ時私ハ長瀬ニ色々ノ事ニテ金ノ入用カ出來困ツ

テ居ルカラ金ヲ融通シ吳レマイカト申シ結局其ノ日ニ三百圓ノ融通ヲ受ケルコトニ約束シタリ而シテ其ノ日私カ約束通りニ四日市市内三瀧橋ノ工事場ニ待チ居ルト午後五時頃長瀬保治カ南ノ方ヨリ三瀧橋ニ來ルノカ見エタル故私モ上ツテ行キ橋ノ南詰ヲ長瀬カ來リシ方ニ引返ヘシテ二人ニテ歩キナカラ百圓札三枚出シタル故ソレヲ受取リタリ其ノ時私ハ借用證書ヲ渡サネハナラヌカト申シタルニ長瀬ハソノ物ハトウテモ善イテナイカ是迄色々御世話ニナツテ居ルコレカラモ御世話ニナラネハナラヌカト申シタリ長瀬ハ四日市市役所ニ鐵管納入スル迄ハ知ラヌ人ナリシ故普通ナラハ私カ金ノ融通ヲ申込テモ承諾シテ吳レル譯ハナキモノナルカ長瀬ハ市役所ニ鐵管ヲ納入シ居ル久保田鐵工所ノ鐵管販賣ニ從事シ私ハ四日市市上水道部ノ副部長ニテ主任技師ヲ爲シ居ル故金ノ五百圓ヤ三百圓ノ融通ヲ申込ムモ厭トハ言ハヌト思ヒ私モ金ニ困リ居ル所ナリシ故長瀬ニ金ノ融通ヲ頼ミタルモノナリ多分昭和四年十一月頃ト思フ釜石鑛山ヨリ汽船ニ積ミ來リシ久保田鐵工所ノ納入鐵管約五六十本程四日市港ニテ海中ニ沈メタルコトアリ其ノ鐵管ハ全部引揚ケタルカ其ノ引場ケニ四五日位カカツタト思フ私ハ檢査ハ爲ササリシモ四日市市上水道部ノ試驗場ニテ檢査ヲ爲シ破損シタル部分ハ更ニ代納サセ其ノ他ノ物ハ水ニテ洗ツタリ又ハ「コルタービッチ」ヲ塗ツテ檢査済トシテ納入スルコトニサセテ私モ其ノ檢收ニ檢印ヲ押シタリ當時破損シタル鐵管カ澤山出來タルヲ以テ一部ハ切り管トシテ使用出來ルモノハ納入サセタリ又久保田鐵工所ハ鐵管納入ニ付テ昭和五年一月二十四

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ職限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ證據

一一〇三

(四)

日及同年二月二十八日頃ニ納入期カ經過スル爲メ延期ヲシテクレト申出テタルコトアリ其ノ申出ニ付テハ一々理由アリヤ否ヤヲ取調ヘサリシカ申出テタル理由ハ僞ニアラサルヘシト思ヒシノミナラス其ノ期間位納入期ヲ延ハスモ市ノ上水道工事ニ差岡ヘナシト思ヒシ故提出サレタル書面ニヨリテ延期ノ許可ヲ與ヘタルモノナル旨ノ記載

4、同被告人ノ第二回豫審調書中同人ノ供述トシテ四日市市ノ三瀧橋ニテ待合ハセルコトニ爲シタルハ當時私モ三瀧橋下ノ川底鐵管埋沒工事場ニ用事アリシ折柄長瀬カ何所ニテ金ヲ渡サウカト問ヒシ故三瀧橋ナラハ人目ニモ掛ラス内密ニ金ノ受授カ出來ルト思ヒ三瀧橋ニテ待合ハセルト言フコトニ爲シタルモノナリ私ハ水道部ノ副部長ニテ重要ノ地位ニアリ長瀬ハ水道部ニ鐵管ヲ納入シ居ル久保田鐵工所ノ販賣係ナル故其ノ人ヨリ金ノ融通ヲ受タルモノナルヲ以テナルヘク人ニ知ラレヌ様ニ爲シタルモノナル旨ノ記載

5、豫審判事ノ強制處分ニ因ル被疑者長瀬保治ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ私ハ大正十五年三月ヨリ引續キ久保田鐵工所ニ勤務シ鐵管ノ販賣及納入其ノ代金ノ受領等ノ仕事ヲ爲シ居レリ四日市市役所ヨリ上水道用鐵管ノ見積書ヲ提出セヨトノコトナリシカハ一キロ噸九十五圓トシテ見積書ヲ爲シタルカ其ノ後私ハ四日市市役所ニ行キ市長、助役、水道委員及小寺部長本間副部長等ト會見シ交渉ノ結果六百耗以下ノ直鐵管ヲ三十七萬八千六百二十七圓九十七錢即チ一キロ噸九十二圓ノ割

ニテ久保田鐵工所ヨリ納入スルコトニ契約成立シ調印済トナリタリ其ノ後又上水道用異型管ヲ一キロ噸ニ付百七十九圓ノ割ニテ合計二萬四千二十六圓二十八錢ニテ納入契約ヲ爲シタルコトアリ同市上水道副部長本間伊之吉ハ上水道鐵管購入品ノ檢收ヲシタリ納入期日延期願ニ對スル許否納入品代金支拂ノ許否購入豫算額決定等ニ關スル仕事ヲ爲シ居リタリ私ハ昭和五年十一月四日四日市市水道部ヘ行キ納入代金ノ支拂方請求ヲ爲シタル處小寺部長ト本間副部長カ相談ノ上六百耗鐵管ハ布設ニ着手セネハ支拂フ譯ニハ行カヌ其ノ他ノ鐵管ハ市ニ於テ融通ノ付ク範圍内ニテ支拂フト言ヒ種々押問答ノ結果同日五萬五千八百圓ノ支拂ヲ受クルコトニ定マリタルカ小寺部長カ外出シタル後本間副部長ハ私ニ對シ濟マヌカ至急ニ入用ノコトカアルカラ三百圓融通シ吳レト申シタリシカ私ハ其ノ時本間ノ要求スルタケノ金ヲ所持シ居ラサリシ故四、五日後ニシテ吳レト申シタル處本間ハ至急入用ニ迫ラレテ居ルカラ今日是非融通シ吳レト申シタルヲ以テ斷リ兼ネ市役所ヨリ受取リシ主人ノ金ノ内ヨリ三百圓ヲ本間ニ渡シタリ本間カ私ニ金ヲ要求シタル際ニカラ三瀧橋ヘ行ツテ待ツテ居ルカラ其所ヘ持ツテ來テ吳レト申シタルヲ以テ私ハ同日午後四時半過市役所ノ經理課ニテ支拂ヲ受クル手續ヲ濟マセ早速市内四日市銀行本店ヘ行キ金ヲ受取リ五萬五千圓ヲ住友銀行道頓堀支店ノ久保田口座ニ振込ミ八百圓ハ所持シテ三瀧橋ニ行キタルニ本間カ居リシヲ以テ二人ニテ橋ノ袂ヲ南ノ方ヘ歩キナカラ百圓札三枚ヲ本間ニ渡シタリ、本間ハ私ニ貸シテ吳レ是非返スカラト言ヒ居リシモ私ハ本

問カ返シテ吳レルモノテハナイト思ヒ遣ル氣テ渡シタルモノナリ是ヨリ先本間ヨリ手紙ニテ二度モ私ニ金ヲ融通シテ吳レト云ヒ來リ居リ又直接水道部ニテ私カ金ヲ受取ルコトヲ本間カ見テ居リシ故若シ斷ルト後ノ鐵管納入ニ就テ崇ラレテハ惡ルイト思ヒ又一ツニハ本間ノ要求ニ從ヒ置ケハ鐵管納入等ニ就キ都合ノヨキ事カアルト思ヒ右三百圓ヲ遣リシモノナリ昭和五年二、三月頃岩手縣釜石鑛山ニテ製造シテ四日市市水道部ニ納メル鐵管ヲ四日市港ニテ陸上ケスル際誤ツテ海中ニ落シタルヲ以テ其鐵管ハ鹽分ヲ含ミタルカ其ノ鹽分ヲ含ミタル鐵管ヲ取替ヘヨト云ハレタラ取換ヘネハナラヌ關係ニアリタルカ其ノ時ノ檢收ヲ寬大ニサレテ其ノ儘納入トナリシコトアリ又鐵工所ニテ鐵管製作ニ手間取り納入期ヲ遅延致シタルヲ以テ其ノ延期ノ許可願ヲ三四度致シタリ其ノ許否ハ本間一人ニテ定ムルモノニアラサルモ本間カ意見ヲ付シテ夫レニヨリ許否ヲ決シテ居リタルカ只延期ノ書面ヲ出シテ極ク簡單ニ許可ヲ爲シ吳レ居リシ旨ノ記載

6、原審相被告人長瀬保治ノ第一回豫審調書中同人ノ供述トシテ久保田鐵工所ハ昭和四年五月二十二日ノ直鐵管同月二十八日ノ異型管ノ各供給契約ノ外ニ其ノ後六、七回ニ互リ異型管、フランジ管、ビクトリツク管等ノ供給契約ヲ四日市市ト爲シタリ而シテ昭和五年十一月四日當時ニ在リテハ本契約ノ直鐵管異型管ハ大部分納入済ニナリ居リテ同年十二月末日ニハ全部納入済ニナリタルカ其ノ他ハ今日(昭和六年二月六日)迄時々納入シ居レルモ未タ納入完了シ居ラス本間ハ上水道工事ノ一切

ノ監督ヲシテ居リ數人ヨリ納入スル鐵管ノ檢收ヲ自ラ爲シタリ又鐵管試驗所ノ仕事ヲ監督シタリ納入品ノ納入期延期ノ申出ニ就テモ又納入遅延ニヨル延滞料徴收ノ可否ヲ納入品代金ノ支拂ヲ定メル等ノ職務ヲ爲シ居ルモノト私ハ思ヒ居リタリ本間副部長ノ上ニ小寺部長居ルモ水道ノ仕事ニ就テハ本間カ總テ實際ニ遣ツテ居リシ故前述ノ如キ事項ハ大概本間ノ意見ニテ定マリ居タル様思ハレタリ久保田鐵工所ノ納入スヘキ鐵管ニシテ海中ニ沈ミタル分ハ破損鐵管以外ノ者ハ殆ント檢收ニナリタルカ其ノ檢收ニモ本間ハ關係シ居タリシト思フ其ノ時ノ檢收ハ寬大ノ取扱ヲ受ケタル爲メト思フ檢査ノ際一度海中ニ沈ミ鹽分ノ含マレタル鐵管ハ檢査セスト云ハレタラ久保田鐵工所トシテハ代納スル外ナカリシ故左様ナ事カナク納マリタルヲ以テ寬大ニシテ吳レタルモノト思ヒタリ昭和五年一月二十四日同年二月二十八日久保田鐵工所ヨリ四日市市役所ニ鐵管納入期間ノ延期ヲ申出テタルニ直クニ許可書來リタルカ是レモ寬大ニ取扱ハレタルモノト思ヘリ若シ實際ヲ調査サレ延期スル理由カナイト云フコトニナツテ許可サレシナラハ久保田鐵工所トシテ契約ノ損害金ヲ出サネハナラヌ故寬大ニ取扱ハレタルモノト思ヒタリ代金支拂請求ニ就テモ本間カ便宜ヲ與ヘテ吳レシ譯ニシテ結局私カ本間ニ三百圓ヲ渡シタルハ鐵管納入等ニ就テ本間ヨリ寬大ナル取扱ヒヲ受ケタル御禮ナリシト一ツニハ若シ斷レハ後ニ引續キ納入スル鐵管モアリシ故崇ラレテハ困ルト思ヒ要求通り金ヲ融通シテ置ケハ後ノ鐵管納入ニ就テモ萬事都合ニ取扱フテ吳レルト思ヒ遣ル氣ニテ三百圓渡シタルモ

ノナリ十一月四日ニハ本間ヨリ三百圓ノ要求アリシモノナルカ若シ其ノ時五百圓要求サレ居ラハ五百圓渡シタルヤモ判ラサル旨ノ記載

7、原審同相被告人ノ第二回豫審調書中同人ノ供述トシテ私ハ本間伊之吉ヨリ納入鐵管檢收鐵管納入延期願竝ニ納入鐵管代金拂渡等ニ寛大ナル取扱ヲ受ケタルヲ以テソレヲ口實ニ本間ヨリ金ノ無心ヲ言フテ來ルト覺悟ヲ致シ居リタリ其ノ時ハ私ノ考トシテハ五百圓ヤ七百圓ハ遣ラネハナラヌト思ヒ居リタルモノナル旨ノ記載

8、被告人本間伊之吉ノ第二回豫審調書中同人ノ供述トシテ私ハ昭和五年十二月十四日午後中桐鐵工所ヘ行キ中桐徳三郎ニ面會シ豫テ御頼ミシタ金ヲ渡シテ貰ヒタイト申スヤ中桐ハ承知シタト申シタルヲ以テ其ノ際私ハ二百圓ニテハ足ラヌ故今百圓多ク三百圓願ヘヌカト申スト中桐ハ二百圓タケシカ手許ニナイト言ヒタルヲ以テ夫レタケテ善イカラト申シ中桐ノ出シタル金二百圓ヲ受取りタリシカ其ノ時四日市市上水道工事ノ話出テタリ私ハ其ノ時中桐ニ對シ「上水道主査委員鳥海善衛カ君ノ所カラ納入シタスビンドルニ就テ青銅ヲナケレハナラヌノニ砲金テ中桐ハ製造ヲシテ居ルト云ヒ又辨トカバートノ間カラ水カ出テ居ツテ一體ニスビンドルカ粗惡テアルト言フ様ナ事ヲ理由トシテ問題ニシテ喧敷非難シテ居ルカ僕ノ方テハ青銅ト言フテモ砲金ト言フテモソレヲ區別シテ喧シク言フ程ノ事テモナク殆ント同一ノ物テアルカラ鳥海ノ言フコトハ馬鹿ラシク考ヘテ居テ問題ニハシテ居

ラス僕ノ方テハ飽迄肉眼檢査テ押シ通ス積リテアル」ト話シタルニ中桐モヨロシク頼ムト言ヒ居リタリ私ハ中桐ニハ以前モ金ノ融通ヲ受ケ未タ返シ居ラサル故普通ニテハ金ノ融通ヲ申込ムモ中桐カ承諾スルカセヌカ判ラサルモノナルカ中桐ハ私ノ選定ニヨリテ指名入札者ニ加ヘラレタル結果落札シテ辨栓等ヲ納入シテ居レルノミナラス私ハ上水道部ノ副部長ニシテ且上水道布設ニ關スル主任技師ヲ爲シ萬般ノ仕事ニ携ハリ居リ中桐ヨリ納入ノ辨栓ノ檢收其ノ他ノ事ヤ殊ニ既ニ納入シタル辨栓ニ付上水道委員等ヨリ問題ヲ起サレテ私等ハ飽迄肉眼檢査ニテ押通スト云フ考ヲ持チ居ルヲ以テ斯ル關係上私カ中桐ニ金ノ無心ヲ申込メハ中桐トシテモ厭トハ言ヘスト思ヒ當時非常ニ金ニ困リ居リシ故申譯ナキ事ナルカ融通シ貰ヒタル様ナ次第ナリ私ハ私ノ世話シ居ル志水フミ子(原審第一回公判調書中ニ被告人本間伊之吉ノ供述トシテ私ハ昭和五年七月ヨリ志水フミ子ヲ妾ト爲シ居ル旨ノ記載アリ)ト十二月十三日四日市ヨリ名古屋へ出テ大阪へ十四日午着シ三越吳服店ヲ見物シテ買物ヲ爲シソレヨリ住吉區平野町ノ平野活動寫眞館ニフミ子ヲ待タセ私獨リ中桐方ヘ行キ前述ノ如ク二百圓ヲ受取りタルカ十四日ノ夜ハ大阪ニ泊リ翌日四日市ニ歸リ其ノ日ト其ノ翌日內百圓ヲフミ子ニ渡シ五十圓ハ和歌山ノ親戚ニ其ノ餘ハ私方ノ支拂ニ使ヒタリ中桐鐵工所ヨリ四日市市ニ納入スヘキ物件ニ付納入期ノ延期願ヲ出シタルコトアリ即チ昭和四年六月六日ニ納入スヘキ水壓試驗機カ當時納入出來サリシヲ以テ同月十八日迄延期願カ出タルト同年十二月三十一日納入スヘキ辨栓類カ納入出

來サリシヲ以テ昭和五年二月十二日迄納入ノ延期願出アリタルトノ二回ナリ而シテ普通ナレハ市ノ試験場ニテ係ノ者カ調ヘルモノナルカ當時延期願書ヲ私ノ手許ニ廻シ來リシヲ以テ其ノ書面ニ基キ理由アルモノトシテ許可ヲ致シタルカ實際ニ付テハ調査セサリシモノナル旨ノ記載

9、原審第一回公判調書中被告人中桐徳三郎ノ供述トシテ明治十年頃父カ鐵工所ヲ始メタルカ父ハ老年ナル故私ハ代ツテ實際鐵工所ヲ遣リ居レル旨ノ記載

10、被告人中桐徳三郎ノ第一回豫審調書中同人ノ供述トシテ昭和五年十二月八日頃本間伊之吉カ手紙ニテ私方ニ和歌山ノ親戚ニ金ノ要ルコトカ出來自分カラソレヲ融通シテヤラネハナラヌカ手許ニ金カナクテ困リ居ル故此土曜日ノ午後和歌山ヘ行ク爲メ天王寺驛ヲ通過スルカラ其處迄君カ二百圓持ツテ來テ貸シテ呉レ若シ君ニ差支ヘカアレハ店ノ者ニ持タセテ呉レト申シ來リシヲ以テ私ハ又本間カ金ノ無心ヲ言フテ來タ困ツタト思フテ店ノ者ニ又本間カラ金ノ無心ヲ言フテ來タト話シタルニ仕方カアリマセヌ灸ヲ据ヘラレタ様ナモノテ厭ト言フコトモ出來ヌカラ都合シテ遣ツタラヨカロウト言フノテ都合スルトイフ手紙ヲ出シタルニ本間ヨリ行違ヒニ土曜日ニハ行ケヌト電話カ掛リ來リシカ同月十六日午後私方ヘ本間カ來リテ先日頼ンダ金ヲ融通シテ貰ヒタイト云ヒスピンドルノ問題モ喧シクナリ他カラ納入シタ異形管ニ就テモ問題ニナツテ居ルノテ困ツテ居ルト言フ様ナ話ヲナシ居リタ方ニナリテ本間ハコレカラ和歌山ヘ行カネハナラヌカラ金ヲ渡シテ呉レ誠ニ濟マヌカ四百圓貸

シテ貰ヒ度イト申シタルカ私モ左様ナ金ハ出セヌト思ヒタルヲ以テ今二百圓シカ都合カ出來ヌト申シタルニ二百圓テヨイカラ貸シテ呉レト言フノテ二百圓渡シ遣ルト紙ヲ呉レト言ヒ借用證書ヲ書キ印ヲ押シタル上私ニ渡シテ出テ行キタリ曩キニ昭和三年中本間ニ二百圓渡シタル時本間ハ返スト云ヒシカ其ノ儘ニナリ居ルヲ以テ普通ナレハ又二百圓ノ融通ヲ頼ム義理テモナク私モ融通スルノテハアラサリシカ本間ハ四日市市上水道部ニ奉職シテ居ル關係ヨリ私方ノ納入品ノスピンドルノ問題ニ付テモ色々世話ニモナラネハナラヌシ未タ注文ヲ受ケタ水位標示機ノ納入モ残り居ル折柄ナリシ故斯様ナ關係ニテ本間カ私ニ金ノ融通ヲ申込ンテ來タモノト思ヒタルヲ以テ實際私等ニ對シテ水道部ノ役人カラ金ノ融通ヲ申込マレルノハ誠ニ困ルノテ無形ノビストルヲ指向ケラレルト同様ニテ聞キ入レヌト後ノ仕事ニ崇ラレルト思ヒ斷ル譯ニモ行カス本間ノ申出ニ從ツテ置ケハ後ニ萬事都合カ善イト思ヒ渡シタル次第ナリ前ニモ證書ヲ入レタル金モ返サス其ノ後私カ證書ヲ呉レト言ハヌノニ本間カ證書ヲ書イテ行キシモノナル故本間ノ考ニテハ拂フ積リテ證書ヲ書キ入レタノテハナク打明ケテ言ヘハ本間ハ水道部ノ役人テアルシ私ハ市ニ辨栓等ヲ納入シテ居ル關係ヨリ若シ後ニ問題ニテモ起レハ言譯ニスル爲メ入レタルモノカト思ハレタリ昭和四年四月頃水壓試驗機械ノ注文ヲ市上水道ヨリ受ケ其ノ時ノ仕様書ニハ排水管ヲ銅管ニテ作ル事ニシテ代價ヲ千二百五十圓ト定メタルモノナルカ實際ニ製作スルトキニ仕様書ヲ充分見レハヨカリシニ銅管モ瓦斯管モ餘リ違ヒナキ爲メ瓦斯管

ニテ可ナリト思ヒ拵ヘタリシ後ニ仕様書ヲ見テ銅管ニナリ居ルコト判明シタルヲ以テ私ノ方ヨリ減額シテ其ノ儘使用シテ貰フヤウ本間ニ頼ミタルニ本間ハ之ヲ承諾シクレタリコレモ嚴格ニ出ラレタラハ取替ヘネハナラヌモノナルカ承諾シ吳レタル爲メ二十五圓程ノ減額ニテ済ミタリ又昭和四年十月三十一日ニ納入スヘキモノト昭和五年始メニ納入スヘキ制水辨ノ納入カ遅レタルヲ以テ其ノ納入期ノ延期ヲ願出テタル處直ク許可ニナリタルカ其ノ期間ハ約三週間程ナリキ納入期ヲ遅延スレハ違約金ヲ支拂フコトニナリ居ルモノニシテ其ノ當時延期願ヲ採用サレネハ約二百圓位ノ違約金ヲ出サネハナラヌ關係ニアリシ様ニ思フ水道部ノ方ニテ納入期延期ニ正當ノ理由アルカ否カヲ調ヘタルカ如キコトナク直ク許可シ吳レタルヲ以テ寬大ニ取扱ハレタルモノト思ヒタリ左様ナ寬大ナ取扱ヲ受ケタルコトヤ又當時納入済ノスピンドルニ對シテ水道委員ヨリ粗惡品ナリトテ攻撃シ居ルニ本間カ其ノ辯明方ニ付色々相談ニ與ツテ吳レタリ又將來收メサセテ貰ハネハナラヌノテ本間ノ申出ヲ承諾シテ金ヲ渡シタルコトニナルモノニテ私ハ誠ニ申譯ナキコトヲ致シタリト思フモアノ場合トウモ致方ナカリシモノナル旨ノ記載

11、同被告人ノ第三回豫審調書中同人ノ供述トシテ昭和五年十二月十四日午後三時過頃私方ヘ來リ四日市役所ニテハ君ノ鐵工所カラ納入シタスピンドルニ就テ上水道委員カ色カ惡イノテ粗惡品デアルト云ヒ大分問題ニシテ居ルカ自分ハ肉眼検査ヲシテ粗惡品テハナイト言ヒ他ノ市テモ皆肉眼検査

ヲシテ居ルノテアルト主張シテ居ルカ嚴格ニ出ラレハ分析試験モセネハナラヌカモ知レヌ自分ハ飽迄肉眼検査ヲヨイト主張スル考ヘテアルカ喧シクナレハ分析検査ヲ行フコトニナルカ知レヌト申シ居タルヲ以テ私ハ何處テモ肉眼検査テアルノニ今更分析試験ヲサレテハ困ルカラヨロシク頼ムト申シタリ私方ニテスピンドルヤ其ノ他ノ話ニテ時間カ過キタル後本間ハ是カラ和歌山市ヘ行カネハナラヌカ遅クナツタト申シ又三百圓融通シ貰ヒタキ旨ヲ話シ私カ二百圓ヲ渡スヤ本間ハ急イテ午後六時半頃私方ヲ出テ行キシモノナル旨ノ記載

12、豫審判事代理判事ノ強制處分ニ依ル被疑者中桐徳三郎ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ本間ハ表面ハ金ヲ貸シテ吳レト言フテ居ルカ今回ノ納入品ニ付問題カ起リ本間カ私ノ爲メニ盡力シテ居ル故ニ其ノ盡力ニ對スル御禮トシテ私ニ金ヲ吳レト言フタモノト察シテ居タル旨ノ記載

ヲ綜合考覈スレハ之ヲ認定スルニ足り被告人本間伊之吉ノ犯意繼續ノ點ハ短期間内ニ同種ノ犯行ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認定シ得ヘキヲ以テ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリトス
法律ニ照スニ被告人本間伊之吉ノ判示收賄ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役五月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スヘク而シテ同被告人ノ收受シタル判示賄賂ハ既ニ消費セラレ沒收スル能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ依リ其ノ價額金合計五百圓ヲ追徴スヘク次ニ被告人中桐徳三

郎ノ判示贈賄ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金百圓ニ處シ若シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ一日金二圓ノ割合ヲ以テ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人伊之吉辯護人石川時之助上告趣意書第一點原判決ハ四日市市臨時上水道部職制ヲ誤解シ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ其ノ理由ノ冒頭ニ於テ被告人本間伊之吉ハ四日市市臨時上水道部主任技師兼副部長トシテ鐵管等ノ指名入札者ノ選定材料購入品ノ檢收納入期日延期ニ關スル許否納入期遲滯ニ對スル違約金徵收ノ可否納入品代金支拂ニ對スル許否及購入費ノ豫算額決定等ニ關スル職務ヲ執掌シタル事實ヲ認定セラレタリ然レトモ四日市市臨時上水道部職制ヲ閱スルニ鐵管等ノ指名入札者ノ選定材料購入品ノ檢收納入期日延期ニ關スル許否納入期遲滯ニ對スル違約金徵收ノ可否及納入品代金支拂ニ對スル許否購入豫算額決定ニ關スル事項ハ同職制第十條總務課第十、十一、十三及十四項ノ規定ニ依リ同上水道部總務課ノ所管事項ニ屬シ部長兼總務課長小寺松次郎ノ職務ニシテ副部長兼工務課長タル被告ノ職務ニ屬セス唯部長事故アルトキ之ヲ代理

スルコトアルニ止マルコト同職制第十一條第二項ニ依リ明瞭ナリ同規定ニハ副部長ハ部長ヲ補助シ云々トアルヲ以テ一見副部長タル被告モ前示諸事項ヲ處理スヘキ職務ヲ有スルカ如キモ然ラス蓋シ公私ノ職制ニ於テ主長ノ下ニ副主長ヲ置キ主長ニ事務家ヲ任命シテ副主長ニ技術家ヲ配スル場合ハ主長ノ技術的的智能ノ缺陷ヲ副主長ノ技術的的智能ヲ以テ補ハムトスルモノニシテ殊更ニ副主長ニ缺ケタル事務的的智能ヲ以テ主長ノ得意トスル事務的的智能ヲ補ハムトスルモノニ非サルコト言ヲ俟タス故ニ本件ノ場合ニ於テモ技術家タル被告ハ事務ニ屬スル同上水道部總務課ノ所管事項ヲ處理スヘキ職務權限ヲ有スルコトナシ被告ハ豫審以來職制ニ拘ラス前示ノ諸事項ヲ處理シ居タル旨自白スレ共如斯ハ被告ノ越權行爲乃至事實行爲ニシテ斷シテ職務行爲ニ非ス被告ノ自白ハ以テ右職制ヲ變更スル力ナシ殊ニ被告ハ豫審以來納入品ノ檢收事務ニ執掌シタル旨自白スレトモ如斯ハ檢收行爲トシテ混同シタル供述ニシテ檢收行爲トハ物品納入契約ノ履行ヲ契約ノ本旨ニ副フモノナルコトヲ確認シテ受領スル行爲ニシテ物品納入契約ニ關スル事項トシテ當然總務課ノ所管事項ニ屬ス反之檢査行爲トハ總務課ヨリ示サレタル一定ノ規格ニ納入品カ合格スルヤ否ヤヲ調査檢査又ハ試驗スル行爲ニシテ同市臨時上水道部職制第十條第二項第二號ニ依リ工務課ノ所管事項ニ屬ス故ニ被告ノ執掌シタルハ納入物品ノ檢査調査又ハ試驗ニシテ檢收ニ非ス若シ被告カ檢收ニ從事シタリトセハ越權行爲ヲ爲シタルモノニシテ斷シテ職務行爲ヲ爲シタルモノニ非ス然ルニ原判決ハ敍上ノ如ク前示諸行爲ヲ以テ被告ノ職務行爲ナリト認

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ

【要旨第一】

定セラレタルモノニシテ如期ハ前記四日市市臨時上水道部職制〔證第二十二號〕ヲ誤解又ハ無視シテ重大ナル事實誤認ヲ爲シタル疑顯著ナルモノナリト謂フニアレトモ

四日市市臨時上水道部職制ニ依レハ「部長ハ市長ノ命ヲ承ケ部員ヲ統督シ上水道ノ布設及給水ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ之ヲ代理ス」トアリテ他ニ副部長ノ權限ニ所論ノ如キ制限ヲ加ヘタル規定存セサルカ故ニ副部長ハ部長事故アル場合ニハ部長ヲ代理シ部長ノ權限ニ屬スル一切ノ事務ヲ處理スル權限アリ然ラサル場合ニハ部長ヲ補佐スル爲其ノ處理スヘキ一切ノ事務ニ付調査其ノ他ノ行爲ヲ爲スノ權限アルモノト謂フヘク原判決カ其ノ事實理由ノ冒頭ニ於テ「被告人伊之吉カ四日市市臨時上水道部主任技師兼副部長トシテ鐵管等ノ指名入札者ノ選定材料購入納入品ノ檢收納入期ニ關スル許否納入期遲滯ニ對スル違約金徵收ノ可否納入品代金支拂ニ對スル許否及購入費ノ豫算額決定等ニ關スル職務ニ執掌シ」ト判示セルハ所論ノ如ク被告人伊之吉カ常ニ部長ト同シク許否權決定權ヲ自ラ有スルコトヲ認メタルモノニ非スシテ上敍ノ如ク被告人伊之吉カ右副部長トシテ部長事故アル場合當然自ラ許否決定ヲ爲スノ權限ヲ有セルハ勿論然ラサル場合ニ於テハ部長ノ行フヘキ許否決定ニ關シテ準備調査ヲ爲シ部長ヲ補佐スル事務ヲ取扱フ權限ヲ與ヘラレ居タリトノ趣旨ヲ示シタルモノニ外ナラス從テ原判決ハ四日市市臨時上水道部職制ニ反シテ被告人伊之吉ノ職務權限ヲ認定シタル失當ナク論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由及理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ事實理由第一ノ(一)ニ於テ被告ハ「大阪市浪速區船出町二丁目久保田鐵工所カ四日市市長ト締結シタル上水道用鐵管ノ供給契約ニ基ク納入物品ノ檢收並納入期延期ノ許否等ニ關與シタル處昭和五年十一月四日右鐵工所店員タル原審相被告人長瀬保治カ納入品代金請求ノ爲右臨時上水道部ニ赴キタル際同人ニ對シ名ヲ貸借ニ藉リテ金員ヲ要求シ保治カ前示供給契約ニ關スル被告人本間伊之吉ノ職務行爲ニ對スル謝禮並同人ノ職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ同日同市三瀧橋附近ノ路上ニ於テ保治ヨリ金三百圓ノ交付ヲ受ケ以テ收賄シ」ト說示セラレタリ然レトモ供給契約ニ基ク鐵管類ノ檢收及納入期延期ノ許否等ノ行爲カ全然被告人ノ職務行爲ニ屬セサルコト前點所論ノ如シ故ニ被告人カ久保田鐵工所員長瀬保治ヨリ判示ノ日時ニ鐵管類ノ供給契約ニ基ク納入品ノ檢收及納付期延期ニ對スル許否等ノ行爲ノ謝禮並右行爲ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ供與スルモノナルコトヲ知リテ判示ノ金員ヲ收受シタリトスルモ決シテ職務ニ關シテ金錢ヲ收受シタリト謂フコトヲ得ス況ンヤ被告人カ終始一貫抗爭スル如ク四日市市上水道完成ノ際支給セラルヘキ慰勞金ヲ以テ辨濟スヘキ約定ノ下ニ判示金員ヲ借用シタルモノナルニ於テオヤ然ルニ原判決ハ毫モ四日市市臨時上水道部職制ヲ顧ルコトナク漫然前記被告人ノ所爲ヲ以テ收賄ナリト斷シタルハ事實誤認モ亦甚シク若シ收賄行爲ナリト斷スルニハ過去ニ於テ臨時上水道部長事故アリタル

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ證據

トキ久保田鐵工所ニ對シ被告人カ部長ノ職務ヲ代行シタルコトアル事實ヲ確定シ此ノ事實ニ對スル謝禮トシテ長瀬保治ヨリ被告人ニ供與セラレタルモノナルコト及將來被告人カ部長ノ職務ヲ代行スル場合便宜ノ取扱ヲ受ケ度キ趣旨ノ下ニ供與シタル情ヲ知リタルコトヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ毫モ此等ノ點ヲ明カニセスシテ漫然前記被告人ノ所爲ヲ以テ收賄行爲ナリト斷シタルモノニシテ理由不備ノ違法アルヲ免レスト謂ヒ」第三點原判決ハ前點ト同一ノ違法及重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ其ノ事實理由第一ノ(二)ニ於テ「前記中桐鐵工所カ四日市市長ト締結シタル水壓試驗機竝上水道用鐵管附屬品制水弁等ノ供給契約ニ基ク納入物品ノ檢收等ニ關與シタルモノナル處昭和五年十二月十四日大阪市住吉區平野政所町ナル被告人中桐德三郎方ニ於テ同人ニ對シ名ヲ貸借ニ藉リテ金員ヲ要求シ德三郎カ前示供給契約ニ關シ被告人本間伊之吉ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝ニ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ供與スルノ情ヲ知リナカラ同日同所ニ於テ德三郎ヨリ金二百圓ノ交付ヲ受ケ」ト說示セラレタリ然レトモ右ハ前點所論ト同一ノ理由ニ依リ理由不備ノ違法及重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルモノトスト謂フニアレトモ

既ニ第一點ノ上告理由ニ付說明セル如ク原判決ノ認定セルトコロハ四日市市臨時上水道部副部長ハ部長事故アルトキ其ノ事務ヲ代行スルニ止マラス部長ヲ補佐シテ一切ノ事務ヲ取扱フ權限アルモノニシテ右權限ニ基キ所論供給契約ニ基ク鐵管類ノ檢收納入期延期ノ許否等ニ關スル事務ニ執掌スル職權アリト謂フニアルコト明ナレハ原判決カ被告人伊之吉ノ右行爲ヲ說明スルニ當リ當時部長ニ事故アリテ其ノ職務行爲ヲ代行セルモノナルコトヲ示ササレハトテ毫モ理由不備ノ存スルコトナシ而シテ上叙ノ事實ハ原判決ノ舉示セル各證據ヲ綜合シテ之ヲ認ムルニ足リ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ孰レモ理由ナシ

第四點原判決ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ第二點及第三點揭記ノ如キ說示ヲ爲シ長瀬保治及中桐德三郎ヨリ各被告人ニ交付セラレタル金錢ハ同人等カ將來被告人ヨリ便宜ノ取扱ヲ得度趣旨ヲモ含メテ交付セラレタルモノナルコトヲ認定セラレタリ然レトモ四日市市臨時上水道部ハ其ノ名ノ示スカ如ク同市ニ於ケル臨時ノ機關ニシテ同市上水道ノ完成ト共ニ解散セラレ又工用材料物品等モ上水道完成ニ必要ナル數量ノ購入ヲ了スルヲ以テ足ル故ニ假リニ久保田中桐兩鐵工所ヨリ納入シタル物品ノ檢收竝納期延期ニ對スル許否カ被告人ノ職務ナリトスルモ前示ノ如キ認定ヲ爲スニハ被告人カ右兩人ヨリ金錢ノ交付ヲ受ケタル當時尙同人等ヨリ四日市市ニ納入スヘキ物品存在シタル事實ヲ確定シ該事實ヲ前提トセサレハ前示ノ如キ認定ヲ爲スコト能ハサル筋合ナリ然ルニ原判決ハ何等此ノ點ヲ確定スルコトナク卒然トシテ前示ノ如キ認定ヲ爲シタルハ違法モ亦甚シト謂フヘク讎ツテ事ノ實際ヲ觀ルニ久保田鐵工場ヨリ契約ニ基キ四日市市ニ納入スヘキ鐵管四萬八千餘本ハ昭和五年六月迄ニ特別異形管一本ヲ殘シ全部完納濟ニシテ金錢授受アリタル昭和五年十一月四日當時ハ今後納入

四日市市臨時上水道部職制ニ於ケル副部長ノ權限 人ノ心理現象ヲ認定スヘキ 一一一九 (一五)

スヘキ物品ナク從ツテ納期延期ノ問題亦生スルニ由ナク亦タ新ニ同鐵工場ヨリ購入スヘキ何物モナカリシナリ又中桐鐵工場ヨリ四日市市ニ納入スヘキ契約品ハ本件金錢授受ノ日タル昭和五年十二月十四日ヲ去ルコト實ニ六ヶ月以前ニ完納セラレ又新規ニ注文スヘキ何物モナク將來納品ノ檢收並納期延期ノ許否等ノ問題絶對ニ生スルニ由ナカリシナリ然ルニ原審ニ於テハ最モ必須ナル此等ノ點ニ付何等審究スルコトナク漫然贈賄者側ノ常套語ヲ採用シテ生シ得ヘカラサル事實ヲ當然生シ得ルモノト速斷シ漫リニ人ノ罪ヲ處斷シタルモノニシテ本點所論ノ原判決ノ理由不備ノ違法ノ極メテ重大性ヲ有スルモノナルコトヲ主張セサルヲ得スト謂フニアレトモ

原判決ノ認定シタルコロニ依レハ被告人伊之吉ハ昭和三年十一月五日ヨリ昭和六年二月三日マテ四日市市臨時上水道部副部長ノ職ニ在リタルモノナルカ故ニ同上水道部ニ對スル物品納入者久保田鐵工所ノ店員長瀨保治同中桐鐵工所ノ業務擔當者中桐徳三郎カ夫々昭和五年十一月四日及同年十二月十四日被告人伊之吉ニ原判示金圓ヲ交付シタル際ニハ同人等ニ於テ何レモ被告人伊之吉カ將來其ノ職ニ在ルコトヲ豫期セルコト當然ニシテ斯ノ事情ノ下ニ於テハ縱シ當時現實ニ右各鐵工所ヨリ四日市市ニ納入スヘキ物品ナク又新規注文ノ豫期スヘキモノアラサリシトスルモ仍ホ將來被告人伊之吉ヨリ其ノ職務ニ付便宜ヲ得ンコトヲ期待シ得ヘキ事態ナリト謂フヘク斯ノ如キ状態ニ於テ其ノ將來ノ職務執行ニ關シ利益ヲ供與スルカ如キハ贈賄罪ヲ構成スルコト勿論ナルカ故ニ原判決カ右保治 徳三郎ノ金圓供

與ノ當時前記ノ如キ特別ナル納入注文等ノ關係ノ存在スルコトナク單ニ被告人伊之吉ヨリ將來職務ニ關シ便宜ヲ得タキ趣旨ノ下ニ金圓ヲ供與シタリト認定シタレハトテ毫モ不當ノ認定ト謂フヘカラス從テ原判決ニハ所論ノ點ニ於テ理由不備ノ瑕疵アルコトナク論旨ハ理由ナシ第五點原判決ハ證據ニ據ラスシテ裁判ヲ爲シタル違法アリ原判決ハ第二點及第三點ニ引用シタル如ク被告人カ各判示ノ日時ニ於テ名ヲ貸借ニ藉リテ其ノ職務ニ關シ長瀨保治ニ對シ金三百圓中桐徳三郎ニ對シ金二百圓ヲ要求シタル旨ヲ認定セラレタリ然レトモ原判決ノ援用スル證據ヲ閱スルニ被告ノ各供述記載ニ依レハ被告ハ徹頭徹尾前示金員ハ借受ケタルモノニシテ收賄シタルモノニ非ル旨ヲ主張シ又豫審判事ノ強制處分ニ依ル被疑者長瀨保治ニ對スル訊問調書中同人ノ供述記載ニモ「……本間ハ私ニ貸シテ吳レ是非返スカラト云ヒ居リシモ……」トアリ又中桐徳三郎第一回豫審調書中同人ノ供述記載ニモ「……其處迄君カ二百圓持ツテ來テ貸シテ吳レ……」トアリ又「……二百圓遣ルト紙ヲ吳レト云ヒ借用證書ヲ書キ印ヲ押シタル上私ニ渡シ出テ行キタリ」トアリ又同人第三回豫審調書中同人ノ供述トシテ「三百圓融通シテ貫ヒタキ旨ヲ話シ云々」トノ記載アリテ被告ヨリ賄賂ヲ要求シタルコトヲ證スヘキ直接證據有ルコトナシ然ラハ間接ノ狀況證據ナルモノ存スルヤ否ヤヲ閱スルニ原判決ノ援用セラル長瀨保治及中桐徳三郎ニ對スル各訊問調書中同人等ノ供述ニハ右被告人ノ借金申込ハ單ニ名目ニ過キササルコトヲ承知セル趣旨ノ記載アレ共如斯ハ唯同人等ノ贈賄意志ヲ立證シ得ルニ過キス以テ被告人

ノ收賄意思ヲ立證スルニ足ラス又原判決援用證據中ニ「……昭和五年十一月四日私ハ長瀬保治ヨリ百圓札三枚ヲ受取り其ノ後消費シタリ而シテ長瀬方ヨリ返濟方ノ催促アリシコトナク又返濟シタルコトモナシ」トノ被告人ノ供述記載アレトモ被告人カ豫審以來屢供述スル如ク四日市市上水道完成ノ曉ハ他ノ都市ノ前例ニ依ルモ當然相當額(被告人ノ豫想額ハ金一萬圓内外)ノ慰勞金ノ交付アルヘク右借金ハ此ノ慰勞金ヲ以テ返濟スヘキコトヲ約シタルモノナル處不幸ニシテ一部政治的野心家ヨリ恰モ不正行爲ヲ爲シタル如ク宣傳セラレテ遂ニ刑事被告人タルノ汚名ヲ受ケ之カ爲右慰勞金ハ之ヲ受クルコト能ハス從テ右借金ヲ返濟スルコト能ハサルハ勿論類齡ノ老母ヲ擁シテ(妻ハ事件發生後離別セリ)生活ニスラ窮スルニ至レルモノニシテ其ノ返濟ヲ爲ササルハ斷シテ賄賂トシテ受ケタルモノナルカ故ニ非ルナリ又原判決援用ニ係ル各證據ヲ綜合スルニ被告人ハ金員ヲ借受ケタル際長瀬保治ニ對シテハ借借書ヲ差入レタリ若シ判示ノ如ク名ヲ貸借ニ藉リテ賄賂ヲ要求シタルモノナラハ一旦金錢ヲ收受スル以上借用證書ヲ差入レ又差入レムコトヲ申出ツヘキ筈ナシ又發覺ノ際ニ於ケル言譯ナリトセハ長瀬保治ニ對シテモ後ニ證書ヲ交付スヘキ筈ナリ依之觀之被告人ノ收賄ヲ證スル狀況證據モ一モ存スルコトナク要スルニ原判決ハ假リニ被告人ノ金錢收受カ其ノ職務ニ關シテ行ハレタリトスルモ證據ニ由ラスシテ裁判ヲ爲シタル違法アルモノニシテ況ンヤ前陳ノ如ク毫モ職務關係ナキニ於テオヤト謂フニアレト

モ

【要旨第二】

證據ノ取捨判斷ハ原審ノ職權ニ屬シ原審ハ其ノ職權ニ基キ自由ナル心證ニヨリ事案ヲ判斷スルモノナレハ假令人ノ心理現象ト雖必シモ其ノ人自身ノ供述ノミニ依リテ之ヲ認定セサルヘカラサル理ナク其ノ以外ノ證據ニ依リ該心理現象カ認定シ得ラルルニ於テハ之ヲ採リテ其ノ認定ヲ爲スコト固ヨリ何等妨アルコトナシ原判決ハ被告人伊之吉カ長瀬保治 中桐徳三郎ニ於テ職務行爲ニ對スル謝禮並ニ職務ニ關シ便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ金圓ノ供與ヲ爲スモノナルコトヲ知リナカラ名ヲ貸借ニ藉リ之カ供與ヲ受ケタリトノ事實ヲ認定スルニ付證據トシテ第一審相被告人長瀬保治ノ第一回及第二回豫審調書及相被告人中桐徳三郎ノ第一回及第二回豫審調書ニ於ケル各記載ヲ舉示シ主トシテ之ニヨリ被告人伊之吉ノ右知情ノ點ヲ認定シタリト雖被告人伊之吉ノ心事ヲ認定スルニ他人ノ供述ヲ以テスルヲ妨ケサルコト上鉅ノ如ク而シテ右各供述記載ニ依レハ右知情ノ事實ハ優ニ推認シ得ルトコロナルノミナラス原判決ハ右ノ證據ノ外尙被告人伊之吉ノ第一回及第二回豫審調書ニ於ケル被告人伊之吉自身ノ供述記載ヲモ舉示スルモノニシテ之ニ依レハ被告人伊之吉カ長瀬保治ト金圓ヲ授受スルニ付テハ特ニ同人ト約シテ四日市市内三瀧橋ニ待合スコトトシ同所附近路上ニ於テ其ノ授受ヲ爲シタル事實及被告人伊之吉カ中桐徳三郎ト金圓ヲ授受シタルハ其ノ妾ヲ伴ヒ大阪ニ赴ケル際ニシテ供與ヲ受ケタル金額ノ半額ハ直ニ之ヲ妾ニ交付シタル事實ヲ認メ得ヘク右ハ前示各證據ト相俟ツテ當時被告人伊之吉ニ收賄

ノ犯意アリシコトヲ認メシムルニ資スルモノト謂フヘク則チ原判決ハ所論ノ點ニ付證據ナクシテ認定ヲ爲シタルモノニアラサルコト明瞭ナリ從テ論旨ハ理由ナシ

被告人徳三郎辯護人小西喜雄上告趣意書第二點被告人中桐徳三郎カ「大阪市住吉區平野政所町二丁目十八番地ニ於テ中桐鐵工所ナル名義ヲ用ヒ鐵工業ヲ營メル中桐彦太郎ノ養子ニシテ同人ニ代リ其ノ營業ニ從事セルモノナル」コト及ヒ昭和五年十二月十四日自宅ニ於テ相被告人本間伊之吉ニ金二百圓也ヲ交付シタルコトハ誠ニ原審判決摘示ノ通りニテ何等相異スルトコロ無シ然レトモ被告人徳三郎カ相被告人伊之吉ニ金二百圓也ヲ交付シタルハ原審判決理由第二ニ摘示セルカ如ク「被告人本間伊之吉ニ對シ其ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝ニ同人ノ職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ金二百圓ヲ交付シ以テ贈賄シタルモノ」ニアラスシテ從來兩者ノ間ニ多年ノ交友關係結ハレ居タルノミナラス貸借ノ關係スラ有之タル間柄ナリシニ因リ友人トシテ貸與シタルモノ則チ贈賄ニアラスシテ單純ナル貸借ニ過キス此ノ點亦原審判決ニ於テハ重大ナル事實ノ誤認有之タルモノト見ルヘク破棄ヲ免レサルモノナリト信ス以下順次其ノ贈賄ニアラサルコトノ主張ノ眞實ナルヘキ事ヲ略記ス(一)被告人徳三郎カ經營スル鐵工所カ上水道用品納入ノ指名入札者中ニ加ヘラレタルハ相被告人伊之吉カ特ニ被告人徳三郎ニ好意ヲ寄セタル結果ニアラス原審第二回公判(昭和七年三月二十九日)ニ於テ證人小寺松次郎ハ「次ニ中桐ノ方ヲ指名者内ニ加ヘタ理由ハ上水道鐵管ノ附屬品制水辨ハ日本テ中桐ノモノカ最モ良イ

トノ定評ニナツテ居タ程ノモノテアリマシタカラテス右指名ヲ受ケタ人ハ中桐ヲ加ヘテ四五名テアリマシタカ入札ノ結果中桐ニ落札致シタ譯テアリマス」ト明白ニ證言シ且本辯護人ヨリハ又「經歷書ト題スル書面中桐鐵工所ノ入注簿カタログ各一冊ヲ提出シ中桐鐵工所ノ製品カ優良ニシテ同店ヲ指名加入セシメタ事カ當然ナルコトノ一端ヲ證」シタリ(原審第二回公判調書參照)第一審公判ニ於テ相被告人伊之吉ハ指名ニ關シ「商人ノ選定ハ小寺部長ニ傳ヘテ相談スルノテアリマス辨檢類ニ付テ最モ信用アルノハ何處カトイフコトテアリマシタカラ中桐ハ日本テモ信用アル店テアルシ又私ハ中桐徳三郎ヲ知ツテ居タカラ小寺部長等ト相談シテ同店ヲ選定スルコトニナツタノテアリマス」ト指名者ニ加ヘタル理由ヲ申シ居レリ即チ相被告人伊之吉カ被告人ノ鐵工所ヲ指名者ニ加ヘント當該部長ニ申告相談シタルハ技師トシテ當然爲スヘキヲ爲シタルニ過キス被告人徳三郎ニ特ニ好意ヲ寄セタル結果ニアラサルナリ(二)四日市市ニ對シテ納品スルニ際シ檢收ヲ便ニセラレタル事實更ニナシ第一審公判廷ニ於テ被告人伊之吉カ陳述セル如ク檢收ニ付テハ「鐵管試驗主任カアツテ其ノ者ヤ職工等カ一々檢收シテ居リ」被告人徳三郎カ陳述スルカ如ク「辨檢類ヲ供給スルニ付本間ニ便宜ヲ與ヘテ貰フタコトハナイ」ノミナラス製作ニ取リカカル前四日市市ハ既ニ職工其ノ他ヲ被告人ノ工場ニ派遣シ視察セシメ嚴重ニ檢收シタルモノナリ被告人經營ノ鐵工所ノ作製ニ係ル辨檢類ノ納入ニ際シ檢收ヲ便ニセラレタリ等云々セラルルコトハ鐵工所ノ權威ニ係ルモノトシテ被告人ノ寧ろ甚シク遺憾トスルコロナリ(三)

豫審終結決定書及第一審判決ニハ「既ニ檢收セル辨檢類ノスピンドルニ付上水道委員ヨリ粗惡品ナルノ故ヲ以テ分析試験ヲ要求セラレタルニ對シテ肉眼検査ニテ足ルヘキ旨主張シ中桐鐵工所ノ爲有
利ナル取扱ヲ爲シ」タル旨記述セラレタリ然レトモ(イ)スピンドルノ配合率ヲ定メタルハ擴張力ニ
對スル一ノ目安ヲ定メタルモノニ過キス而モ中桐鐵工所ヨリノ納品カ優良品ナリシ事實ハ證第二十五
號岡崎平三郎作成調査報告書第十八ノ部ニ參照シテ明カナリ(ロ)配合率ハ前述ノ如ク一ノ目安ニ過
キス擴張力タニ四日市市ノ條件ニ合致セハ差支ヘ無之モノナリ而シテ四日市市ノ擴張力ノ規定ハ二三
二〇キログラムナルニ中桐鐵工所製作ニ係ルスピンドルノ擴張力ハ實ニ二三二五キログラムニシテ規
定以上ハルカニ優良ナリシコトハ證第十九號名古屋高等工業學校擴張試驗成績證明書ニ照シテ明カナ
リ(ハ)東京京都大阪神戸横濱等全國主要都市ノ何レヲ問ハススピンドルノ檢收ニ付分析試験ヲ爲シ
タルコトナク又其ノ必要無キハ勿論肉眼検査ニ依ルヲ以テ充分ナレハ前記岡崎平三郎作成調査報告書
ニ依ルモ明白ナルノミナラススピンドルノ分析ハ事實ニ於テ不可能ナリ何トナレハスピンドルナルモ
ノハ部分品ニシテ分析ヲ必要ナリトスレハ其ノ各箇ニ付テ分析セサル限リ分析ハ完全ニ爲サレタルモ
ノナリトイフコト能ハサルカ故ナリ即チ相被告人伊之吉カ上水道委員ヨリスピンドルノ分析試験ヲ要
求セラレタルニ對シ肉眼検査ニテ充分ナル旨主張シタルハ技師トシテノ權威ヨリ及ヒ四日市市ニ無用
ナル費用ヲ支出セシメサルヤウ努メタル相被告人伊之吉ノ市ニ對スル忠實ナル奉公ノ表現ニシテ且技

師トシテ其ノ權威ヲ以テ正當ナル主張ヲ主張シタルニ外ナラス(四)納入品ノ期日ヲ延期願ヲ提出シ
テ延期シ貫ヒタル事實アリ然レトモ其ハ四日市市上水道部ニ於テ設計企圖ノ變更ノ爲止ムヲ得サル事
情ノ下ニ便宜上被告人徳三郎ヨリ市ニ對シテ延期願ヲ提出致シタルモノ寧ロ四日市市ノ都合ニヨリ被
告人ニ於テ便宜ノ取計ヒニ應シタルニ過キス(五)前記(四)ニ記載セル如ク四日市市ノ設計變更ニ
因リテ物品ノ納入期日ヲ延期シタルモノナレハ勿論違約金等ヲ同市ニ納付スヘキ筋合ニアラサルノミ
ナラス第一點ニ於テ主張セルカ如ク違約金ノ徵收ハ相被告人伊之吉ノ職務權限ノ範圍ニ屬セサル事項
ニシテ之亦相被告人伊之吉トノ間ニ於テ何等ノ交渉關係存セサルモノナリト謂ヒ」第三點第二點ニ於
テ被告人徳三郎カ相被告人伊之吉ヨリ職務關係ニ於テ便宜ヲ得タルコトナキ事實及將來便宜ヲ得ムカ
爲金圓ヲ交付シタルニアラサル事實ハ判明シタルモノト信シ更ニ進ンテ以下被告人及相被告人間ニ授
受セラレタル金圓カ貸借關係以外ノ何モノニモアラサルコトニ論及セントス(一)被告人徳三郎ト相
被告人伊之吉トハ嘗テ大正二年頂ヨリ三年間餘尾尾銅山ニテ而モ同一ノ部屋ニ於テ勤務シタルコトア
リ其ノ後職業的ニ進路ヲ異ニシタルタメ相往來スルコト無カリシモ大正十一年和歌山市ニテ舊交ヲ溫
メ今次更ニ四日市市ノ上水道工事ニ際シ相見ユルニ至リタルモノニテ其ノ交友ノ度合深マル自然ノ數
ナリト言ハサルヘカラス古往今來十年ノ交際アルモ一日ノ知己トナル能ハサルモノアルト同時ニ一日
ノ友交直チニ百年ノ知己トナリ得ルモノアルコトハ吾等ノ實驗則ニ徵シテ明カナルトコロニシテ交友

關係ノ深淺親疎ハ其ノ交友ノ年限ノ長短若クハ往復ノ回数交通ノ度合ト正比例スルモノニ在ラサルナリ(二)昭和七年三月二十九日原審第二回公判調書記載證人小寺松次郎ノ證言ニ依リ明カナル通り被告入徳三郎ハ知己伊之吉カ四日市市上水道部技師トシテ奉職シ居ル關係上特ニ他ノ都市若クハ町村ト契約シタル價格ヨリモ減額シテ其ノ注文ニ應ジテ四日市市ノ爲ヲ慮リ贈賄セサレハ納入シ能ハサルカ如キ不良品ヲ納入シタルニアラサルノミナラス又之ニヨリテ贈賄セサルヲ得サル程利益ヲ得タルモノニアラサルナリ(三)相被告人伊之吉カ被告人徳三郎ニ金借ノ申込ヲ爲シタルコト及ヒ之ニ對シテ被告入カ承諾ヲ與ヘタルハ昭和五年十二月初頃文通ニ依リタルモノニシテ上水道委員主査等ヨリ「スピンドル」ノ問題カ提起セラレタルト時期ヲ異ニス被告人伊之吉カ被告人徳三郎方ニ於テ金二百圓也ノ交付ヲ受ケタルトキ伊之吉ヨリ「スピンドル」ニ關スル談話アリタルハ關係工事ニ關スル時事上ノ談トシテ雜話ヲ爲シタルニ過キササルナリ(四)萬一被告人伊之吉カ「スピンドル」ニ關スル談話ヲ利用シ且被告人徳三郎ニ於テ將來ノ便宜ヲ得ンカ爲贈賄スル場合ナリセハ被告人伊之吉カ都合ニ依リ金三百圓借用シタシト口頭ニテ當日増額金借ノ申入ヲ爲シタルニ際シテ之ヲ拒絕スル道理ナシ贈賄スルモノナレハ其ノ要求全額ニ應スヘク之無カリシハ則チ純然タル貸借ノ關係ナレハナリ(五)相被告人伊之吉ハ被告人徳三郎ニ對シ金員ノ貸借ニ關シ借用證書ヲ差入レ居ルノミナラス被告人徳三郎カ四日市市ニ納品ノ契約ヲ爲ス數年前ニモ同様ノ方法ニテ貸借ノ關係存在ス而モ前回ノ貸借ハ純然タル貸借ニ

シテ今回ノ貸借ハ贈賄ナリト見解ヲ異ニスヘキ理由無シ同一共同被告人間ニ行ハレタル二度ノ貸借ノ間ニ於テ職務ノ關係發生シタリトスルモ單ニ其ノ關係ノ發生シタリトイフ理由ノミニ因リ一ヲ貸借ト見他ヲ贈賄ナリトスルカ如キハ事實ノ誤認モ亦甚シキモノナリトイハサルヘカラス則チ本件兩被告人間ニ於テ行ハレタル金圓ノ授受ハ貸借ニ依ル授受ニシテ贈賄行爲トシテノ授受ニアラサルナリ原審及第一審判決ニ於テ之ヲ贈賄行爲ノ授受ナリト見タルハ重大ナル事實ノ誤認アリタルモノト謂フヘシ而シテ被告人徳三郎及相被告人伊之吉間ノ金圓授受カ交友間ノ單純ナル金錢貸借ニ過キササルモノト看做サルヘカリシモノヲ贈賄行爲ニ因ル授受ナリト誤認セラレタル原因ハ相被告人伊之吉カ金錢ヲ浪費シタル原因ニ公務員トシテ恥ツヘキ所爲アリ且被告人徳三郎方ニ立寄リタルトキノ事情其ノ他ニ關シ相被告人伊之吉ノ所爲ニ被告人徳三郎ニ對シ虛偽ノ事由ヲ原因トシテ金借ヲ申入レタル等交友ヲ欺クカ如キ事情存在シタルト更ニ第一審相被告人長瀬保治及相被告人伊之吉間ノ金錢授受カ職務ニ關シテノ授受ナリト看做サレタル爲同様ノ觀察ヲ下サレタル結果ニ因ルト謂フニアレトモ

原判決ノ認定シタル被告人伊之吉カ四日市市臨時上水道部副部長トシテ中桐鐵工所ト四日市市長トノ水壓試驗機竝ニ上水道用鐵管附屬品制水弁ノ供給契約ニ基ク納入物品ノ檢收等ノ職務ニ執掌中同鐵工所業務擔當者タル被告人徳三郎ヨリ名ヲ貸借ニ藉リ被告人伊之吉ノ右職務行爲ニ對スル謝禮竝ニ該職務ニ關シ將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ金二百圓ヲ被告人伊之吉ニ交付シ同被告人カ其ノ趣旨ヲ

諒シテ其ノ交付ヲ受ケタリトノ事實ハ原判決ノ舉示セル各證據ヲ綜合シテ優ニ之カ認定ヲ爲シ得ヘク
記録ヲ精査スルモ右金圓ノ授受カ被告人伊之吉ノ職務ト關係ナキ金錢貸借ニ過キサレト認ムヘキ
何等ノ證據ナキノミナラス其ノ他原判決ニ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由
存セサルヲ以テ論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事柴碩文關與

○暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反傷害教唆被告事件

(昭和七年(九)第七八九號
同年八月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小林 藤藏 辯護人 赤井 幸夫
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

強制處分中ノ被疑者ニ對スル檢事ノ搜查權

○判決要旨

檢事ハ非現行犯ニ付強制處分ヲ請求シタル場合ト雖當該判事ノ職
權行使ヲ妨ケサル限り強制處分中ノ被疑者ノ任意陳述ヲ聽キ聽取
書ヲ作成スル等普通ノ搜查ヲ爲スヲ妨ケス

【參照】 刑事訴訟法第二百四十六條 檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜
査スヘシ

同法第二百五十五條 檢事搜查ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提
起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其
ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有
ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三百圓ニ處ス右罰金ヲ完納ス
ルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

強制處分中ノ被疑者ニ對ス檢事ノ搜查權

第一 被告人神志那和睦 原壽枝 磯邊幸助ハ孰レモ大阪市北區北扇町所在大阪市立高等女學校父兄會會員ニシテ被告人小林藤藏ハ同校父兄會特別委員ナルトコロ昭和六年六月中旬頃當時ノ右女學校校長須藤甚之助カ大阪市ノ進達ニ依リ休職ヲ命セラルルヤ同校父兄會會員有志者ハ同校長ヲ追慕スルノ餘其ノ復職運動ヲ爲スヘキコトヲ決議シ該運動事務所ヲ北區兔我野町西念寺内ニ設置シ被告人等ハ外二十數名ノ者ト共ニ右復職運動實行委員ニ推舉セラレ爾來或ハ大阪市長大阪府知事ヲ訪ヒ又ハ上京シテ内閣總理大臣文部大臣等ニ面接シ須藤前校長ノ復職ヲ陳情嘆願シ一面大阪市内數箇所ニ於テ演說會ヲ開催シ社會ノ同情ニ訴フル等只管其ノ目的ノ達成ニ努メタルモ容易ニ其ノ運動ノ效果ヲ舉クルコト能ハサリシ折柄同校在校生有志及卒業生有志ハ同年八月三十一日同市西區土佐堀青年會館ニ於テ大會ヲ開キ在校生有志ハ須藤前校長復職ノ目的ヲ達スル迄同盟休校ヲ爲スヘキコトヲ決議シ卒業生有志ハ之ヲ援助セシムルコトヲ決議シタルヨリ被告人小林藤藏 神志那和睦等ハ其ノ他ノ實行委員十數名ト共ニ同夜右西念寺ニ會合シ實行委員ニ於テモ右在校生有志ノ決議ヲ援助シ翌九月一日ノ始業式ニ際シ實行委員ヲ始メ一般父兄ハ右盟休決議ニ參加シタル在校生及卒業生等ニ附添ヒ該決議ニ參加セサリシ在校生ヲ其ノ登校ノ途ニ擁シテ盟休加入ヲ勸誘スヘキコトヲ申合セ尙被告人小林藤藏ハ西村國松其ノ他實行委員幹部等ト謀議シ翌九月一日ニハ人夫ヲ雇入レ恰モ一般父兄ノ如キ服裝ヲ爲サシメ之ヲ右學校附近ノ要所ニ配置シテ右實行委員等ノ行動ヲ妨害阻止スル者アルトキ

ハ暴力ヲ以テ之ニ臨ミ飽迄全校生徒ノ同盟休校ヲ實現シ須藤前校長復職運動ノ局面ヲ有利ニ展開セシコトヲ企テ同夜西村國松ハ被告人神志那和睦ニ同人ハ更ニ井上儀一及被告人原壽枝ニ順次右趣旨ヲ傳達シテ人夫雇入ノ斡旋ヲ依頼シ右井上儀一及被告人神志那和睦 原壽枝ハ孰モ之ヲ了承シテ右計畫ニ加擔シ被告人原壽枝ハ同夜更ニ山田金太郎ニ右趣旨ヲ告ケテ人夫ノ調達ヲ依頼シ同人ハ翌九月一日午前六時頃人夫山田一男 山田義則 小川鑛太郎 野戶繁雄及山下實ニ右井上儀一ハ同日午前七時頃人夫濱野正男 奥田政之亮 阪東隆芳及加納清ニ對シ孰モ夫々其ノ情ヲ告ケテ右計畫ニ參與加擔セシメ茲ニ被告人小林藤藏 神志那和睦 原壽枝及右井上儀一 山田一男 山田義則 小川鑛太郎 野戶繁雄 山下實 濱野正男 奥田政之亮 阪東隆芳 加納清等ハ相通謀シ同年九月一日午前七時過頃其ノ者ト共ニ相前後シテ右市立高等女學校附近ニ至リ被告人磯部幸助モ亦同人等ト共ニ同所ニ赴キ各自登校生徒ノ狀況ヲ監視シ居リタル際同日午前七時二十分頃同校校長代理岡部嘉一カ同校通用門ニ立出テタルヲ認メ被告人小林藤藏ハ「出テハイカヌ」ト叫ヒナカラ同人ニ迫リ手ニテ同人ノ胸部ヲ衝キ右通用門内ニ押込メ右井上儀一 山田一男 山田義則 小川鑛太郎 野戶繁雄 山下實 濱野正男 奥田政之亮 阪東隆芳 加納清及被告人磯邊幸助等モ亦相次テ右嘉一ニ迫リ井上儀一 奥田政之亮 濱野正男等ハ同所ニ於テ相共ニ右嘉一ノ顔面肩等ヲ手ニテ毆打シ同人ノ倒ルルヤ加納清ハ其ノ胸部ヲ下駄ニテ踏付ケ同人カ畏怖シテ後退遁走セムトスルヤ被告人小林藤藏 磯邊幸助ハ阪東隆芳等及其

ノ他ノ者等ト共ニ之ヲ追ヒ同校校舍内廊下ニ於テ被告人小林藤藏ハ所携ノステツキヲ以テ右嘉一ノ左足大腿部ヲ阪東隆芳ハ手拳ヲ以テ其ノ背部ヲ執モ毆打シ被告人磯邊幸助モ亦右暴行ノ趣旨ヲ察知シ之ニ加勢シ同人等ト共同シテ右嘉一ノ洋服ノ襟ヲ掴ミ其ノ首ヲ締上ケ小川鑛太郎 野戸繁雄 山下實 山田義則等ハ右通用門内ニ於テ右嘉一ヲ救助セムトシテ立出テタル同校守衛木村金藏ノ肩及背部等ヲ執レモ手ニテ衝キ或ハ毆打シ山田一男及濱野正男ハ同校校舍内廊下ニ於テ右嘉一ヲ救助セムトシタル同校給品部員有田新次ニ對シ執モ手拳ヲ揮ヒ同人ノ肩及背部等ヲ衝キ或ハ毆打シ濱野正男 奥田政之亮 阪東隆芳及加納清等ハ同校校舍内廊下及運動場ニ於テ同校生徒父兄高津太郎衛ヲ衝キ倒シ或ハ手ヲ以テ其ノ顔面胸部背部等ヲ毆打シ右暴行ヲ爲シ

第二 被告人小林藤藏ハ同年九月一日午前七時頃前記西念寺ニ於テ長坂民壽及寒川安平ニ對シ大阪市北區扇町公園電車交叉點ニ赴キ市立高等女學校生徒ニ附添ヒ若シ右生徒等ノ行動ヲ妨害スル者アルトキハ之ヲ毆打スルモ差支ヘナク其ノ責任ハ當方ニ於テ負擔スル旨申告ケテ暴行ヲ爲スヘキコトヲ教唆シ因テ右長坂民壽 寒川安平ヲシテ暴行ヲ爲スヘキコトヲ決意シ同日午前七時過頃前記扇町公園電車停留所附近ニテ大阪市立高等女學校生徒等ヲ監視シ居リタル際同校教諭畑德次郎カ右扇町公園東入口附近ニテ同校生徒等ト談話セルヲ認メ右ハ生徒等ノ行動ヲ妨害セムトスルモノナリト信シ相共ニ同人ヲ襲ヒ各自手ヲ以テ其ノ顔面胸部等ヲ毆打シタル上同人ヲ衝倒シテ暴行ヲ爲シ因テ同人

ノ左側脛骨部前内面右膝關節後部脛骨上部先端部ニ各擦過傷左側大腿部外數箇所ニ打撲傷ヲ與ヘ治療約三日ヲ要スル傷害ヲ加フルニ至リタルモノナリ

而シテ被告人小林藤藏カ自ら直接ニ及判示ノ者等ト相通謀シテ行ヒタル判示第一ノ暴行ノ各所爲被告人神志那和睦 原壽枝カ夫々判示ノ者等ト通謀シテ爲シタル判示第一ノ暴行ノ各所爲ハ孰モ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人小林藤藏ノ判示第一所爲ハ大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第五十五條ニ判示第二ノ所爲ハ同法第六十一條第一項第二百四條ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定刑中執レモ罰金刑ヲ選擇シ右二罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ依リ右各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

檢事ハ非現行犯タル本件ニ付昭和六年九月二十九日被告人小林藤藏ニ對シ大阪區裁判所判事ニ被疑者ノ訊問勾留ノ強制處分請求ヲ爲シ判事ハ其ノ翌日右被疑者ヲ訊問シタル後直ニ勾留狀ヲ發シタルカ其ノ拘禁中ニ於テ檢事ハ同人ニ對スル聽取書ヲ作成シ尙被告人神志那和睦同原壽枝同井上儀一ニ對シテモ檢事ハ右ト同様ノ狀態ニ於テ聽取書ヲ作成シタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ證據トシテ被告人小林藤藏ニ對スル檢事聽取書同神志那和
睦ニ對スル檢事ノ聽取書同原壽枝ニ對スル同上井上儀一ニ對スル同上等ヲ引用シタリ仍テ記錄ニ就キ
調査スルニ(一)小林藤藏ニ對シテハ昭和六年九月二十九日檢事ヨリ大阪區裁判所判事ニ對シテ被疑
者ノ訊問勾留ノ強制處分ノ請求アリ判事ハ其ノ翌日右被疑者ヲ訊問シタルモ右訊問タルヤ其ノ訊問調
書ニ明ナルカ如ク「問此ノ事實ハ如何判事ハ強制處分請求書ニ基キ被疑事件ヲ解示シタリ答岡部ヲ毆
ルトカ其ノ他暴行ヲ加ヘタ様ナ事實ナク返ツテ岡部ヲカバツテ自分カ毆ラレタ位テアリマス」トアル
極メテ簡單ナル問答ヲ爲シタルニ過キスシテ直ニ勾留狀ヲ發シ以テ被告人ヲ拘束シタルモノニシテ右
小林藤藏ニ對スル前示ノ檢事ノ聽取書ハ實ニ其ノ勾禁中ニ作成セラレタルモノ(二)又神志那和睦ニ
對シテハ檢事ハ大阪區裁判所判事ニ對シテ昭和六年九月十四日被疑者ノ訊問勾留ノ強制處分ヲ請求シ
タル處判事ハ其ノ翌九月十五日同人ヲ訊問シタルモ之亦「問此ノ事實ハ如何判事ハ強制處分請求書ニ
基キ被疑事實ヲ解示シタリ答私ハ關係シテ居リマセン」トノ極メテ單純ナル取調ヘヲ爲シタルノミニ
テ同人ヲ勾留シタルモノニシテ前示檢事ノ聽取書ハ其ノ勾留中ニ作成セラレタルモノ(三)原壽枝井

上儀一ニ對スル聽取書等モ亦同様ノ狀態ニ於テ作成セラレタルモノナルコト明ナリトス然レトモ檢事
カ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ基キテ判事ニ強制處分ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ判事ノ取調
尙不充分ナリト思料スルトキハ更ニ事項ヲ示シテ其ノ取調ヘヲ請求スヘキモノニシテ判事ノ處分ニヨ
ル勾留中檢事自ラ其ノ被疑者ヲ取調フルカ如キハ非現行犯事件ニ付檢事自ラ被疑者ヲ勾留シテ取調ヘ
ヲ爲スト何等其ノ實質ニ於テ異ナル處ナク斯ノ如キハ刑事訴訟法第二百五十五條ヲ惡用スルノ甚シキ
モノニ係リ一ノ脱法的處分ニシテ斷シテ許容スヘカラサル事項ニ屬ス從テ斯ル違法處分ニヨリテ作成
セラレタル前示聽取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ
現行刑事訴訟法ニ於テハ檢事カ犯罪ノ捜査ヲ爲スニ當リテハ強制力ヲ用フルヲ得サルノ原則ヲ認メ實
際上強制力ヲ用フルニアラサレハ證據ノ蒐集保全ヲ爲シ得サル場合ニ於テモ現行犯ニ關セサル限り檢
事ハ自ラ被疑者ノ勾留及其ノ訊問等刑事訴訟法第二百五十五條所定ノ強制處分ヲ爲スノ權能ナク唯其
ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルノ途アルニ止マルコト法文上明白ナ
リト雖此ノ規定ハ強制處分ニ非サル檢事ノ捜査權ノ行使ヲ除外スルモノニ非ス即檢事ハ右強制處分中
ノ被疑者ニ對シテモ當該判事ノ職權行使ヲ妨ケサル限り其ノ任意陳述ヲ聽キ聽取書ヲ作成スル等普通
ノ捜査ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス本件記錄ヲ査閱スルニ檢事ハ小林藤藏 神志那和睦 原壽枝 井
上儀一等ニ對シ被疑者ノ訊問及其ノ勾留ノ強制處分ヲ大阪區裁判所判事ニ請求シ其ノ勾留アリタル後

【要旨】

強制處分中ノ被疑者ニ對ス檢事ノ捜査權

ニ於テ右ノ者等ヲシテ任意陳述ヲ爲サシメ聽取書ヲ作成シタリト雖之ヲ以テ所論ノ如ク刑事訴訟法第二百五十五條ヲ惡用スル脫法的ノ違法處分ナリト爲スヘキニ非サルヲ以テ原裁判所カ是等聽取書ヲ採テ以テ罪證ニ供シタルハ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件

(昭和七年(九)第八四八號
同年九月十三日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 田村 高作 辯護人 玉井潤次

【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

宣告刑期ト執行猶豫期間

○判決要旨

執行猶豫期間ノ長短ハ必シモ宣告刑期ノ長短ト對應スルコトヲ要スルモノニ非ス

【參照】 刑法第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

○事實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人高作ヲ懲役五月ニ被告人三平ヲ懲役三月ニ處ス但シ被告人兩名ニ對シテハ裁判確定ノ日ヨリ各四年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人佐藤俊夫ハ全國農民組合新潟縣聯合會(舊北日本農民組合)漆山地區常任書記トシテ同地區管轄内ノ組合事務一般ヲ處理シ被告人田村高作ハ同地區執行委員長被告人米山三平ハ同地區内四ツ合村大字水澤新田副支部長ニシテ共ニ農民運動ニ從事スル者ナルカ被告人俊夫及高作ハ西蒲原郡漆山村大

字漆山ノ地主田中繁太カ小作人等ノ懇願ヲ拒絕シテ小作地ノ取上ヲ爲スヘク土地明渡ノ訴訟ヲ提起シ爲ニ佐藤七太郎外一名ニ對スル分ハ既ニ小作人等敗訴ノ判決確定シタルカ尙同組合員タル原審相被告人羽廣由平外三名ニ對スル分モ前同様小作人等敗訴ノ判決アルヘキヲ豫想シ深ク右田中繁太ノ措置ヲ憤慨シ居タルトコロ昭和七年三月十二日同郡大原村大字茨島ナル被告人高作方ニ於テ同人被告人俊夫及右羽廣由平ノ三名集合シテ地主田中繁太ハ日頃來暴力團ヲ雇ヒ置キ土地明渡訴訟ノ撤回方ヲ請求ニ趣キタル被告人等ヲ高壓的ニ制止シテ面會ヲ肯セザリシヨリ此ノ際組合員大衆ヲ動員シテ多衆ノ威カヲ示シテ面會ヲ求メ折衝ヲ重ヌルニ非レハ訴訟事件ヲ組合員ノ有利ニ展開スルノ策ナシト爲シ交渉ノ日取方法等ハ之ヲ被告人俊夫ニ一任シタル結果同月十五日被告人俊夫ハ被告人三平等ニ對シ組合員動員ノ通告ヲ發シ同夜九時頃暗夜ニ乘シ同組合員約百名ヲ漆山地區事務所前ニ集合セシメ被告人俊夫同高作等ハ先頭ニ立チテ組合員ヲ指揮シ一同メーデー歌ヲ高唱シツツ前記田中繁太方宅地内ニ殺到シ口々ニ「惡地主田中出口」「ヤッツケロ」等ト怒號シ乍ラ所持ノ鍬及竹棒等ヲ以テ同家表入口戸ヲ叩キ又表硝子戸及格子等ヲ叩キテ之ヲ損壞シ且田中繁太及其ノ家族ノ生命身體等ニ危害ヲ加フヘキカ如キ氣勢ヲ示シテ脅迫シタルモノナルカ其ノ際

第一 被告人俊夫ハ田中繁太方表入口附近ニ於テ「繁太出口」「ヤッツケロ」「叩キ殺セ」等ト怒號シナカラ所携ノ竹棒ヲ以テ同家表格子戸ヲ約十回叩キ付ケ

第二 被告人高作ハ前同所ニ於テ「田中出レ出レ」ト怒號シナカラ手拳ヲ以テ同家表入口戸ヲ一二回叩キ付ケ

第三 被告人三平ハ前同所ニ於テ「極惡地主田中ノ野郎ヤッツケロ」等怒號シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スルヲ以テ各被告人ニ對シ懲役刑ヲ選擇シ所定期刑範圍内ニ於テ被告人俊夫及高作ヲ各懲役五月ニ被告人三平ヲ懲役三月ニ處スヘク尙被告人高作及三平ニ對シテハ情狀ニ因リ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ヲ適用シ本裁判確定ノ日ヨリ各四年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人玉井潤次上告趣意書各被告人ニ對スル暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ニ付昭和七年五月十八日新潟地方裁判所ニ於テ被告人田村高作ニ對シ懲役五箇月被告人米山三平ニ對シ懲役三月ニ處シ四年間刑ノ執行ヲ猶豫ノ判決ヲ言渡サレタリ依テ右被告人ハ直チニ上告申立ヲ爲シ昭和七

年九月二日公判期日ト指定相成リタルモ右判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト信ス一、抑刑ノ執行猶豫ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡シヲ受ケタルモノニ對シ其ノ情況ニヨリ一年以上五年以下ノ期間ヲ以テ定ムルコトヲ得ルモノナリ而シテ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリ故ニ刑ノ言渡カアリタル時ニ其ノ執行猶豫カ判決其ノ者ノ構成部分トナルノカ否ヤヲ第一ニ考ヘネハナラヌ之カ其ノ構成部分トナレハ三箇月ノ刑ニ對シ四年間ノ執行猶豫ハ著シキ刑ノ量定ヲ誤ツタモノト謂ハネハナラヌ(A)執行猶豫ノ言渡カアツテ其ノ期間ノ經過ニヨツテ我國法上刑ノ言渡カ其ノ效力ヲ失フノテ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト分離シテ考ヘル事カ出來ナイ從テ執行猶豫ハ判決其ノ者ノ構成部分ト考ヘルノカ當然タ(B)執行猶豫ハ犯人ノ公權ニ影響ヲ及ホスモノタ(選舉法辯護士法等々)即チ其ノ期間中ハ公權ノ停止サルルモノカアルノタ然リトスレハ公權ノ上カラ見レハ刑ノ執行ヲ受クル事カ寧ロ其ノ公權カヨリ多ク保護サレル事カアルノタ從テ執行猶豫其レ自體カ特種ノ公權停止ノ效力ヲ生スルコトトナラナケレハナラヌ結果トナルカラ判決ト分離シテ考ヘルコトカ出來ス判決ノ構成分子トナルノカ當然タ(C)現行法ニ付テ觀ルニ刑法ハ第二十五條ニ「刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ」ト規定シテ執行猶豫ト分離シテ刑ノ言渡ヲ爲スカ如キ記載アルモ執行猶豫其ノ者ハ刑ノ言渡ヲ前提トスルモノタカラ如此記載アリトテ直チニカク考フルヘキニアラス寧ロ刑事訴訟法第三百五十八條ニ「刑ノ言渡ト同時ニ」ト規定カアルカラ判決其ノ者ノ構成部分トナ

ルノタニ、執行猶豫カ判決ノ構成部分ナリトスレハ本件ノ如キ場合ニ刑カ五箇月ヤ三箇月テ猶豫期間ハ四箇年トスル如キハ果シテ正當カ抑衆議院議員選舉法第六條ニ依レハ選舉權及被選舉權ヲ有セサルモノハ本件ノ如キ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反ヲ犯シ其ノ刑ノ執行中ノモノテアノテ今日ノ如ク普通選舉ノ時代テ選舉權被選舉權ノ重要視セラレルノニ四箇年間ノ選舉權被選舉權ヲ停止スルノハ著シク重イト謂ハネハナラヌ勿論犯罪カ衆議院議員選舉法第六條第六項記載ノ場合ナレハ公權ノ侵害ノ結果ヲ生セサルカ故ニ刑ノ量定著シク不當ナリト謂フヲ得サルヘキモ本件ノ場合ノ如キハ明ラカニ不當ト謂ハネハナラヌ三、暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反ハ最長期三年以下テアルカラ本件ノ如キ高作ニ對スル五月三平ニ對スル三月共ニ其ノ犯情ニ於テハ重カラサルモノトノ認定ヲ受ケテ居ルノテ之ヲ四箇年ノ長期ニ互ル執行猶豫ニスルコトハ矛盾テアルノタ如此不均衡ナル執行猶豫カ合法的タトスル時ハ社會正義ノ觀念ニ背ク結果トナルノタ極端ナル場合ハ衆議院議員選舉法ノ精神ヲ沒却セシムルコトトナルノタ從テ刑ノ言渡ト執行猶豫ノ言渡トハ自ラ社會通念上其ノ均衡ヲ採ル事カ正シイ前記理由ニヨリ新潟地方裁判所ノ言渡ハ自ラ破毀サルヘキモノタト云フニ在レトモ

刑ノ執行猶豫ノ目的ハ犯罪ノ情狀重カラス且改悛ノ見込アリト認メラルル者ヲシテ短期自由刑ノ執行ニ因リ自暴自棄ニ陥ラシムルコトナク獄内ノ惡風ニ感染セシメス又釋放後ニ於ケル社會的復歸ノ困難ヲ經驗セシメサル爲判決裁判所ニ於テ刑ノ宣告ト同時ニ相當ノ猶豫期間ヲ定メ犯人ニ對シ該期間内猶

豫條件ニ違反シ再ヒ犯罪アルトキハ其ノ刑ヲ現實ニ執行サルヘキ威嚇ヲ以テ謹慎ヲ要求シ同時ニ新ニ刑ノ宣告ヲ受クルコトナク善良ノ行狀ニ因リテ該猶豫期間ヲ經過スルコトニヨリ刑ノ宣告ノ效力ヲ終局的ニ消滅セシメ得ル希望ヲ與ヘ因テ以テ犯人ノ改悛ヲ確實ナラシメ端正ナル生活ニ之ヲ誘導シ依テ刑罰ノ目的ヲ達セントスルニ在リ從テ其ノ猶豫期間ノ如キハ執行猶豫ヲ與フル裁判所ニ於テ犯人ノ年齡性格經歷環境犯罪ノ種類輕重其ノ他諸般ノ事情ヲ考慮シ一年以上五年以下ノ法定期間ノ範圍内ニ於テ敘上目的達成ノ爲必要ナリト思料スル期間ヲ定ムヘキモノニシテ其ノ期間ノ長短ハ必スシモ宣告セラレタル刑期ノ長短ニ對應セサルヘカラサルモノニ非ス今之ヲ本件ニ付記録ニ徵シ犯罪其ノ他如上諸般ノ事情ニ鑑ミルニ原審カ被告人高作ヲ懲役五月同三平ヲ懲役三月ニ處シ孰レモ四年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫シタルヲ目シテ其ノ猶豫期間長キニ過キ量刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト云フヲ得ス論旨ハ其ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○放火被告事件(昭和七年(れ)第五七九號
同年七月九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 加藤平四郎 辯護人

長井伸之介
相澤華
伊勢勝
齋藤最

【第一審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

陪審事件ノ公判準備調書ト刑事訴訟法第五十六條第三項乃至第五項ノ手續

○判決要旨

陪審事件ノ公判準備調書ニ付テハ刑事訴訟法第五十六條第三項乃至第五項ノ手續ヲ履踐スルコトヲ要セス

【参照】 刑事訴訟法第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人、宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

同法第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

同法第六十三條 公判調書ニハ裁判長、裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

陪審法第四十六條 公判準備調書ハ三日內ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺

印スヘシ

裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

○事實

原審ハ陪審ノ答申ヲ採擇シテ左記ノ如ク事實ノ認定ヲ爲シ且法律ヲ適用シテ被告人ヲ懲役五年ニ處ス

未決勾留日數中百八十日ヲ本刑ニ算入ス訴訟費用ハ陪審費用ヲ除キ全部被告人ノ負擔トス

被告人ハ名古屋市中區露橋町字柳原十九番地ノ一地上ニ二戸建一棟及三戸建一棟ノ家屋ヲ所有シ内二

戸建一棟ヲ河合鈔造及金漢五ニ他ノ一棟ヲ二名ノ朝鮮人ニ賃貸シ自己ハ同區西日置町字島谷十一番地

ニ借家シ疊製造業ヲ營ミ居リタル處妻マツカ數年前ヨリ肺患ニ罹リ失費少カラサリシノミナラス不景

氣ノ爲業態振ハスシテ遂ニ千餘圓ノ負債ヲ生スルニ至リ加フルニ賃借人タル金漢五外一名ハ家賃ヲ滯

納シ家屋明渡ノ請求ニモ應セザリシ爲彼是焦慮シ居リタルカ偶々自己所有ノ右家屋ニ付福壽火災保險

株式會社ト金二千圓ノ火災保險契約ヲ締結シアルニ想到シ茲ニ淺慮ニモ右金漢五及河合鈔造竝同人等

ノ家族ノ現ニ往居ニ使用スル右二戸建一棟ノ家屋ニ放火シテ之等ヲ燒失セシメ以テ保險金ヲ得ルト共

ニ右朝鮮人ヲシテ立退ノ已ムナキニ至ラシメント決意シ昭和六年七月一日深更石油在中ノ石油罐蠟燭

及燐寸ヲ携帯シ右金漢五方ニ到リ通り庭上方ノ物置内ノ藁束匏屑等ノ上ニ右石油罐ヲ置キ之ヨリ徐々

ニ漏出スル石油ヲ右藁束等ニ滲透セシメ其ノ傍ノ膳箱ニ點火シタル蠟燭ヲ立テ其ノ火カ時ヲ經テ右藁

束等ニ燃エ移ル様作爲シテ放火シ因テ金漢五及河合鈔造竝同人等ノ家族ノ現ニ住居ニ使用スル右二戸

建一棟ヲ全燒セシメ且吉田甚松方居宅ノ一部ニ延燒セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範

圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ通算ス

ヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ陪審費用ヲ除キ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

記録ヲ查スルニ原審裁判長ハ陪審ニ對スル說示中ニ公判準備調書ノ内容ヲ證據トシテ摘示シ而シテ該公判準備調書ニハ刑事訴訟法第五十六條ニ依リ其ノ記載ヲ被告人ニ讀聞カセ又ハ之ヲ閱覽セシメタル形迹ナキコト論旨所掲ノ如シ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人相澤隼人 伊藤勝藏上告趣意書第二點裁判長ノ證據トシテ說示シタル公判準備調書竝公判調書ハ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノトス(1)陪審事件ニ在リテハ公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セサルコト陪審法第四十條ノ規定スル所ナリ而シテ公判準備調書ニ付テハ公判調書ノ如ク刑事訴訟法第五十六條第三項乃至第五項ヲ適用セサル旨ノ規定存セサルノミナラス公判準備調書ニ記載シタル訊問及供述ノ内容ハ證據ト爲スヲ得ヘキモノナルヲ以テ他ノ公判廷以外ニ於テ作成スル調書ト同シク當然供述者ニ調書ヲ讀聞カシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ増減變更ノ申立ヲ調書ニ記載シ尙供述者ヲシテ調書ニ署名捺印セシムルノ手續ヲ履ムコトヲ要スルモノトス然ルニ本件公判準備

調書ヲ閱スルニ斯カル手續ヲ履ミタル事迹ノ見ルヘキモノナク從テ無効ノ調書ナルヲ以テ法律上證據ト爲スヲ得サルモノトス(2)公判調書ニハ公判ヲ爲シタル裁判所及年月日ヲ記載スヘキモノニシテ公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得ヘキモノナルコトハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリ然ルニ本件公判調書ヲ閱スルニ冒頭ニ昭和七年二月二十三日開廷スル旨記載シ調書ノ末尾ニハ同年二月二十四日ト記載シアリテ公判期日カ二十三日ナリヤ二十四日ナリヤ將タ辯論二日ニ互リタルモノナリヤ明ナラス假ニ辯論二日ニ互リタルモノトセハ孰レノ訴訟手續カ二十三日ノ公判期日ニ屬スルヤ將タ二十四日ノ公判期日ニ屬スルヤ不明ナリ畢竟本件公判調書ハ公判ヲ爲シタル年月日ノ記載ヲ缺如セル無効ノ調書ナルヲ以テ法律上證據ト爲スヲ得ス然ラハ則チ斯カル違法ノ手續ニ依リ評決セラレタル原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

仍テ按スルニ調書ノ作成ニ付陪審法ニ特別ノ規定存セサル場合ニ於テハ刑事訴訟法第五十六條ノ適用アルヘキヤ論ヲ俟タスト雖陪審ニ於ケル公判準備調書ノ作成ニ付テハ陪審法第四十六條ノ明文存スルコト猶ホ公判調書ノ作成ニ付刑事訴訟法第六十二條第六十三條ノ規定ノ存スルト同シ而シテ陪審法第四十六條第一項ハ「公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ」ト規定スルカ故ニ右調書ニ付テハ一般調書ニ於ケルカ如ク裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問ヒ且供述者ヲシテ調書ニ署名捺印セシムルカ

【要旨】

如キコトハ之ヲ行ハントスルモ能ハサル場合之アリト謂フヘク隨テ此ノ如キ手續ハ之ヲ履踐スルヲ必要トセサルノ法意ナリト解スルヲ相當トスヘシ然ラハ所論第一段ハ理由ナキモノト謂フヘク而シテ第二段ノ理由ナキコトハ辯護人齋藤最上告趣意書第一點ニ對スル説明ニ依リテ之ヲ了解スヘシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○名譽毀損被告事件(昭和七年(九)第四二五號 棄却)

(昭和七年七月十一日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 佐野 勝治 辯護人 河上丈太郎

外四名 赤井幸夫

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

名譽毀損罪ト摘示事實ノ精粗——團體内部ノ廓清ヲ目的トスル名譽毀損ト行爲ノ違法性

○判決要旨

一名譽毀損罪ニ於ケル事實ノ摘示ハ特定セラレ得ル他人ノ名譽力毀損セララルモノト認め得ヘキ程度ニ爲サルヲ以テ足り該事實力時期場所手段等ニ互リテ精密ニ特定セララルコトヲ要セス

【要旨第一】

二一定ノ團體ニ屬スル團體員ノ一部力其ノ團體ノ理事者ニ不正行爲アリトシ團體内部ヲ廓清シ團體ノ利益ヲ擁護セントスル場合ト雖其ノ理事者ニ對シ名譽毀損罪ヲ構成スル如キ手段ニ訴フルコトヲ得サルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス
同法第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

○事實

名譽毀損罪ト摘示事實ノ精粗 團體内部ノ廓清ヲ目的トスル名譽毀損ト行爲ノ違法性

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百三十條第一項第六十條第五十四條第一項第十條ヲ適用シ被告人佐野勝治ヲ罰金五十圓ニ被告人大橋房吉 濱田富次郎ヲ各罰金三十圓ニ被告人大橋光郎 千羽龜松ヲ各罰金二十圓ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シタリ

被告人等ハ多年神戸市林田區御崎本町ニ居住シ同町衛生組合ノ組合員ナル處同組合長淺野貞吉等役員ニ於テ同組合事務ニ關シ不正行爲アリトシ或ハ同役員等ノ同町青年會ニ對スル態度ニ不滿ヲ懷キ同組合刷新ノ目的ヲ以テ昭和五年七月頃同組合刷新期成會ヲ組織シ會員ノ募集ニ努メ或ハ言論ニ或ハ文書ニ依リテ前記淺野貞吉等役員ヲ攻撃糾弾シ居タルカ同年十月十八日被告人佐野勝治ニ於テ編輯印刷兼發行人ト爲リ被告人大橋房吉 濱田富次郎ニ於テ費用トシテ各金十五圓ヲ提供シ被告人等ニ於テ外十數名ト連名シテ御崎本町三丁目衛生組合刷新期成會報ヲ印刷發行シ「曾て淺野組合長は組合の名義を利用して自宅に電話を引き込みその費用は三百六十五圓であつたのであるがその後その電話を千數百圓で賣りとばしその差額千圓近い金を組合長のふところへとりこんでしまつたと云ふ事實があるのです」トノ記事及「選舉のときに何か不正な事をして兵庫署に一週間もホリ込まれたりする様な人々を町内の衛生役員にしたくない云々」トノ記事等ヲ之ニ掲載シ之ヲ同町内五百數十名ニ郵送配布シ前示組合ノ役員タル淺野貞吉 小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉 榎本秀吉等ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人河上丈太郎 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由中「被告人等ハ云々同年（昭和五年）十月十八日被告人佐野勝治ニ於テ編輯印刷兼發行人ト爲リ被告人大橋房吉 濱田富次郎ニ於テ費用トシテ各金十五圓ヲ提供シ被告人等ニ於テ外十數名ト連名シテ御崎本町三丁目衛生組合刷新期成會報ヲ印刷發行シ「曾て淺野組合長は組合の名義を利用して自宅に電話を引き込み之の費用は三百六十五圓であつたのであるがその後その電話を千數百圓で賣りとばしその差額千圓近い金を組合長のふところへとりこんでしまつたと云ふ事實があるのです」トノ記事及「選舉のときに何か不正な事をして兵庫署に一週間もホリ込まれたりする様な人々を町内の衛生役員にしたくない云々」トノ記事等ヲ之ニ掲載シ之ヲ同町内五百數十名ニ郵送配布シ前示組合ノ役員タル淺野貞吉 小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉 榎本秀吉等ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ」ト判示シタリ然レトモ本件告訴狀ヲ見ルニ「右被告訴人佐野勝治 大橋房吉 濱田富次郎 大橋光郎 千羽龜松等ハ相通謀シテ前記告訴人外御崎本町三丁目現在衛生組合役員全部ニ對シ名譽竝ニ信用ヲ毀損セシムル目的ノ下ニ昭和五年十月十九日別紙添附ノ刷新期成會報ト稱シ當衛生組合員全部五百二十五名ニ對シ之ヲ郵送シ刷新期成會ノ提灯ヲ用ヒ一々戸別訪問ヲ爲シサナカラ」告訴人淺野貞吉ハ組合電話ヲ横領シ他ノ告訴人等ハ組合長

名譽毀損罪ト摘示事實ノ精粗 團體内部ノ廓清ヲ目的トスル名譽毀損ト行爲ノ
違法性

ト結托シ組合ノ金ヲ自己ノ爲メニ流用シ且ツ又横領シタリ」トノ虚偽ノ風説ヲ流布シ且ツ公然事實ヲ摘示シ告訴人等ノ名譽ト竝ニ社會上ノ信用ヲ多大ニ毀損シタリ云々」ナル記載アリテ右告訴狀ニ依レハ告訴人等カ其ノ名譽ヲ毀損セラレタリトスル事實ハ「淺野貞吉ニ於テ組合電話ヲ横領シ他ノ告訴人等ハ組合長ト結托シ組合ノ金ヲ自己ノ爲メニ流用シ且ツ又横領シタリトノ風説ヲ流布シタル事實」ノミニシテ原判決事實理由ニ掲ケラルル「選舉のときに何か不正な事をして兵庫署に一週間もホリ込まれたりする様な人々を町内の衛生役員にしたいくない云々」ノ點ハ全ク包含セサルモノナルコト明ナリトス而シテ名譽毀損罪ハ告訴ヲ俟ツテ始メテ之レヲ論スヘキモノニシテ從ツテ其ノ審理モ其ノ告訴事實ニ包含セラレタル事項ニ限ルヘキモノトス何トナレハ告訴人ニ於テ或事實ノ摘示カ自己ノ名譽ヲ毀損スヘキモノト感セス若クハ該事實ヲ審判ノ目的トセラルルコトヲ欲セサルニ拘ラス裁判所ニ於テ該事實ノ摘示ニ依ツテ其ノ人ノ名譽ヲ毀損シタルモノトシテ審理裁判スルカ如キハ名譽毀損罪ヲ親告罪トナシタル趣旨ニ背馳スヘキヲ以テナリ上述ノ如ク原判決事實理由中ニ摘示セラレタル事實中「選舉のとき何か不正な事をして兵庫署に一週間もホリ込まれたりする様な人々を町内の衛生役員にしたいくない云々」ノ事實ヲ除外スルトキハ他ノ「曾て淺野組合長は組合の名義を利用して自宅に電話を引き込みその費用は三百六十五圓であつたのであるがその後その電話を千數百圓で賣りとばしその差額千圓近い金を組合長のふところへとりこんでしまつたと云ふ事實があるのです」ナル事實ノ摘示ハ其ノ

文詞ニヨリ明ナルカ如ク單リ淺野貞吉ノミニ關スルモノニシテ之ニ依リテ判示小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉 榎本秀吉等ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヘカラス以上ノ次第ナルニ拘ラス原判決カ判示會報ニ判示ノ如キ記事ヲ掲ケテ之ヲ判示組合員ニ配布シ以テ淺野貞吉 小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉及榎本秀吉ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリト斷シテ上告人ニ刑ヲ科シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

本件告訴狀ニハ被告訴人佐野勝治 大橋房吉 濱田富次郎 大橋光郎 千羽龜松等ハ相通謀シテ告訴人外御崎本町三丁目現在衛生組合役員全部ニ對シ名譽竝ニ信用ヲ毀損セシムル目的ノ下ニ昭和五年十月十九日別紙添附ノ刷新期成會會報ト稱シ衛生組合員全部五百二十五名ニ對シ之ヲ郵送シトアリテ則被告等カ告訴狀添附ノ會報ニ記載セラルル如キ事實ヲ公然摘示シ告訴人等ノ名譽竝ニ信用ヲ毀損シタリトノ趣旨ヲ記述セルコト明ナリト謂フヘク而シテ右添附ノ會報ニハ明ニ原判決カ其ノ事實理由中ニ掲ケタル如キ選舉ニ於ケル不正行為ニ關スル記事存スルヲ以テ告訴狀ト之ニ添附ノ會報ト相俟テ告訴人等カ所論ノ事實ニ付名譽信用ヲ毀損セラレタリト爲シ告訴ヲ爲シタリト認ムルニ足ルノミナラス右選舉ニ於ケル不正行為ノ事實ハ告訴狀中告訴人淺野貞吉ノ部分篠原熊吉ノ部分及證據方法ノ各箇所ニモ之ニ言及セルカ故ニ原判決ハ決シテ告訴ニ係ラサル事實ニ付本件名譽毀損罪ヲ斷シタルモノニアラス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其ノ事實理由中(前略)「被告人等ニ於テ外十數名ト連名シテ御崎本町三丁目衛生組合刷新期成會報ヲ印刷發行シ(中略)選舉のときに何か不正な事をして兵庫署に一週間もホリ込まれたりする様な人々を町内の衛生役員にたかない云々」トノ記事等ヲ之ニ掲載シ之ヲ同町内五百數十名ニ郵送配布シ前示組合ノ役員タル淺野貞吉 小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉 榎本秀吉等ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ」ト判示シタリ然レトモ右摘示事實ナルモノハ(一)何時(二)何處ニ於テ(三)如何ナル選舉ニ付(四)如何ナル不正ヲ爲シタリト云フニアルヤ全然不明ニシテ之ヲ以テ事實ヲ摘示シタルモノトハ云フヘカラス而モ原判決カ右記事ヲ掲ケタル印刷物ヲ配布シタル所爲ヲ以テ名譽毀損罪ヲ構成スト斷シタルハ違法ナリト謂フニアレトモ

【要旨第一】

名譽毀損罪ニ於ケル事實ノ摘示ハ具體的ニ爲サルコトヲ要スルハ勿論ナルモ右ハ特定セラレ得ル他人ノ名譽カ毀損セラルルモノト認メ得ヘキ程度ニ在レハ足り敢テ該事實カ時期場所手段等ニ互リテ精密ニ特定セラルルコトヲ要スルモノニアラス而シテ判示會報ニ掲載シタル記事ハ被告人等カ「選舉ノトキニ何カ不正な事ヲシテ兵庫署ニ一週間モホリ込マレタリスル様ナ人々ヲ町内ノ衛生委員ニシタクナイ云々」ト云フニ在リテ其ノ時期場所選舉ノ性質不正行爲ノ態様ニ付精密ノ記述ヲ爲ササルモ右記事ハ衛生組合ノ役員タル淺野貞吉 小西虎之助 松田大三郎 篠原熊吉 榎本秀吉等ノ名譽ヲ毀損スヘキ程度ニ於テ事實ヲ摘示シタルモノト認ムルニ十分ナルカ故ニ原判決カ右ヲ名譽毀損罪ニ問擬シタルハ

當然ニシテ記述ノ詳密ナラサルコトハ毫モ犯罪ノ成立ヲ妨クルモノニアラス從テ論旨ハ理由ナシ第三點刑法第二百三十條ノ罪ハ公然人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ摘示スルコトカ違法ナル場合ニ限リ成立スヘキモノニシテ適法ナル目的ノ爲メニ右事實ヲ摘示シタリトスルモ該事實カ眞實ナル場合ニ於テハ其ノ所爲ニ違法性ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ同罪ノ成立アリト云フヲ得サルモノナリトス本件上告人等カ判示會報ニ記載シタル事實カ假リニ判示人々ノ名譽ヲ毀損スルモノナリトスルモ上告人等ノ右所爲ハ全ク其ノ屬スル判示組合ノ廓清判示組合ノ正當ナル利益擁護ノ爲メニ爲シタルモノニシテ而モ右摘示事實ノ眞實ナルコトハ第一審ニ於ケル證據調ノ結果明確ナル處ナルヲ以テ上告人等ノ所爲ニハ毫末ノ違法性ヲ認ムルヲ得ス從ツテ上告人等ノ所爲ハ名譽毀損罪ヲ構成スヘキ限リニアラサルナリ然ルニ原判決カ上告人等ニ對シ判示犯罪ヲ認メテ刑ヲ科シタルハ重大ナル事實誤認ノ違法アルカ若クハ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノニシテ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアリ然レトモ(一)名譽毀損罪ニ於ケル事實ノ摘示ハ不實ノ事實ノ摘示ニ限ルモノニアラサルカ故ニ摘示セラレタル事實カ眞正ノ事實ナリトノ一事ヲ以テシテハ名譽毀損罪ノ成立ヲ阻ムコトヲ得ス(二)次テ所論本件ノ被告人等ノ行爲ニハ違法性ヲ缺如ストノ點ヲ案スルニ凡ソ一定ノ團體ニ屬スル團體員ノ一部カ其ノ團體ノ理事者ニ不正行爲アルコトヲ發見シ右カ團體ノ爲不利益ノ結果ヲ生スヘキコトヲ憂慮シ團體内部ヲ廓清シテ團體ノ利益ヲ擁護センカ爲或ハ組合總會ノ開催ヲ求メテ議決ニ付シ或ハ監督

【要旨第二】

名譽毀損罪ト摘示事實ノ精粗 團體内部ノ廓清ヲ目的トスル名譽毀損ト行爲ノ違法性 一二五七 (三三)

官公署ニ陳情シテ匡正ヲ求ムル等合法的ノ手段ヲ採ルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖名譽毀損罪ヲ構成スル如キ手段ニ訴フルヲ得サルハ當然ノ事理ナリト謂フヘク原判決ノ認定ニ依レハ被告等ハ判示會報ニ判示ノ事實ヲ掲載シ被告等ノ組織セル期成會會員ニ非サル多數町民ニ對シ會報ヲ郵送配布シタルモノニシテ其ノ行為カ名譽毀損罪ヲ構成スルハ疑ヲ容レサル所ニシテ之ヲ以テ權利行為ト爲スニ由ナキモノトス論旨理由ナシ

第四點原判決ハ一辯護人中村俊夫ハ判示會報ニ掲載シタル事項ハ淺野貞吉等ノ私行ニ涉ルモノニアラス判示所爲ハ被告人等カ専ラ公益ノ爲メニ爲シタルモノナル旨主張スレトモ判示會報ニ掲載シタル事項ハ夫レ自體ニ徵シ淺野貞吉等ノ私生活關係ニ於ケル行動即チ私行ニ涉ルモノニシテ其ノ官吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體其ノ他公ノ施設ニ關スル職員若クハ委員トシテノ行動ノ如キモノニアラサルモノト認ムルヲ以テ此點ニ於テ既ニ右主張ハ失當ニシテ之ヲ採用スルニ足ラスト説示シタリ然レトモ右會報記載事項中少クモ電話ニ關スル部分ノ如キハ全ク淺野貞吉ノ判示衛生組合ナル一ノ公共的團體ノ組合長トシテノ行動ニ關スルモノニシテ之ニ關係ナキ同人ノ私生活關係ニ於ケル行動(少クモ其ノ組合員ヨリ見ルトキハ)ニアラス即チ淺野貞吉ノ私行ニ涉ルモノニアラサルコト明ナリト信ス然ルニ原判決カ前示ノ如ク全ク右淺野貞吉ノ私行ニ涉ルモノナリトノ前提ノ下ニ右辯護人ノ主張ヲ排斥シタルハ違法ニシテ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ官吏公吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體其ノ他公ノ施設ニ關スル職員若クハ委員トシテノ行動ノ如キモノニ對スルモノナルコト富院判例ノ存スルコロニシテ所謂衛生組合ノ役員ノ行動ノ如キハ右ニ掲クル官吏公吏其ノ他ノ行動ニ該當セサルカ故ニ右ハ私行ニ屬スト謂フヘク從テ新聞紙法第四十五條ノ適用アルコトナク論旨ハ理由ナシ

第五點本件會報ニ掲載セラレタル電話ニ關スル事項ハ判示組合(若クハ組合員)ヲ被害者トスル一ノ不法行為ニシテ而モ其ノ眞實ナルコトハ第一審ニ於テ明確ニ立證セラレタル處ナリ左レハ右被害事實ヲ其ノ被害者タル組合員ニ告知スルコトハ何等ノ違法性ヲ帶フル處ナキモノナルノミナラス唯單ニ被害者タル組合員ニ告知シタルニ止マリ何等利害關係ナキ不定多數ノ人ニ流布シタルモノニアラサルヲ以テ刑法ニ所謂公然事實ヲ摘示シタルモノト云フヘカラス其ノ何レノ點ヨリ見ルモ刑法第二百三十條ノ犯罪ヲ構成スヘキ限リニアラサルナリ然ルニ原判決カ上告人等ノ右所爲ニ對シ前示法條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

行為ノ公然性ハ不定多數人カ認識シ得ル特態ノ存スルヲ謂フモノナルモ其ノ資格ニ一定ノ制限アルコトハ必シモ不定多數性ヲ失ハシムルモノニアラス從テ本件ニ於テ被告人等カ印刷物ヲ配布シタル五百數十名カ衛生組合員タル資格ヲ有スル者ニ限ラレタルコトハ事實摘示ノ公然性ヲ害スルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○放火未遂被告事件

(昭和七年(九)第八〇一號) 棄却
同年八月二十五日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 笠原玄次郎 辯護人 宮脇信介

【第一審】 前橋地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル證人訊問ノ效力

○判決要旨

刑事訴訟法第二百三條ハ訓示の規定ニ屬スルカ故ニ之ニ違背スル
モ其ノ證人ノ供述ハ無効ニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第二百三條 證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ

後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

○事實

原裁判所ハ陪審ノ答申ヲ採擇シテ左ノ事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但未決勾
留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ノ石油容器二合壘共(昭和六年押第一一七號ノ一)及檻樓ノ丸
メ二箇(同號ノ二、三)ハ之ヲ沒收ス陪審ニ關スル費用ヲ除キ其ノ他ノ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔
トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書居字五百四十六番地佐藤テウノ亡夫巳之助ヨリ金五百四十八圓ヲ借受ケ大正十年中之ヲ
整理シ殘債務金百四十圓トナリ其ノ後又同人ヨリ金七十圓及八十圓ノ二口ノ借財ヲ爲シタルカテウハ
右貸金ニ付訴訟ヲ提起シ又ハ差押ヲ實行シテ其ノ取立ヲ爲シ毫モ被告人ノ生計如何ヲ顧慮セザリシヨ
リ被告人ハ痛クテウノ無情冷酷ナルヲ恨ミ焦慮煩悶ノ末昭和六年十一月十六日午後十一時頃前記五百
四十六番地所在テウ方家人ノ居住スル杉皮葺二階建家屋ヲ燒燬シテ其ノ恨ヲ霽サント決意シ自宅ヨリ
燐寸軸木ト刻煙草トヲ檻樓ニ包ミタル物二箇(押第一一七號ノ二、三)ト石油入壘トヲ携帶シテ右屋
上ニ到リ屋根ノ杉皮ヲ筆リ取り二箇所ニ穴ヲ穿チ右二箇ノ檻樓ニ石油ヲ注キ燐寸ヲ以テ之ニ點火シ内
一箇ヲ右穴ヨリ屋内天井裏ニ投下シ更ニ一箇ヲ投下セントシタル際他人ニ發見誰何セラレテ逃走シ右

屋内ニ投下シタル分ハ自然ニ消火シ他ノ一ハ發見者ニ消火セラレタル爲右家屋ヲ燒燬スルニ至ラサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百八條第百十二條ニ該當スルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シ未遂ニ係ルヲ以テ同法第四十三條第六十八條第三號ニ則リ其ノ刑ヲ減輕シ尙犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ從ヒ更ニ酌量減輕ヲ施シ其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定シ未決勾留日數中九十日ハ同法第二十一條ニ則リ之ヲ本刑ニ算入シ主文特記ノ押收物件ハ本件犯罪ノ供用物件ニシテ且犯人以外ノ者ニ屬セサルニ依リ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收シ陪審ニ關スル費用ヲ除キ其ノ他ノ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

原審第二回公判廷ニ於テ原審證人笠原種三郎 笠原儀市郎ノ取調ヲ爲ス際先ニ取調ヘタル證人笠原種三郎ヲ訊問スルニ當リ後ニ訊問スヘキ證人笠原儀市郎ヲ退廷セシメタル形跡ナシ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人宮脇信介上告趣意書第一點ハ原審ノ陪審評決ハ違法ノ證據ヲ資料トシテ爲サレタルノ不法アリ

即原審第二回公判調書ヲ閱スルニ證人笠原儀市郎及笠原種三郎ノ各訊問(共ニ在廷證人トシテノ訊問)ニ關スル證據調手續ニ於テ左記三種ノ違法アリ依テ右兩證人ノ證言ハ證據タルノ適法性無キニ拘ラス之ヲ證據資料ノ一トシテ爲サレタル陪審評決ハ違法ニシテ從テ之ヲ基礎トスル原判決亦破毀ヲ免レサルモノト信ス(一)證人訊問ハ「召喚」ナル別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ニシテ此ノ理ハ一般證人タルト在廷證人タルトニ於テ異ナル事無シ(平沼博士所說御參照)而シテ別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシトハ刑事訴訟法第三百四十四條第二項ノ規定スル所ナルニ拘ラス右在廷證人兩名ニ對スル證據調(在廷證人トシテノ)ハ適法ナル證據決定ニ依ラスシテ爲サレタリ今原審第二回公判調書ヲ查スルニ(九六一頁以下)辯護人木村嘉吉ハ十一月十四日夜ノ降雨ノ狀況等ニ付在廷セル笠原種三郎ナリ笠原儀市郎ナリ證人トシテ訊問ヲ得度キ旨申出タリ檢事ハ右ニ意見ナシト述ヘ裁判長ハ合議ノ上右木村辯護人ノ申出ヲ許可スル旨ヲ宣シ「云々トアリ即右決定ハ果シテ前記兩名ニ付爲サレタリヤ將又其ノ何レノ一人ニ付爲サレタリヤ全然不明ニシテ結局適法ナル決定ナキ事トナリ從テ右兩人ノ陳述ハ證據力ヲ有セサルモノト云ハサルヲ得ス(二)假ニ右兩證人ニ關スル證據決定適法ナリトスルモ之カ訊問ノ手續ハ全然法律ニ依ラスシテ爲サレタルノ不法アリ即(イ)證人ノ住所職業氏名年齢等其ノ人違無キヤ否其ノ證人適格アリヤ否ニ對スル審理ナシ(前掲記録六九一頁以下)但右兩人ハ各同日同法廷ニ於テ別ニ證人トシテ訊問ヲ受ケタルモノナルヲ以テ實際ニ於テハ是等

ノ點ハ裁判所ニ於テ判明シ居レリトセハ之ヲ援用スルカ將又別ニ新ニ訊問スルカハ裁判長ノ職權ニ依リ決スヘキ所ナルヘキモ全然其ノ何レヲモ爲ササルハ明ニ刑事訴訟法ニ違反シタル證據調ト云ハサルヘカラス(ロ)右兩證人ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問シタルノ不法アリ(同上記録九六一頁以下)前述ノ如ク右兩人ハ同日同法廷ニ於テ宣誓ノ上證人トシテ訊問セラレタル者ナリト雖ソハ訊問事項ヲ異ニシ證據決定手續ヲ異ニシ全然別箇ノ證據調ニ屬シ前宣誓ニ依ル訊問ハ各終了セル旨裁判長ヨリ宣セラレ(儀市郎一記録八九六頁種三郎一同九〇四頁)證人トシテハ退出シタル上恐ラク任意傍聽人トシテ在廷シタルヘキヲ新ニ辯護人ヨリ在廷證人トシテ別箇ノ訊問事項ニ付訊問ノ請求アリ檢事ノ意見等新ナル手續ノ上別箇ノ決定ヲ以テ爲セル證據調ナレハ其ノ訊問ニ付テハ新ニ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要スルハ刑事訴訟法第九十六條ニヨリ明ナルニ拘ラス原審手續ニ此ノ事ナキハ不法ナリ(ハ)後ニ訊問スヘキ證人ニ對シ退廷ヲ命セスシテ前證人ノ訊問ヲ爲シタリ即刑事訴訟法第二百三條ニ違反セルノ不法アリ(前掲記録九六一頁以下)即右兩人ハ所謂在廷證人ナレハ決定ノ際兩人共同法廷内ニ在リシ事明ナリ而シテ之カ訊問調書ニヨレハ兩人中先ツ笠原種三郎ヲ訊問スルニ際シ笠原儀市郎ニ對シ退廷ヲ命シタル形跡無キ以上同人ハ依然在廷セルモノト云ハサル可ラス(三)右兩證人ニ對スル證據調終了ノ際被告人ニ意見アリヤ否ヲ問ハサリシ不法アリ各箇ノ證據調ヲ終ヘタル毎ニ裁判長ヨリ被告人ニ對シ意見アリヤ否ヲ問フヘキハ刑事訴訟法第三百四十七條ノ規定スル所ナリ原審第二回

公判調書ニヨレハ證人笠原儀市郎ノ訊問ニ付テハ其ノ終了前ニ被告人ノ意見ヲ問ヒタレトモ其ノ終了後ニ此ノ事無ク證人笠原種三郎ノ訊問(共ニ在廷證人トシテノ分)ニ至リテハ全然之ヲ爲ササリシモノナリ(前掲記録九六一頁以下)ト云フニ在レトモ

(一)原審第二回公判調書ヲ査閲スルニ辯護人木村嘉吉ハ在廷セル笠原種三郎ナリ笠原儀市郎ナリヲ證人トシテ訊問セラレ度キ旨申出テ裁判長ハ合議ノ上右木村辯護人ノ申立ヲ許可スル旨宣シタル旨ノ記載アリテ特ニ右兩名ノ内何レカ一名ニ對スル請求ヲ却下シタル趣旨ノ見ルヘキモノナキノミナラス右兩名ヲ證人トシテ訊問シタル事跡ヨリ推考スルトキハ原審ハ右兩名ニ付證據調ノ請求ヲ採用シタルモノナルコト疑ヲ容レス然リ而シテ本件ノ場合特ニ證據調ノ決定ヲ爲スヘキモノニ非サルコト刑事訴訟法第三百四十四條ノ規定ニ照シテ明ナレハ原審ノ右證據調ノ手續ニ毫モ違法存スルコトナシ(二)原審第二回公判調書ニ依レハ本件ニ付笠原種三郎笠原儀市郎ヲ原審第二回公判廷ニ於テ一度證人トシテ其ノ人違ナキヤ否ヤ及證人資格ノ有無ニ付調査シ宣誓ヲ爲サシメタル上訊問シタルコト明カナレハ同證人等ヲ更ニ同公判廷ニ於テ本件ニ付訊問スル場合ニハ假令訊問事項ヲ異ニスル場合ト雖再ヒ前述ノ調査ヲ爲シ宣誓ヲ爲サシムル要ナキカ故ニ右兩證人ノ原審ニ於ケル再度ノ訊問手續ニ付所論ノ如キ違法アルコトナク又同公判調書ヲ査閲スルニ原審ニ於テ笠原種三郎笠原儀市郎ノ兩名ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ後ニ訊問スヘキ證人笠原儀市郎ヲ退廷セシメタル形跡ナシト雖刑事訴訟法第二百三

【要旨】

條ハ訓示の規定ニ屬スルカ故ニ之ニ違背スルモ其ノ證人ノ供述ハ無効ニ非ス(三)同公判調書ニ依レハ裁判長ハ先ツ證人笠原種三郎ヲ訊問シ次テ證人笠原儀市郎ヲ訊問シタル後被告人ニ對シ右兩證人ノ證言ニ付意見アリヤ否ヤヲ告ケタル旨ノ記載アリテ各箇ノ證言ニ付取調ヲ終リタル毎ニ意見ヲ徵セサルモ併セテ意見ノ有無ヲ問ヒタルコト明白ナル以上ハ被告人ノ防禦權ニ消長スルトコロナキヲ以テ不法ニ非ス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○正式裁判請求權回復請求竝正式裁判申立棄却決定ニ對スル抗告
棄却決定ニ對スル再抗告事件(昭和七年(三)第三七號
同年八月二十六日第四刑事部決定) 棄却)

【再抗告人】 中村 藤 市

【第一審】 小倉區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

正式裁判請求權回復請求事件ト再抗告

○決定要旨

正式裁判請求權回復ノ請求ヲ棄却シタル決定ニ對スル抗告ニ付抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ再抗告ハ之ヲ許スヘカラサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第五百二十九條 第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

同法第三百八十七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

同法第三百八十八條 上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

正式裁判請求權回復請求事件ト再抗告

同法第三百八十九條 原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

同法第三百九十條 上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

同法第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ

掲クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

- 一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告
- 二 控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 三 再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告
- 五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 六 證人鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

○事實

再抗告人ハ小倉市會議員選舉ニ付立候補準備中立候補ノ上ハ當選ヲ得ル目的ヲ以テ有權者數名ニ對スル個々面接ノ廉ニテ昭和七年五月二十五日小倉區裁判所ヨリ罰金百圓ノ略式命令ヲ受ケ該命令ハ同月三十日同居ノ長男中村則幸ニ送達セラレ之カ確定ノ後同年六月十一日小倉區裁判所ニ對シ中村則幸ハ別戸ヲ構ヘ再抗告人ト同居セサルヲ以テ同人ニ爲シタル送達ハ效力ナシトノ理由ニ基キ正式裁判請

求權回復請求並正式裁判ノ請求ヲ爲シタリ然ルニ同裁判所ハ中村則幸ハ再抗告人ト同居セル事實ヲ認メ同人ニ爲シタル略式命令ノ送達ハ適法ナリトシテ之ヲ棄却シタルトコロ更ニ福岡地方裁判所ニ即時抗告ヲ爲シ同裁判所亦同一理由ノ下ニ抗告ヲ棄却シタリ因テ本院ニ對シ再ヒ抗告ヲ申立タリ

○主 文

本件再抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

本件再抗告ノ要旨ハ再抗告人ハ數年前ヨリ小倉市大字三萩野字江南町千六十二番地ノ二ニ居住シ其ノ長男中村則幸ハ同町千九十一番地ノ一ニ居住シ居リ從テ同人ハ再抗告人ノ同居者ニ非ス然ルニ小倉區裁判所執達吏ハ再抗告人ニ對スル本件略式命令ノ正本ヲ則幸方ニ於テ同人ヲ再抗告人ノ同居者トシテ交付送達シタルモ該送達ハ固ヨリ違法ニシテ送達ノ效力ナシ然レトモ形式上ハ略式命令ノ送達アリテ既ニ法定期間ヲ經過シ正式裁判請求權消滅セルヲ以テ正式裁判請求權回復請求並正式裁判ノ請求ヲ爲シタルトコロ小倉區裁判所ハ前記送達ヲ適法ナリト認メ孰レモ其ノ請求ヲ棄却シタリ因テ福岡地方裁判所ニ對シ即時抗告ヲ申立テタルトコロ同應亦同一趣旨ノ下ニ之ヲ棄却セラレタリ是レ不當ナル決定ナレハ更ニ抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

【要旨】

按スルニ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求權消滅後ニ於テ之カ回復ノ請求ハ上訴權回復請求ニ關スル

刑事訴訟法第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ爲シ得ヘキコトハ同法第五百二十九條ノ定ムルトコロナレハ該請求ノ棄却セラレタルトキハ同第三百八十九條後段ニ依リ即時抗告ヲ爲シ得ヘシト雖抗告裁判所ノ決定ニ對スル抗告ハ同法第四百六十九條第一號乃至六號ニ該當スル場合ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルモノトス而シテ本件抗告裁判所ノ爲シタル決定ハ右法條各號ニ該當セサルヲ以テ該決定ニ對スル抗告ハ之ヲ許スヘカラサルモノト解セサルヘカラス同條第二號ニハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告決定ニ對シ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定セルヲ以テ正式裁判請求權回復請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告決定ニ對シテ亦即時抗告ヲ爲シ得ヘキカ如キモ同法第五百二十九條ハ正式裁判請求權回復請求ニ關シ同第三百八十七條乃至第三百九十條ヲ準用スル旨ヲ規定セルニ拘ラス同第四百六十九條ヲ除外シテ之ヲ準用セサルヲ以テ同條第二號ニ基キ再抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非スト謂ハサルヘカラス次ニ正式裁判申立棄却決定ニ付テノ抗告裁判所ノ決定ニ對シ再抗告ヲ爲シ得ヘキ規定ナキヲ以テ右再抗告亦之ヲ許スヘキモノニ非ス然ラハ本件再抗告申立ハ不適法ナルヲ以テ同法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○神奈川縣令理容術營業取締規則違反被告事件

(昭和七年(九)第八〇四號
同年八月三十日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 殿岡 三吉 辯護人 片山 哲

【第一審】 横須賀區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

正式裁判請求後ノ司法警察官聽取書ノ證據力

○判決要旨

違警罪即決言渡ニ對スル正式裁判請求後作成シタル司法警察官ノ聽取書ト雖必シモ證據力ヲ有セサルモノニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 供述者死亡シタルトキ

正式裁判請求後ノ司法警察官聽取書ノ證據力

- 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ
 - 三 訴訟關係人異議ナキトキ
- 區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

○事實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料二圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ被告人ハ横須賀市逸見町五百五十三番地ノ住居ニ於テ理容術營業ヲ營ミ居ルモノニシテ客ノ身體ニ接觸スル器具ハ一客ヲ終ル毎ニ規定ノ消毒ヲ爲スヘキモノナルトコロ昭和七年二月五日バリカン數挺ヲ營業ニ使用シタルニ拘ラス使用後之カ消毒ヲ爲ササリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ神奈川縣令第三十五號理容術營業取締規則第十九條第三十二條ニ該當スルヲ以テ所定刑中科料ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ科料二圓ニ處スヘク右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第二項第四項ニ則リ二日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ全部負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人片山哲上告趣意書第三點原判決ハ被告人ノ雇人ニシテ未成年者(當十八年)ナル村山金藏ノ證言ヲ採用セリ所カコノ聽取書ハ昭和七年二月九日作成セラレタルモノニシテ被告人カ正式裁判ノ申立ヲナシタル後ニ取調ヘタルモノナリ即決言渡シ前ニ取調ヘタルモノナレハイサ知ラス愈々公判ニ移サレ裁判所ノ管轄ニ移リタル後ニ警察官カ取調ヘタルモノナレハカカル聽取書ハ何等證據力ナキモノナリ檢事ハ公判ニ取調ヘルコトアリト雖警察官カ署ノ管轄ヲ離脱シタル後ニ取調ヘルハ不法ナリ而シテ之ヲ證據トシテ被告人ノ罪ヲ斷スルハ刑事訴訟法ノ精神ニ違反スルモノニシテ不當ナリト信ス證據力ナキ證據ヲ援用シタル原判決ハ證據ニヨラスシテ判斷ヲナシタルモノニシテ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

違警罪即決ノ言渡ニ對シテ正式裁判ノ請求アリタル後ト雖尙司法警察官ニ於テ搜查權ヲ行使スルコトヲ妨クルモノニ非ス所論村山金藏ニ對スル司法警察官ノ聽取書ハ正式裁判請求後ニ於テ作成セラレタルモノナルコト所論ノ如シト雖是レ畢竟司法警察官ノ搜查權行使ノ結果其ノ任意ノ供述ヲ錄取シタルニ外ナラサルヲ以テ該供述記載ハ證據力ヲ有シ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得ルハ勿論ナリ然レハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事大原昇關與

○營利略取不法監禁恐喝營利誘拐恐喝未遂暴力行爲等處罰ニ關ス

ル法律違反被告事件(昭和七年(九)第八二六號
同年九月五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 新谷 藤作 辯護人 山崎今朝彌

外二名

【第一審】 札幌地方裁判所小樽支部 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

共同被告人ノ追起訴ト證人ノ宣誓

○判決要旨

甲乙共犯ノ被告事件ニ付豫審判事力證人ニ對シ身分關係ヲ調査シ

宣誓ヲ爲サシメタル上第一回ノ訊問ヲ爲シタル後同一事件ニ付更ニ丙力共犯人トシテ追起訴セラレタル場合ニ於テ豫審判事力同一證人ヲ再度訊問スル際甲乙ノ關係ニ於テハ更ニ宣誓ヲ爲サシムル要ナキモ丙ノ關係ニ於テハ新ニ身分關係ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシムヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第九十八

六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第九十八條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告グヘ

シ
同法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限

ニ在ラス

○事實

本件ニ於テ豫審判事ハ被告人新谷藤作 天野圓次ノ恐喝被告事件(原判決摘示第五事實)ニ付證人目黒龍三ヲ昭和六年二月十六日身分關係ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシメタル上訊問シ其ノ後同年七月九日同證人ノ第二回訊問ヲ爲シタルカ其ノ問同年五月二十五日右事件ノ共犯人トシテ被告人水野光次郎カ起訴セラレタルニ右第二回訊問調書ニハ第一回ニ引續キ訊問スル旨ノ記載アルノミニテ右追起訴ニ係ル被告

共同被告人ノ追起訴ト證人ノ宣誓

人光次郎トノ身分關係ヲ調査シ更ニ宣誓ヲ爲サシメタル形跡ナシ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人山崎今朝彌上告趣意書第一點ハ原判決ハ第五事實ノ證據トシテ證人目黒龍三ニ對スル第二回豫審調書ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ本件記錄ヲ調査スルニ同證人ニ對スル第一回豫審訊問(昭和六年二月十六日)ノ後第二回豫審訊問(昭和六年七月九日)ノ間ニ於テ判示第五事實ニ關スル共犯トシテ昭和六年五月二十五日水野光次郎ヲ起訴シタルコトハ記錄八〇〇丁ノ豫審請求書ニ依リ明白ナリトス仍テ豫審判事ニ於テ同證人ニ對シ第二回訊問ヲ爲スニハ第一回訊問後新タニ起訴セラレタル被告人水野光次郎トノ身分關係ヲ調査シ更ニ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラサルモノナリトス然ルニ第二回豫審調書(九〇三丁)ヲ閱スルニ第一回ニ引續キ訊問スル旨記載シアリテ右追起訴ニ係ル被告人水野光次郎トノ身分關係ヲ調査シ更ニ宣誓ヲ爲サシメタル事迹ナク同證人ノ第二回訊問ニ於ケル供述ハ適法ニ宣誓ヲ爲ササル證人ノ供述ニシテ刑事訴訟法上證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ之ヲ採ツテ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和四年(れ)第八九一號四年九月二十七日大審院第一刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【要旨】

原判決第五事實ノ證據ニ引用セル證人目黒龍三ノ第二回豫審調書ニ第一回ニ引續キ訊問スル旨記載シアルノミニテ同證人ノ第一回豫審取調ノ後右事實ノ共犯人トシテ起訴セラレタル被告人光次郎ト右證人トノ身分關係ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシメタル事跡ナキコト所論ノ如シ仍テ按スルニ被告人藤作 圓次トノ關係ニ付テハ同證人ノ豫審第一回訊問ノ際右被告人等トノ身分關係ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシメタルコト記錄ニ徴シ明ニシテ一度ヒ適法ノ宣誓ヲ經タル以上ハ後ニ同一事件ニ付共犯人追加セラルルモ其ノ宣誓ノ效力消滅スル謂レナケレハ新ニ宣誓ヲ用ヒシテ同一證人ヲ再度訊問スルモ違法ニ非ス然レトモ被告人光次郎トノ關係ニ付テハ右證人目黒龍三ノ第一回豫審訊問ノ際ノ宣誓ハ何等ノ效力ナキカ故ニ同證人ヲ再度訊問スル場合同被告人トノ關係ニ於テ新ニ身分關係ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシムヘキモノナルニ之ヲ爲サシメスシテ訊問シタル同證人ノ第二回豫審調書ヲ本件第五事實ノ罪證ニ供シタルハ被告人光次郎ノ關係ニ於テ所論ノ如ク違法タルヲ免レスト雖右豫審調書ヲ除クモ原判決舉示ノ證據ヲ綜合スレハ被告人光次郎ニ對スル判示第五犯罪ノ構成事實ヲ認メ得ルカ故ニ右ノ不法ハ判決ニ影響ヲ及ホササルコト明ナレハ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○業務上横領被告事件 (昭和七年(レ)第八二二三號 棄却)

(昭和七年九月六日第四刑事部判決)

【被告人】 被告人 瑞慶覽長安 辯護人 上原健男

【第一審】 那覇地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

豫審決定書記載ノ事實ヲ肯認シタル供述ノ採證

○判決要旨

裁判長ノ解示シタル豫審決定書記載ノ犯罪事實ヲ肯認シタル被告人ノ供述ハ同決定書ニ付證據調ヲ爲ササルモ之ヲ罪證ニ供スルヲ妨ケス

【參照】 刑事訴訟法第三百四十條第一項 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ナシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス但未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ大正十四年十一月頃ヨリ沖繩縣中頭郡西原村臺南製糖株式會社西原工場ノ會計主任トシテ金錢ノ出納帳簿ノ記載等同工場會計事務一切ノ業務ニ從事中昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月十一日頃迄ノ間犯意ヲ繼續シテ數十回ニ互リ業務上自己ノ保管ニ係ル前示會社所有ノ金員竝右工場職員ノ所有ニ屬スル貯金會掛金有聲俱樂部費及西原共濟會費以上合計金九千五百九十四圓十五錢ヲ前記中頭郡地方及那覇市等ニ於テ擅ニ自己ノ遊興費其ノ他ニ費消シ以テ業務上之ヲ横領シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙同法第二十一條ヲ適用シテ未決勾留日數中三十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス而シテ原審公判調書中ニハ裁判長ハ被告人ニ對シ豫審決定書記載ノ事實ヲ解示シ該事實ノ有無ヲ問ヒタルニ被告人ハ事實相違アリマセヌト答ヘタル旨ノ記載アリ原判決ハ該供述ヲ以テ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ他ヲ自供シタルモノトシテ之ヲ罪證ニ供シタリ而シテ豫審決定書記載ノ事實ハ判示事實ト全然同一ナルモノトス

○主 文

豫審決定書記載ノ事實ヲ肯認シタル供述ノ採證

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人上原健男上告趣意書第一點刑事訴訟法第三百六十條ノ規定ハ裁判所カ如何ナル證據ニ依リテ犯罪事實ヲ認定シタルカヲ判決書ニ明ニシ之ヲ見ル者ヲシテ其ノ認定ノ因テ基ク所ヲ了知セシメ以テ裁判ノ公正ヲ確保スルノ趣旨ニ出テタルモノナルカ故ニ其ノ證據說明ハ一件記錄ヲ待ツコトナク該判決書自體ニ依リテ其ノ證據ノ内容ノ如何ナルモノナルカヲ了知シ得ル程度ニ於テ之ヲ爲ササル可カラストハ御院判例(大正十三年(レ)第一〇八九號)ノ夙ニ認メラルルトコロナリ從ツテ罪トナルヘキ事實即チ犯罪構成要件タル事實ハ具體的ニ表示セラレ其ノ因テ基クトコロノ證據說明亦具體的ニ表示セラレサル可カラス然ルニ原判決ハ事實理由ニ於テ「被告人ハ……昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月十一日頃迄ノ間……合計金九千五百九十四圓十五錢ヲ……橫領シタルモノナリ」ト判示シ證據說明ニ於テ「判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ他ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル自供證人佐喜眞慎仁ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ……昭和三年十一月頃ヨリ昭和六年六月十日頃迄ノ間ニ合計金九千五百九十四圓十五錢ヲ橫領シタル旨ノ記載アルニ依リ」ト說明シタリ從ツテ原判決ハ犯罪ノ日時ヲ昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月十一日頃迄トナシ犯罪ノ客體ヲ「前示會社所有ノ金員竝ニ右工場職員ノ所有ニ屬スル貯金會掛金有聲俱樂部費及西原共濟會費以上」ト判示シアルニ拘ラス合計金九千五百九

十四圓十五錢ト判示說明シタルノミニシテ犯罪ノ日時及客體共ニ具體的ニ表示セラレスシテ漫然昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月十一日頃迄ノ間即二年有四箇月ノ間ニ業務上保管スル會社所有ノ金員ト或ハ單ニ保管スル會社以外ノ者ノ所有ニ屬スル金員(證人佐喜眞慎仁ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述記錄二八六丁及二八七丁參照)カ或ハ單ニ會社以外ノ者ノ爲事務ヲ處理スル爲ニ保管スル金員カ(證人佐喜眞慎仁ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述記錄二八六丁及二八七丁參照)明ナラサル金員トヲ區別セス漫然合計九千五百九十四圓十五錢ト判示シ說明シタルハ抽象的ニ或ル事實ヲ敘述シタルノミニシテ具體的ニ犯罪事實ヲ表示シタルモノト謂フコトヲ得ス個別性ヲ重要視スル刑事判決ニ於テ此ノ如キ抽象的敘述ニ依リテ刑法第二百五十三條第五十五條ヲ適用シタルハ明ニ罪トナルヘキ事實即犯罪構成要件タル事實ヲ具體的ニ表示スルコトヲ要求スル刑事訴訟法第三百六十條ノ精神ヲ沒却スル理由不備ノ裁判ナリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

連續一罪ヲ組成スヘキ數多ノ業務上橫領行爲ヲ判示スルニ當リテハ必スシモ其ノ各箇ノ行爲ニ付犯罪ノ日時方法贓額等ヲ一々具體的ニ確定スルコトヲ要セス橫領行爲ノ數多ナルコトヲ示シ各箇ノ行爲ニ共通セル犯罪ノ方法其ノ他ノ事實ヲ判示シ其ノ連續シタル行爲ノ始期終期ヲ明ニシ贓額ハ其ノ合算額ヲ表示シ因テ以テ該行爲ノ内容カ連續シタル數箇ノ業務上橫領行爲ナルコトヲ知り得ヘキ具體的事實ヲ判示スレハ足ルコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリ而シテ原判決ハ被告人カ沖繩縣中頭郡西原村臺南

製糖株式會社西原工場ノ會計主任トシテ同工場ノ會計事務ニ從事中昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月十一日頃迄ノ間犯意ヲ繼續シテ數十回ニ互リ業務上自己ノ保管ニ係ル前示會社所有ノ金員竝右工場職員ノ所有ニ屬スル貯金會掛金有聲俱樂部費及西原共濟會費以上合計金九千五百九十四圓十五錢ヲ前記中頭郡地方及那覇市ニ於テ擅ニ自己ノ遊興費其ノ他ニ横領費消シタリトノ具體的事實ヲ判示シ且右事實ヲ證明スヘキ證據ヲ舉示シタルモノニシテ之ニ因リ業務上横領罪ヲ以テ論スヘキ連續シタル數箇ノ行爲アリタルコトヲ知ルニ十分ナルヲ以テ刑法第二百五十三條第五十五條ノ犯罪ノ事實及證據理由トシテ間然スル所ナキモノト謂フヘク原判決カ其ノ連續犯ヲ組成スヘキ各箇ノ行爲ニ付一々詳細ニ日時臧額等ヲ確定セサルカ爲ニ所論ノ如ク理由不備ノ違法アルモノト爲スヘカラス論旨理由ナシ

第四點原判決ハ公判ニ於テ取調ヲ爲ササル證據ヲ援用シ他ノ證據ト綜合シテ有罪ノ事實ヲ認定シタル違法ノ裁判ナリト謂ハサルヘカラス蓋原判決ハ其ノ判示事實ニ對スル證據說明ニ於テ「判示事實中犯罪繼續ノ點ヲ除キ其ノ他ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル自供」ト説示シタリ然レトモ原審公判調書ヲ閱スルニ被告人長安ノ供述部分ニ於テ(記錄五二八丁)「問處テ此ノ事實ハ如何(此ノ時裁判長ハ豫審終結決定書記載事實ヲ解示シタリ)答事實相違アリマセヌ」トアルノミニシテ詳細ナル犯罪事實ハ豫審終結決定書ニ讓リ之カ記載ヲ省略シタルモノニ係ルヲ以テ之ヲ右豫審終結決定書ニ參照スルニアラサレハ同被告ノ供述カ原審判示事實ト趣旨ヲ同シクスルヤ否ヲ知ルニ由ナシ此ノ如キ場合ニ於テハ右豫審

終結決定書ニ付テモ證據調ノ手續ヲ履踐スルコトヲ要ストハ御院判例(大正十二年(レ)第一〇七號)ノ夙ニ認メラルルトコロニシテ適法ニ證據調ヲ爲シ右豫審終結決定書記載事實ヲ讀聞ケ意見ノ有無ヲ問ハサルヘカラス然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ原審裁判所ハ右豫審終結決定書記載事實ヲ被告ニ對シ讀聞ケ意見ノ有無ヲ問ヒタルノ形跡更ニナシ是刑事訴訟法第三百四十七條ノ證據調手續ヲ適法ニ施行セサルモノニシテ從ツテ右豫審終結決定書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト謂ハサルヘカラス從ツテ原判決ハ御院判例(大正十二年(レ)第一九五九號)ノ夙ニ認メラルル罪證ニ供スヘカラスル不適法ノ證據ヲ援引シ他ノ證據ト綜合シテ犯罪事實ヲ判斷スル一資料ニ供シタルヲ以テ原判決ハ適法ノ證據ニ依ラスシテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アリト謂ハサルヘカラスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ原審公判調書ヲ查スルニ裁判長ハ被告人ニ對シ豫審決定書記載ノ事實ヲ解示シ該事實ノ有無ヲ問ヒタルニ被告人ハ事實相違アリマセヌト答ヘタル旨記載アルノミニシテ其ノ肯認シタル犯罪事實ノ内容ヲ記載セサルヲ以テ公判調書中ノ記載ニ依リテハ被告人ノ供述カ原判示事實ト同趣旨ナルヤ否ハ豫審決定書ノ記載ト相俟ツニ非サレハ之ヲ知ルニ由ナシト雖原審公廷ニ於テハ犯罪事實ハ裁判長ニ依リテ明白ニ解示セラレ被告人ハ該事實ヲ肯認シタルモノナレハ親ク被告人ノ供述ヲ聽取シタル原裁判所ハ該供述カ原判示事實ト同趣旨ナルヤ否ハ直ニ之ヲ判斷スルコトヲ得ヘク所論ノ如ク豫審決定書ノ記載ト相俟ツニ非サレハ之ヲ知ルニ由ナキモノニ非ス而シテ原判決ハ右被告人ノ供述ヲ採用シタルモノ

ニシテ公判調書中ノ記載ヲ證據トナシタルニ非サルカ故ニ豫審決定書ノ記載ト相俟ツコトナクシテ被告
 人カ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ餘ヲ自供セリト說示シ之ヲ罪證ニ供シタルハ違法ニ非ス論
 旨ニ引用シタル大正十二年(レ)第一〇七號事件ノ判例ハ豫審決定書ノ記載ト相俟ツニ非サレハ其ノ
 趣旨ヲ解スヘカラサル公判調書中ノ記載ヲ採用シタル場合ニ關スルモノニシテ之ヲ全然其ノ場合ヲ異
 ニスル本件ニ適用セントスルハ當ラス論旨ハ尙原判決ハ豫審決定書ヲ罪證ニ供シタルモノノ如ク主張
 シ原裁判所カ同決定書ニ付證據調ヲ爲ササリシコトヲ攻撃スレトモ原判決ハ同決定書ヲ罪證ニ供シタ
 ルモノニ非サルコト判文上極メテ明白ニシテ此ノ點ニ關スル論旨ハ原判旨ニ副ハサル論難ニ過キス論
 旨ハ總テ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事岩松玄十關與

○恐喝被告事件(昭和七年(レ)第八五三號 棄却)
(同年九月八日第二刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 坪内 虎吉 辯護人 (前田 梅次
 外一名 萬造 寺孕 二
 〔第一審〕 鹿兒島地方裁判所 〔第二審〕 長崎控訴院

○判示事項

事件分離後ニ於ケル共同訴訟中ノ訴訟費用ノ裁判

○判決要旨

共同被告人ニ對スル辯論ヲ分離シ其ノ中ノ一人ニ對シテ先ツ判決
 ヲ爲シ刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ハ共同訴訟中ニ生シ
 タルモノト雖其ノ者單獨ニテ負擔スヘキコトヲ命スヘキモノトス

〔参照〕 刑事訴訟法第二百三十七條第一項 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ
 訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ
 同法第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコ
 トヲ得

○事實

(一) 第二審ハ被告人坪内虎吉ニ對シテ左ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十九條第一項第二十一條刑事

事件分離後ニ於ケル共同訴訟中ノ訴訟費用ノ裁判

訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ同被告人ヲ懲役一年ニ處シ未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人虎吉ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人虎吉ハ鹿兒島縣鹿兒島郡中郡宇村醫師貴島三之亟ナルモノカ同家ノ看護婦見習春山ミヤニ對シ屢々猥褻ノ行爲ヲ敢テシ且些細ノコトヨリ暴行ヲ爲シ其ノ鼓膜ヲ損傷シタルコトアリシヲ理由トシ同醫師ヨリ金圓ヲ恐喝センコトニ付昭和五年七月一日原審相被告人藤本啓吉ヨリ其ノ相談ヲ受クルヤ之ニ賛同シ同人ト共謀ノ上右貴島醫師ト面識ナキ被告人虎吉ニ於テ直接之カ交渉ノ任ニ當ルコトトシ被告人ハ之ニ基キ翌二日貴島醫師ニ對シ其ノ妻女ヲ介シテ同醫師ノ前記行爲ニ付其ノ告訴ヲ爲スヘキ旨ヲ申向ケシメ因テ醫師ヨリ長崎章馬ヲ介シテ右藤本啓吉ニ對シ仲裁方懇請シ來ルノ運ヒトナルヤ藤本啓吉ハ仲裁スルノ態度ヲ裝ヒテ貴島醫師ニ對シ被告人虎吉ノ態度ノ強硬ナルコトヲ強調シ置翌三日被告人虎吉ト共ニ貴島三之亟ト鹿兒島市內料亭江戶吉ニ於テ長崎章馬立會ノ上會見シ其ノ席上被告人虎吉ハ特ニ強硬ナル態度ヲ以テ貴島ニ臨ミミヤニ金五千圓ヲ交付スルニアラサレハ前記毆打及猥褻ノ行爲ニ付其ノ告訴ヲ爲スト同時ニ一面之ヲ新聞ニ公表シ以テ貴島三之亟ヲ社會的ニ葬ルヘシト申向ケ同人ヲ畏怖セシメタル結果翌七月四日前記貴島三之亟方ニ於テ同人ヨリ金千圓ヲ交付セシメテ受取り恐喝ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

(二) 第二審ハ被告人藤本啓吉ニ對シ左ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十九條第一項第二十一條刑事訴訟

訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シテ被告人啓吉ヲ懲役六月ニ處シ未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人啓吉及第一審相被告人坪内虎吉ノ連帶負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人啓吉ハ鹿兒島縣鹿兒島郡中郡宇村醫師貴島三之亟ナルモノカ同家ノ看護婦見習春山ミヤニ對シ屢々猥褻ノ行爲ヲ敢テシ且些細ノコトヨリ暴行ヲ爲シ其ノ鼓膜ヲ損傷シタルコトアリシヲ理由トシ同醫師ヨリ金員ヲ恐喝セムコトニ付昭和五年七月一日冒頭被告人ノ肩書住居ニ於テ相被告人坪内虎吉ニ右事實ヲ告ケ同人ト共謀ノ上右貴島醫師ト面識ナキ相被告人虎吉ニ於テ直接之カ交渉ノ任ニ當ルコトトシ翌二日貴島醫師ニ對シ其ノ妻女ヲ介シテ同醫師ノ前記行爲ニ付其ノ告訴ヲ爲スヘキ旨ヲ申向ケシメ因テ同醫師ヨリ長崎章馬ヲ介シテ被告人啓吉ニ對シ仲裁方懇請シ來ルノ運ヒト爲ルヤ被告人啓吉ハ仲裁スルノ態度ヲ裝ヒテ貴島醫師ニ對シ相被告人虎吉ノ態度ノ強硬ナルコトヲ強調シ置翌三日相被告人虎吉ト共ニ貴島三之亟ト鹿兒島市料亭江戶吉ニ於テ長崎章馬立會ノ上會見シ其ノ席上相被告人虎吉ハ特ニ強硬ナル態度ヲ以テ貴島ニ臨ミミヤニ金五千圓ヲ交付スルニアラサレハ前記毆打及猥褻ノ行爲ニ付告訴ヲ爲スト同時ニ一面之ヲ新聞ニ公表シ以テ貴島三之亟ヲ社會的ニ葬ルヘシト申向ケ同人ヲ畏怖セシメタル結果翌七月四日前記貴島三之亟方ニ於テ同人ヨリ金一千圓ヲ相被告人虎吉ノ手ニ交付セシメテ受取り恐喝ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

(三) 記録ニ依レハ被告人坪内虎吉及被告人藤本啓吉ハ本件恐喝罪ノ共犯人トシテ同時ニ豫審ヲ請求セラレ第一審判決ノ言渡ニ至ルマテ共同被告人トシテ審理判決ヲ受ケタルカ第二審ニ至リ被告人啓吉カ病氣ニ罹リタル等事故アリタル爲第二審ハ辯論ヲ分離シ先ツ被告人虎吉ノミニ對シテ審理ヲ爲シ昭和七年三月三十日前記(一)ノ如キ判決ヲ言渡シタル後更ニ被告人啓吉ニ對シテ審理ヲ爲シタル上同年五月二十日前記(二)ノ如キ判決ヲ爲シタルモノナルカ訴訟費用ハ總テ共同訴訟中ニ生シタルモノナルコト明ナリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人啓吉辯護人萬造寺孕二上告趣意書第二點罪ヲ犯ス意ナキ行爲ヲ罰シタルノ不當アリ被告人藤本啓吉ノ行爲ヲ第一點記載ノ如ク高潔ナル動機ニ出テタルモノト解スルコトニ些ノ不自然ナク公平ニ見テオソラク萬人ノ首肯スルトコロナラン之ヲ以テ直チニ恐喝意思ノ發露ト爲スハ所謂警察眼の偏見ニ外ナラス警察ノ聽取書ノ如キハ往々萬一ノ釋放ヲ僥倖セムトスル被疑者心理ノ迎合的陳述ニ過キサルヲ以テ信憑力ナシ然ラハ被告人藤本ニ犯意アリタリトノ直接證據ハ記録中之ヲ發見シ得サルニ非スヤ若シ夫レ同被告人ノ局部的行爲ノ態様ヨリシテ其ノ心事ヲ疑ヒ恐喝意思ヲ推定セムトスルモノアラハ

之レ事件ノ大行ヲ忘レテ細理ニ屈託スルモノト云フ可シ勿論被告人ノ行爲ニ完璧ヲ期スルコトハ無理ノ注文ナリ凡ソ人間ノ行爲ハ之ヲ深く詮索スル時ハ何等カノ失態アルヲ免レサルヘシ況ンヤ被告人ノ行爲ナルニ於テヤ本件被告人ノ場合ニ於テモ亦然リ即チ幾分私慾ニ惑ハサレテ其ノ行爲ニ多少ノ暗影ヲ生シタル形跡アルコトハ爭ハレヌ事實ナリ例ヘハ前記貴島三之亟ニ對スル制裁方法ヲ告訴ニ依ラスシテ示談解決ノ手段ニ求メタルカ如キ又春山ミヤト取得料金分配ノ割合ニ付キ等分スル契約ヲ爲シタルカ如シ然レトモ之ヲ以テ被告人藤本ニ恐喝意思アリタルモノト速斷スルハ當ラス如何ニ犯意ナシトスルモ又何人ヲ以テ本件被告人ノ立場ニ置クモ斯クノ如キ難問題ヲ解決スル爲メニハ個々ノ言行ニ於テ多少トモ脱線スルコトヲ免レサル可シ其ノ個々ノ行爲ノ揚足ヲ取リテ被告人ノ恐喝意思ヲ推定ス可カラサルハ勿論ナリ況ンヤ被告人藤本啓吉ハ前記春山ミヤヨリ慰藉料ノ請求ニ付告訴若クハ示談解決方ノ委任ヲ受ケ其ノ權利ノ行使トシテ本件行爲ニ及ヒタルモノナルノミナラス同被告人カ自己ノ行爲ヲ合法的ナラシメムト努力シテ右春山ノ委任ヲ強請シタル事實ハ一層被告人ニ恐喝意思ノ無カリシコトヲ裏書スルモノト云フヘシ殊ニ慰藉料請求ノ交渉ニハ專ラ相被告人坪内虎吉ヲシテ當ラシメタルカ右藤本ハ其ノ金額ニ付辯護士ノ鑑定ヲ求メタル上決定セラレ度シト注意シタル事實ニ徴シテモ同被告人ニ恐喝意思ノ存セザリシコト明ナリ同被告人藤本ノ行爲ヲ例フレハ恰モ慰藉料請求事件ノ依頼ヲ受ケタル辯護士カ其ノ事務員ヲシテ示談解決ノ交渉ニ當ラシムルト同様何等危險性ヲ帶フルモノニ非

ス然ルニ原審カ被告人ノ犯意ヲ豫斷シテ有罪ヲ言渡シタルハ甚シキ失當ナリト云フニ在レトモ
 原判示事實ハ被告人啓吉ハ鹿兒島縣鹿兒島郡中郡宇村醫師貴島三之亟カ看護婦見習春山ミヤニ對シ屢々猥褻ノ行爲ヲ敢テシ且些細ノ事ヨリ暴行ヲ爲シ其ノ鼓膜ヲ損傷シタルコトアリシヲ理由トシ同醫師ヨリ金員ヲ恐喝センコトニ付昭和五年七月一日第一審相被告人坪内虎吉ニ右事由ヲ告ケ同人ト共謀ノ上貴島醫師ト面識ナキ虎吉ニ於テ直接之カ交渉ノ任ニ當ルコトトシ翌二日貴島醫師ニ對シ其ノ妻女ヲ介シテ同醫師ノ前記非行ニ付其ノ告訴ヲ爲スヘキ旨ヲ申向ケ因テ同醫師ヨリ長崎章馬ヲ介シテ被告人啓吉ニ對シ仲裁方懇請シ來ルノ運ヒト爲ルヤ被告人啓吉ハ仲裁ノ態度ヲ裝ヒテ貴島醫師ニ對シ虎吉ノ態度ノ強硬ナルコトヲ強調シ置キ翌三日虎吉ト共ニ貴島三之亟ト鹿兒島市料亭江戶吉ニ於テ長崎章馬立會ノ上會見シ其ノ席上虎吉ハ特ニ強硬ナル態度ヲ以テ貴島ニ臨ミミヤニ金五千圓ヲ交付スルニ非サレハ前記毆打及猥褻ノ行爲ニ付其ノ告訴ヲ爲スト同時ニ一面之ヲ新聞ニ公表シ以テ貴島三之亟ヲ社會的ニ葬ルヘシト申向ケ同人ヲ畏怖セシメタル結果翌七月四日前記貴島三之亟方ニ於テ同人ヨリ金一千元ヲ虎吉ノ手ニ交付セシメテ受取り恐喝ノ目的ヲ遂ケタリト云フニ在リテ右事實ハ原判示證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足ルヲ以テ被告人啓吉ニ恐喝ノ犯意ナシト謂フコトヲ得ス辯護人ハ被告人啓吉ハ春山ミヤヨリ慰藉料ノ請求ニ付告訴若ハ示談解決方ノ委任ヲ受ケ其ノ權利ノ行使トシテ本件行爲ニ及ヒタルモノナルノミナラス同被告人カ自己ノ行爲ヲ合法的ナラシムルコトニ努力シテミヤノ委任ヲ強

請シタル事實ハ一層同被告人ニ恐喝ノ意思ナカリシコトヲ裏書スルモノナリト主張スレトモ記録ニ依レハ被告人啓吉カミヤニ對シ再三貴島三之亟ヲ告訴スルコトヲ勸メミヤニ強請シテ三之亟ニ對シ告訴及相當ノ損害賠償金額ノ請求ヲ爲スコトヲ自己ニ委託セシメタルコトハ之ヲ認メ得ルモ該委託ハ同被告人カミヤニ代リテ告訴及損害賠償請求ノ權利ヲ實行スルノ意思アリテ之ヲ受ケタルモノニ非スシテ三之亟ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシムル便宜上ミヤニ強請シテ得タルモノニ係リ被告人啓吉ハ右委託ヲ受ケタルモ自己又ハ他人ヲシテミヤニ代リテ右權利ヲ實行シ若ハ實行セシムルノ意思ナク被告人虎吉ト共謀ノ上同人ヲシテ名ヲミヤノ權利實行ニ藉リ原判示ノ如ク三之亟ヲ恐喝セシメ同人ヨリ金員ヲ受取ラシメタルモノナルコト記録ニ徴シ明瞭ナレハ被告人啓吉ニ恐喝ノ犯意アリタルモノト認ムヘク其ノ行爲ハ恐喝罪ヲ構成スルコト勿論ナレハ原判決カ同罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ被告人虎吉辯護人前田梅次上告趣意書第一點原判決ハ被告人ヲ恐喝罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ同罪ハ他人ニ對シ害惡ノ通告ヲ爲シ因テ之ヲ畏怖セシメ不法ニ財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立スルモノニシテ假令他人ニ對シ害惡ノ通告ヲ爲シ財物ヲ交付セシメタル事實アリトスルモ开ハ權利ノ主張ナルニ於テハ不法ニ財物ヲ交付セシメタリト云フ能ハサルヲ以テ同罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ本件ニ付キ之レヲ觀ルニ貴島三之亟ハ其ノ雇人タル看護婦見習春山ミヤニ對シ屢々猥褻ノ行爲ヲ爲シ且ツ些細ノコトヨリ之ヲ毆打シ其ノ鼓膜ヲ破リ治療三十二日ヲ要スル傷害ヲ與ヘタル事實ハ原判決ノ確

定セル所ニシテ春山ミヤハ貴島三之亟ノ此ノ不法行爲ニ因リ精神上身體上多大ノ痛苦ト損害トヲ被ム
 リタルモノニシテ同人ハ貴島三之亟ニ對シ相當ノ慰藉料ト損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利ヲ有スルノミ
 ナラス傷害其ノ他ノ點ニ付キ被害者トシテ告訴ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノトス而シテ相被告人藤本啓
 吉ハ其ノ告訴ヲ爲スノ件及損害賠償慰藉料請求ノ件ヲ春山ミヤヨリ依頼セラレタルコトハ本件豫審終
 結決定書記載ノ事實竝ニ春山ミヤニ對スル司法警察官ノ聽取書第十二答及同人ニ對スル豫審調書第一
 一問答ニヨリ明白ナル事實ニシテ右藤本啓吉及同人ヨリ交渉方ヲ依頼セラレタル被告人ハ春山ミヤノ
 代理人トシテ貴島三之亟ニ對シ慰藉料及損害賠償ノ請求權ヲ有スルモノナルヤ勿論ナリトス既ニ然リ
 トセハ被告人等ハ此春山ノ代理人トシテ貴島三之亟ニ對シ告訴ヲ爲ス旨通告シ貴島三之亟ヨリ示談ノ
 交渉ヲ受クルヤ同人ニ對シミヤノ爲メ慰藉料及損害賠償トシテ金員ノ交付ヲ求メタリトスルモ這ハ執
 レモ權利ノ主張ニシテ不法性ヲ阻却シ恐喝罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ仍テ原判決ニ於テハ被
 告人等ニ對シ須ラク無罪ノ言渡ヲ爲スヘキヲ相當トスルモノナルニ事茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ違
 法アルト共ニ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ
 原判示事實ハ被告人虎吉ハ鹿兒島縣鹿兒島郡中郡宇村醫師貴島三之亟カ看護婦見習春山ミヤニ對シ屢
 ヲ猥褻ノ行爲ヲ敢テシ且些細ノ事ヨリ暴行ヲ爲シ其ノ鼓膜ヲ損傷シタルコトアリシヲ理由トシ同醫師
 ヨリ金員ヲ恐喝センコトニ付昭和五年七月一日第一審相被告人藤本啓吉ヨリ其ノ相談ヲ受クルヤ之ニ

賛同シ同人ト共謀ノ上貴島醫師ト面識ナキ被告人虎吉ニ於テ直接之カ交渉ノ任ニ當ルコトトシ同被告
 人ハ翌二日貴島醫師ニ對シ其ノ妻女ヲ介シテ同醫師ノ前記非行ニ付其ノ告訴ヲ爲スヘキ旨ヲ申向ケシ
 メ因テ同醫師ヨリ長崎章馬ヲ介シテ右藤本啓吉ニ對シ仲裁方懇請シ來ルノ運ヒト爲ルヤ啓吉ハ仲裁ス
 ルノ態度ヲ裝ヒテ貴島醫師ニ對シ被告人虎吉ノ態度ノ強硬ナルコトヲ強調シ置キ翌三日被告人虎吉ト
 共ニ貴島三之亟ト鹿兒島市料亭江戶吉ニ於テ長崎章馬立會ノ上會見シ其ノ席上被告人虎吉ハ特ニ強硬
 ナル態度ヲ以テ貴島ニ臨ミミヤニ金五千圓ヲ交付スルニ非サレハ前記毆打及猥褻ノ行爲ニ付其ノ告訴
 ヲ爲スト同時ニ一面之ヲ新聞ニ公表シ以テ貴島三之亟ヲ社會的ニ葬ルヘシト申向ケ同人ヲ畏怖セシメ
 タル結果翌七月四日前記貴島三之亟方ニ於テ同人ヨリ金千圓ヲ交付セシメテ恐喝ノ目的ヲ遂ケタリト
 云フニ在リテ右事實ハ原判示證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足り記録ニ依レハ被告人啓吉カ右ミヤヨ
 リ三之亟ニ對スル告訴及相當ノ損害賠償金額請求ノ委託ヲ受ケタルコト明ナルモ被告人啓吉ハ自己又
 ハ他人ヲシテミヤニ代リテ右告訴及損害賠償請求ノ權利ヲ實行シ若ハ實行セシムルノ意思ナク又被告
 人虎吉モミヤノ爲ミヤノ右權利ヲ代行スルノ意思アルニ非スシテ被告人兩名共謀ノ上名ヲミヤノ權利
 實行ニ藉リ原判示ノ如ク三之亟ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメタルコト記録ニ徴シ明瞭ナレハ被告人等
 ノ行爲ハ權利ノ行使ナリト云フヲ得ス恐喝罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重
 大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ其ノ主文ニ於テ「訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス」ト言渡シタリ然レトモ本件ニ關スル訴訟費用ハ全部被告人及相被告人藤本啓吉ノ爲メニ生シタルモノナルコトハ記録上明白ナルヲ以テ之レカ負擔ヲ命スルニハ須ラク被告人及藤本啓吉兩名ニ連帶負擔ヲ命スヘキモノナルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ被告人ニ對スル原判決ニハ訴訟費用ノ全部ヲ被告人ノ負擔トスト言渡シタルハ不法ナルノミナラス相被告人藤本啓吉ニ對スル判決ニハ訴訟費用ハ啓吉虎吉兩名ノ連帶負擔トスト言渡シアリテ原院ノ言渡シタル兩判決ハ此ノ點ニ於テ相齟齬スル不法アルモノニシテ被告人虎吉ニ對スル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

記録ヲ調査スルニ被告人啓吉及虎吉ハ本件犯罪ノ共犯人トシ同時ニ豫審ヲ請求セラレ第一審判決ノ言渡ニ至ルマテ共同被告人トシテ審理判決ヲ受ケタルモノニシテ本件訴訟費用ハ全部右共同審理中被告人兩名ノ爲メ生シタルモノナルモ第二審ニ於テハ事件ヲ分離シ先ツ被告人虎吉ノミニ對シテ審理判決ヲ爲シ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノナルコト明ナレハ原判決カ被告人虎吉ニ對シ訴訟費用全部ノ負擔ヲ命シタルハ適法ニシテ所論ノ如ク被告人啓吉ト連帶負擔スヘキコトヲ言渡スヘキモノニ非ス蓋シ訴訟費用ノ負擔ハ被告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ言渡スヘキモノニシテ被告人虎吉ニ對スル原判決言渡ノ當時ニ於テハ第二審ハ被告人啓吉ニ對シ未タ審理ヲ爲サス同被告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲スヤ否未定ナリシト同時ニ訴訟費用ハ刑ノ言渡ヲ受クル被告人ニ其ノ全部ヲ負擔セシムルト其ノ一部ヲ負擔

セシムルトハ裁判所ノ自由裁量ニ屬スレハナリ又第二審ハ被告人虎吉ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル後被告人啓吉ニ對シ審理ヲ遂ケ同被告人ヲ既ニ刑ヲ言渡シタル被告人虎吉ノ共犯ト認メ被告人啓吉ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノナルコト記録ニ徴シ明瞭ナレハ第二審カ被告人啓吉ニ對シ被告人虎吉ト連帶シテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔スヘキコトヲ命シタルハ適法ナルノミナラス被告人啓吉ニ對スル原判決ハ被告人虎吉ニ對シ其ノ效力ヲ有スルモノニ非サレハ被告人虎吉ニ對スル關係ニ於テハ兩判決相齟齬スルモノト謂フヲ得ス要スルニ被告人虎吉ニ對スル原判決ハ所論ノ如キ不法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○裁判ノ執行ニ對スル異議申立却下決定ニ對スル再抗告事件

(昭和七年(一)第四一號
同年九月九日第四刑事部決定 棄却)

【再抗告人】 谷口豐藏

【原 審】 長崎控訴院

○判示事項

裁判ノ執行ニ對スル異議申立ノ時期——取消ノ實益ナキニ至リタル決定ニ對スル即時抗告

○決定要旨

- 一 裁判ノ執行ニ對スル異議ノ申立ハ其ノ目的タル裁判ノ執行ヲ終リタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス【要旨第一】
- 二 原決定ヲ取消スモ何等ノ實益ナキニ至リタル場合ニ於テハ該決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

同法第四百五十八條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○事實

事實關係ハ決定理由中ニ摘出スル所ノ如シ

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

按スルニ裁判ノ執行ニ對スル異議ノ申立ハ裁判ノ執行中ニ爲スコトヲ得ヘク既ニ裁判ノ執行ヲ終リタル後ニ在リテハ之ヲ許スモ實益ナキヲ以テ之カ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノナルコトハ刑事訴訟法第五百六十二條ノ規定ノ趣旨ニ徴シ蓋シ疑ナキ所ナリトス然レハ縱令裁判ノ執行中異議申立アリタル場合ト雖此ノ申立棄却決定ニ對スル即時抗告ヲ棄却シタル決定ニ對シ更ニ抗告アリタル當時既ニ裁判ノ執行ヲ終リ從テ異議申立ノ實益ナキニ至リタルトキハ縱令原決定ヲ取消スモ結局何等ノ實益ナキニ歸スルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ即時抗告ノ申立ハ之ヲ許ササルモノト云ハサルヘカラス今之ヲ本件ニ付査スルニ抗告人カ本件異議申立ヲ爲シタル當時抗告人ハ刑ノ執行中ナリシト雖其ノ後原決定ノ送達ヲ受ケ之ニ對シ本件抗告ヲ爲シタル當時ハ既ニ本件異議ノ目的タル裁判ノ執行ヲ終ヘ甲府刑務所

【要旨第二】

【要旨第一】

ヨリ釋放サレ居タルコト一件記録中甲府刑務所ヨリ長崎控訴院刑事部宛回答書ニ依リ明ナルヲ以テ今日ニ於テハ抗告人ノ本件異議申立ハ其ノ實益アルコトナク從テ本件抗告モ亦前叙ノ理由ニ依リ之ヲ許スヘキモノニ非サルハ勿論ニシテ該抗告ハ之ヲ棄却スヘキモノトス
以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○偽證詐欺私文書偽造行使被告事件(昭和七年(れ)第八四三號
同年九月九日第四刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 久家 庫造 辯護人 山崎今朝彌

【第一審】 米子區裁判所 【第二審】 鳥取地方裁判所

○判示事項

既存ノ借用證書ヲ材料トスル文書偽造

○判決要旨

既存ノ借用證書ニ於ケル借用金額辨濟期限債權者ノ記載ヲ變改スルノ行爲ハ私文書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリ

【參照】 刑法第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ノ外偽證ノ事實ヲ認定シ左記ノ如ク法律ヲ適用シ被告人ヲ懲役八月ニ處シ未決勾留日數中四十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 原審相被告人西村重敏ハ昭和三年二月中被告人庫造ヨリ同人落札ノ安部講ト稱スル無盡講一口(落札金額三百十四圓五十錢掛戻シ金總額六百四十圓)ヲ讓リ受ケ相當ノ連帶債務者ヲ立テ該落札

金ヲ借用スルコト爲リ而シテ鎌田代二郎及細木實治ニ對シ安井講金百圓餘リ借用ノ連帶債務者タルヘキコトヲ依頼シ因テ同人等ヨリ發起人安井講名安井講借用金額百十圓辨濟方法昭和三年二月七日ヨリ昭和四年二月七日迄ノ間隔月割拂ノ旨記載セル講金借用證書(借主西村重敏署名捺印)ニ各連帶債務者トシテ夫々署名捺印ヲ受ケタルモノナル處茲ニ被告人庫造ハ右重敏ト共謀ノ上前記借用證書ヲ使用シ安部講ニ對スル借用證書ヲ偽造行使シ同講管理人ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和三年二月下旬頃米子市角盤町三丁目ナル同被告人居宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ前記借用證書ノ金額百十圓ヲ六百四十圓ニ發起人ノ氏名安井ヲ安部熊藏ニ講名安井ヲ安部ニ辨濟期限昭和八年四月七日迄ト各變改シ因テ前記鎌田代二郎及細木實治ヲ連帶債務者トスル安部講ニ對スル金額六百四十圓辨濟方法昭和三年二月七日ヨリ昭和八年四月七日迄隔月割拂ノ旨ノ講金借用證書一通(證第三號)ヲ偽造シ同被告人ハ其ノ頃米子市角盤町二丁目ナル安部講管理人仲西利太郎方ニ於テ之ヲ真正ニ成立セルモノノ如ク裝ヒ同管理人ニ差入レ行使シ因テ同人ヲシテ重敏ノ右金六百四十圓ノ掛戻債務ニ付眞實鎌田代二郎及細木實治カ連帶債務者ト爲リタルモノト誤信セシメタル結果同月二十七日右管理人宅ニ於テ同人ヨリ講金三百十四圓五十錢ヲ右重敏ヲシテ受取ラシメ之ヲ騙取シタルモノナリ

第二事實省略

被告人庫造ハ大正十四年五月二日廣島控訴院ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役二年ニ處セラレ該刑ハ昭和二年

二月七日勅令第十二號ニヨリ懲役一年九月二十八日ニ變更セラレ當時其ノ刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人庫造ニ對スル判示第一ノ私文書偽造ノ點ハ刑法第五百十九號第一項ニ同行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百十九條第一項詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ判示第二ノ事實ハ同法第六十九條ニ各該當スルトコロ右私文書偽造行使及詐欺ノ各所爲ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從フヘク尙同被告人ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ右各罪ノ所定刑ニ各累犯ノ加重ヲ爲シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ該ルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ依リ重キ僞證罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ施シ同法第十四條ノ制限ニ從ヒタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八月ニ處シ但シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部同被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人山崎今朝彌上告趣意書第二點原判決ハ判示第一事實ニ付被告人ヲ私文書偽造行使罪ニ問擬シタ

リ假ニ被告人カ原判決認定ノ如キ行爲ヲ爲シタリトスルモ本件ハ西村重敏ニ於テ鎌田代二郎及細木實治ニ對シ講金百餘圓ヲ借用スル故保證人トナリクレト依頼シ同人等ノ承諾ヲ得金額百十圓ノ講金借用證書ヲ作成シ右兩名ヲ保證人トシテ署名捺印ヲ得タルモノナルトコロ被告人ハ右西村重敏ト共謀ノ上借用證書ノ金額ヲ六百四十圓安井講トアルヲ安部講ト訂正シタル外其ノ返済方法ヲモ訂正シ金額六百四十圓ノ借用證書ヲ作成シタリト云フニ在リテ而モ最初ノ安井講トアルハ安部講ノ誤リナルコト西村ノ供述ニ徴シ明カナル本件ニ於テハ被告人等ハ金額百十圓ノ借用證書ヲ六百四十圓ノ借用證書ニ變造シタルモノニシテ被告人ノ行爲ハ私文書變造行使罪ヲ構成スヘキハ格別文書偽造行使罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ此ノ事實ヲ無視シ被告人ヲ文書偽造行使罪ニ間擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ニ依レハ第一審相被告人西村重敏ハ鎌田代二郎及細木實治ニ對シ安井講ヨリ金借スルニ付連帶債務者タルヘキコトヲ依頼シ右兩名ハ講名安井講發起人安井借用金額百十圓辨濟方法昭和三年二月七日ヨリ昭和四年二月七日迄隔月割拂トセル右重敏ノ講金借用證書ニ各連帶債務者トシテ夫々署名捺印シタル處其ノ後被告人及前記重敏ハ共謀ノ上擅ニ行使ノ目的ヲ以テ右借用證書中ノ金額ヲ六百四十圓講名ヲ安部講發起人ヲ安部熊藏辨濟期限ヲ昭和八年四月七日迄ト各其ノ部分ヲ變改シ以テ前記代二郎及實治ヲ連帶債務者トシ安部講ニ對スル金六百四十圓辨濟方法昭和八年四月七日迄隔月割拂ノ旨ノ講

【要旨】

金借用證書ヲ作成シ之ヲ安部講管理人仲西利太郎ニ差入レタリト云フニ在リ即被告人ハ既存ノ借用證書ニ於ケル他人ノ署名捺印ヲ冒用シ證書ノ重要ナル部分ヲ變更シ全然別異ノ權利關係ヲ表示スル借用證書ヲ作成シタルモノナリ斯クノ如ク既存ノ借用證書ヲ變更シ之カ爲變更前ノ文書ト全然異リタル權利關係ヲ表示スル借用證書ヲ作成スルハ私文書ノ變造ニ非スシテ其ノ偽造ヲ以テ論スヘキモノトス左レハ原判決カ被告人ノ所論判示行爲ヲ私文書偽造及其ノ行使罪ニ間擬シタルハ何等擬律ニ錯誤アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

第三點原審公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ辯護人ノ申請ニ依リ米子區裁判所ヨリ昭和五年(ハ)第七一二號民事記錄ヲ取寄スヘキ證據決定ヲ爲シタルコトハ同公判調書第二二丁ノ記載ニ徴シ明カナリトス然ルニ其ノ後ノ公判ニ於テ米子區裁判所ヨリ取寄セタル昭和五年(ハ)第七一三號民事記錄ヲ被告人ニ展示シタル旨ノ記載(記錄六五丁)アルニ止マリ右證據決定ニ係ル昭和五年(ハ)第七一二號記錄ハ之ヲ法廷ニ顯出シテ被告人ニ展示シ其ノ意見反證ヲ求メタル事迹ノ徴スヘキモノ存スルトコロナク結局原審裁判所ニ於テハ自ラ決定シタル證據調ヲ完全ニ履踐セサルモノニシテ公判手續上重大ノ違法アリ原判決ハ斯ル公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

記錄ニ徴スルニ原審第一回公判ニ於テ原裁判所ハ辯護人ノ申請ヲ容レ米子區裁判所ヨリ同應昭和五年

(ハ) 第七一二號原告仲西利太郎被告鎌田代二郎間ノ講金請求事件ノ記録ヲ取寄スヘキ證據決定ヲナシタルコト所論ノ如クニシテ原審裁判長ノ米子區裁判所ニ對スル取寄囑託書控ニ前掲記録送付方囑託ノ記載同區裁判所判事ヨリノ送付書ニ同記録ヲ送付スル旨ノ記載アリ原審ニ於テ此ノ送付書到著後開廷シタル第二回ノ公判調書ニ裁判長ハ被告人ニ對シ米子區裁判所ヨリ取寄セニ係ル昭和五年(ハ)第七一三號原告仲西利太郎被告鎌田代二郎間ノ講金請求事件ノ訴訟記録ヲ示シ且利益ノ證據ヲ提出スヘキ旨告ケタルニ云々ノ記載アリテ取寄記録ノ事件番號第七一三號トアルハ第七一二號ノ誤記ナルコト記録上明白ナリ然ラハ取寄ノ決定ヲ爲シタル民事記録ハ原審ニ於テ之ヲ取寄セ公判廷ニ顯出シタルコト明瞭ナレハ該證據決定ハ之ニ依リ完全ニ施行セラレタルモノニシテ被告人ニ反證ノ提出ヲ促シタルコト亦前掲調書ノ記載ニ依リ明白ナリ而シテ原判決ハ取寄記録ヲ罪證ニ供シタルニ非サルヲ以テ之ニ對スル被告人ノ意見辯解ヲ徵スルノ必要ナシ(昭和六年(レ)第一一六五號同年十一月十二日宣告當院第一刑事部判決參照)論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○騷擾住居侵入毀棄脅迫傷害被告事件(昭和七年(レ)第八一〇號 棄却)
(同年九月十二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 塚田清一郎 辯護人

外十四名

松山 下朝 榮
 崎上 今太 郎
 河野 三雄
 細野 三壯
 三輪 壽

外二名

【第一審】 新潟地方裁判所長岡支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

騷擾罪ノ首魁 翌日ニ互ル豫審訊問ノ效力

○判決要旨

一 騷擾罪ノ首魁トハ主動者トナリ多衆ヲシテ其ノ合同力ニヨリ騷擾行爲ヲ爲サシムル者ヲ謂ヒ必シモ他ノ共犯者ヲ威壓シテ服從セシメ又ハ之ニ對シ各別ニ犯罪ノ實行ヲ教唆スルコトヲ要セス

騷擾罪ノ首魁 翌日ニ互ル豫審訊問ノ效力

【要旨第一】

二豫審訊問ノ手續進行中偶々翌日ニ至ルコトアルモ之カ爲ニ當然其ノ手續ヲ無効ト爲スヘキニ非ス【要旨第二】

【參照】 刑法第六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ被告人清一郎ニ對シ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人清一郎ヲ懲役二年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ何レモ其ノ居村ニ於ケル小作人又ハ其ノ子弟ニシテ新潟縣三島郡王寺川村大字王番田ノ小作人等ハ曩ニ大正十四年中小作組合ヲ組織シ翌十五年全國農民組合ニ加盟シテ全國農民組合新潟縣聯合會王番田支部ト稱シ被告人清一郎ヲ支部長同與吉ヲ副支部長同徳次郎ヲ會計主任同勘三郎同磯松及同政一ヲ幹事トシテ地主階級ト抗爭シ次第ニ其ノ勢力ヲ振張シテ昭和二年春被告人清一郎カ王番田惣

代臨時代理ノ地位ニ就クヤ同年三月十六日遽ニ王番田住民大會ヲ開催シ前年ノ小作爭議以來農民組合側小作人ト拮抗シテ最モ強硬ノ態度ヲ持シ居リタル村内ノ地主近藤正次 池津傳一郎 同傳治 長部與太郎 木村二三等ノ外之ヲ支援セル一派ノ小作人ヲ斷然村除キ處分ニ付シ村民ノ一團中ヨリ放逐シタル爲近藤正次等ノ一派ハ別ニ親農會ト稱スル親睦團體ヲ結成シテ之ニ對抗シ爾來小作關係ヲ繞リテ爭訟頻發兩者ノ感情次第ニ疎隔シテ殆ント底止スル所ヲ知ラサラントシタルカ其ノ後昭和三年七月中近藤正次ハ荒川奥藏ヨリ前記農民組合員長部熊吉居室ノ敷地ヲ買收シ同年秋熊吉方附近ニ自家ノ農事作業場ヲ築造スルニ當リ親農會側ノ後援ニ依リ故ラニ熊吉ノ居宅軒下ニ接著シテ多量ノ土壤ヲ採掘搬出シ以テ其ノ敷地ノ埋立形成ノ用ニ充テ因テ熊吉一家ノ安住ヲ脅カスカ如キ事態ヲ生セシメタルノミナラス親農會員荒川奥藏亦長岡區裁判所ニ繫屬スル長部熊吉對風間修治間ノ訴訟ニ關シ證人トシテ出廷シ前者ニ不利ナル證言ヲ敢テシタル爲農民組合側小作人ノ近藤正次一派ヲ恨ムコト愈々痛切ニシテ兩派ノ抗爭頓ニ深刻ノ度ヲ加フルニ至リタリ然ルニ他方長岡區裁判所ニ繫屬セル近藤正次等一派ノ地主ト其ノ農民組合側小作人トノ間ノ小作爭議モ官邊ノ調停斡旋アリタルニ拘ラス兩者互ニ其ノ懸絶セル主張ヲ固持シテ讓ル所無カニシ爲昭和五年三月二十七日ニ至テ遂ニ妥協ノ途絶エ小作人等ノ抱懷セシ地主屈服ノ期待モ空シク水泡ニ歸シタルヲ以テ被告人清一郎 與吉 徳次郎等十數名ノ農民組合側小作人ハ同日裁判所附近ノ太子堂ニ集合シテ今後ノ對策ヲ考究シ結局局面轉換ノ方策トシテ組合側小作人

多數ノ奮起ニ因リ近藤正次ノ作業場ヲ襲ヒテ其ノ軒下ノ土壤ヲ採掘シ之ヲ長部熊吉ノ庭内ニ運搬回復シテ多衆ノ威力ヲ示シ以テ近藤正次一派ヲ威服セントノ案ヲ得タルカ次テ同月二十九日王番田ノ公會堂ニ於テ開催セラレタル前記農民組合王番田支部ノ幹部會ハ之ヲ採擇シテ同月三十一日ヲ決行ノ日ト決定シ尙ホ全國農民組合新潟縣聯合會本部ニモ之ヲ報告シテ其ノ應援ヲ乞ヒ以テ諸般ノ準備ヲ整ヘタル上豫定ノ三月三十一日ニハ午前八時頃ヨリ組合側小作人約五十名(本件被告人中高橋傳次及池津政一以外ハ總テ之ニ參加ス)ハ大學シテ右ノ作業場ヲ襲ヒ前記本部ヨリ來援セル伊藤寅次等カ其ノ不法ヲ詰責セントシテ其ノ場ニ來レル近藤正次ニ暴行ヲ加ヘテ逐斥シタル後多衆協力シテ土壤ノ採掘運搬ヲ繼續シ日没頃ニ及ンテ一旦之ヲ中止シタルカ越ヘテ同年四月二日被告人清一郎同與吉及同徳次郎等ハ相謀リテ同日午後二三時頃再ヒ農民組合側小作人數十名ヲ前記長部熊吉方ニ糾合シ被告人清一郎ヨリ一同ニ對シテ同日ハ近藤正次ノ長女ニ結納祝ノ慶事アル筈ナルヲ以テ此ノ機ニ前ノ土取ヲ續行シ以テ其ノ面目ヲ失墜セシムヘキ旨ヲ申渡シ席上ニ酒ヲ運ンテ一同ノ士氣ヲ鼓舞シタル上相率キテ前記作業場ノ南邊ニ到リ被告人等何レモ之ニ參加シテ土壤ノ採掘運搬ヲ開始シタルカ夕刻ニ及ンテ鬱積セル反感ノ迸ル所遂ニ群集中ニ土石ヲ投シテ作業場ノ窓硝子ヲ破壊シ或ハ其ノ戸口ヲ踏破リテ場内ニ闖入シ暴威ヲ振ハントスル者ヲ生スルニ至リタル爲被告人清一郎ハ此ノ狀勢ヲ看取シテ事茲ニ到ル上ハ多衆ノ暴威ヲ藉リテ近藤正次以下ノ親農會員ヲ大イニ膺懲威服シ以テ小作爭議ヲ自派ニ有利ニ展開解決

セシメント欲シ決然作業場前面ノ路上ニ立チ「ヤレヤレ」「惡地主ヲ打倒セ」ト連呼シテ群集ヲ激勵指揮シ以テ騷擾シ勢ヲ決シタル爲群集ハ忽チ喊聲ヲ揚ケテ暴行ニ移リ或ハヤレ／＼ト叫ンテ作業場其ノ他ニ土石ヲ投シテ窓硝子格子等ヲ毀壞シ或ハ板戸ヲ打破リテ作業場内ニ亂入シ在合ハセタル糯米機其ノ他ノ農具器物ヲ觸ルルニ隨テ損壞毀傷シ更ニ餘勢ヲ驅リテ近藤正次ノ居室ヲ襲ヒ庭前ノ盆栽花等ヲ投擲損壞シ土石棒杭ヲ屋内ニ投入シテ戸障子ヲ打破リ更ニ住宅ノ周圍ヲ打叩キテ腰板兩戸戸袋等ヲ頻リニ損壞毀傷シ猶ホ嫌ラスシテ正次ノ飼養セル鶏犬ヲ屠リテ其ノ死屍ヲ屋内ニ投入シ暫ク暴狀ヲ擅ニシタル後一旦長部熊吉方ニ引上ケタルカ被告人清一郎 與吉 徳次郎等ハ相謀リテ一同ニ酒食ヲ薦メ以テ其ノ勞ヲ犒ヒ一層其ノ氣勢ヲ煽揚シタル上清一郎ハ起テ一同ニ向ヒ吾等ハ今日迄忍ヒ來レルモ既ニ和解ハ不調トナリ耕地ヲ奪取セラルル日モ目前ニ迫レルヲ以テ今ヤ愈々最後ノ手段ニ訴ヘ地主及親農會員ヲ悉ク襲撃シテ徹底的ニ膺懲制壓セサル可カラス云々トテ暴行騷擾ノ決行ヲ促シ一同歡呼シテ之ニ賛スルヤ被告人徳次郎ヲシテ警官ノ出動ニ備フルト共ニ長岡市所在ノ日本大衆黨新潟縣聯合會本部トノ連絡ノ衝ニ當ラシムル爲之ヲ其ノ場ニ殘シ同夜八時頃清一郎自ラ先頭ニ立チテ熊吉方ヲ出テ衆ヲ率キテ先ツ地主池津傳一郎方ヲ襲ヒ次テ親農會側ノ長部與太郎方木村二三方池津傳治方池津音吉方長部謙次郎方池津作太郎方杉本勇藏方吉田猶松方池津文三郎方八木野傳次郎方吉田健次郎方荒川與藏方木村榮七方等ヲ順次ニ襲撃シ群集ハ清一郎統率ノ下ニ喊聲ヲ舉ケテ或ハ土足ノ儘屋内ニ亂入シ或ハ

「ヤレ」 「ヤッ付ケロ」ト叫ンテ屋内ノ戸障子器物ノ類ヲ損壞打破シ更ニ羽目板戸袋窓格子其ノ他家屋ノ一部ヲ毀壞シ以テ狂暴狼藉ノ限リヲ盡シ右傳一郎方ニ於テハ其ノ祖母ノブ(當時八十一歳)ニ杉丸太ヲ投シテ其ノ下顎部ニ全治迄約十日ヲ要スル傷害ヲ加ヘ與太郎方ニ於テハ主人ヲ捉ヘテ庭前ノ河中ニ投入シ薪ヲ投擲シテ其ノ頭部ニ全治迄約一週日ヲ要スル裂傷ヲ負ハシメ勇藏方ニ於テハ其ノ作辰三郎ヲ亂打シテ其ノ頭部等ニ全治迄數日ヲ要スル傷害ヲ加ヘ猶松方ニ於テハ石塊ヲ投シテ之ニ全治迄約一箇月ヲ要スル肋骨折創ヲ負ハシメ奥藏方ニ於テハ其ノ妻ツルニ石塊ヲ投シテ左背部ニ全治迄一週日ヲ要スル打撲傷ヲ負ハシメタルノミナラス逃避セントスル奥藏ヲ捉ヘテ地上ニ押倒シ或ハ足ヲ舉ケテ其ノ頭部ヲ蹴リ或ハ鐵拳棍棒ヲ振テ之ヲ毆打シ以テ暴行凌虐ヲ逞フシタル上速ニ親農會ヲ脱會シテ長部熊吉ノ住宅ヲ其ノ所有ニ歸セシムヘク若シ肯カサレハ撲殺スヘシ云々トテ之ヲ脅威シ奥藏カ近藤正次ト協議ノ上ナラテハ取計ヲヒ難キ由ヲ答フルヤ之ヲ更ニ近藤正次方ニ拉致シテ之ヲ同家臺所爐邊ニ押入レテ正次ヲ其ノ場ニ招カシメ父不在ト稱シテ其ノ長男新二郎カ其場ニ來ルヤ口々ニ「正次ノ居ラサル筈ナシ」 「叩殺シテ仕舞ヘ」ト叫喚怒號シツツ屋内ニ亂入シ棍棒ヲ振テ交々之ヲ毆打シテ遂ニ出血負傷セシメ新二郎カ望ミ通りニ爲スヘキ旨ヲ以テ助命ヲ哀願スルヤ被告人清一郎等ハ今迄ノ裁判ヲ總テ取消ス旨誓約シ且其ノ旨ノ證書ヲ認メテ差出スヘシ然ラハ命ノミハ助ケ遣スヘク若シ應セサレハ此儘打殺スヘシ云々トテ脅迫シ尙ホ筆墨カ無ケレハ汝ノ流血ヲ以テ直ニ認ムヘシトテ遂ニ新二郎ニ

強要シテ其ノ旨血書セシムルト共ニ他方荒川奥藏ニ對シテモ長部熊吉等ハ或ハ「叩殺シテ仕舞ヘ」 「疊ンテ了ヘ」ト叫ヒ或ハ「明日迄ニ熊吉ノ家ヲ其ノ名義ニセヨ」トテ難題ヲ強要シツツ交々棍棒ヲ以テ之ヲ亂擊強打シテ出血負傷セシメ更ニ新二郎ノ右誓約ノミヲ以テハ不足ナリトシ近藤正次ニ迫リテ同様ノ證書ヲ提供セシメント欲シ被告人作一等ハ家探シヲ爲スヘシトノ聲ニ應シテ同家ノ奥座敷ニ闖入シ遂ニ正次ヲ寢室ニ發見シテ寢具ヲ剝取り其ノ襟首ヲ擱ンテ之ヲ一同ノ前ニ引出シ本件被告人等ノ一團ハ或ハ棍棒ヲ提ケテ其ノ身邊ヲ圍ミ或ハ鐵拳兇器ヲ用ヒテ之ヲ毆打シ口々ニ「新二郎同様ノ證文ヲ書ケ」 「書カサレハ毆ルソ打殺スソ」ト脅迫シ以テ正次ヲシテ小作訴訟ヲ取下ケ長部熊吉ノ住宅及大字王番田ノ協議費ニ關スル訴訟ヲ解決スヘキ旨ノ全國農民組合宛證書一通ヲ新二郎ニ代書セシメタル上之ニ其ノ實印ヲ押捺シテ被告人清一郎ニ交付セシメタル後一同凱歌ヲ奏シテ熊吉方ニ引上タルカ其ノ際ノ暴行ニ因リ新二郎ハ頭部其ノ他ニ全治迄一週間乃至五週間ヲ要スル創傷數箇ヲ被リ奥藏ハ頭部ニ全治迄約二週間ヲ要スル裂傷ヲ負ヒ正次ハ左頬其ノ他ニ全治迄二週間乃至三週間ヲ要スル數箇ノ創傷ヲ被リタルモノニシテ右騷擾ノ際

第一被告人清一郎ハ

- (一) 騷擾團體ノ首魁トシテ衆ヲ率キ前示ノ如ク大ニ活動シタル外
- (二) 池津傳一郎方及同傳治方ノ兩所ニ於テ各其ノ茶ノ間口ニ建付アリタル障子戸ヲ棍棒ニテ打毀

チ

(三) 池津音吉方ニ闖入シ音吉ヲ捉ヘテ鋸ヲ突付ケ血ヲ見ルカ火ヲ見ルカト脅迫シ

(四) 近藤正次ノ住宅ニ闖入シテ衆ト共ニ近藤新二郎ヲ毆打シ因テ前示ノ如ク負傷セシメタル上前示ノ如ク新二郎及正次ヲ脅迫シテ其ノ義務ナキニ拘ラス血書又ハ墨書ノ證書各一通宛ヲ作成交付セシメタリ

判示近藤新二郎ノ負傷カ何人ノ暴行ニ因リテ生シタルモノナリヤ明確ナラス又被告人清一郎ノ各所爲中其ノ同一罪名ニ觸ルルモノハ何レモ繼續ノ犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人清一郎ニ係ル騷擾ノ所爲ハ刑法第六條第一號ニ住居侵入ノ各所爲ハ刑法第三百十條第五十五條ニ器物毀棄ノ各所爲ハ刑法第二百六十一條第五十五條ニ加重脅迫ノ各所爲ハ刑法第二百二十三條第一項第五十五條ニ單純脅迫ノ所爲ハ刑法第二百二十二條第一項ニ傷害ノ所爲ハ刑法第二百七條第六十條第二百四條ニ該當スルトコロ騷擾ノ罪ト他ノ犯行トハ競合的ニ成立セルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シテ最モ重キ騷擾首魁罪ノ刑ニ從ヒ主文ノ刑ニ處スヘキモノトス

被告人傳次ニ對スル第二回豫審訊問調書ノ冒頭ニ昭和五年六月二十九日前回ニ引續キ右高橋傳次ニ對シ訊問スルコト左ノ如シトアリテ次テ二十數葉ニ互リ問答ヲ敘述シ而シテ末尾ニ右讀聞ケタルニ無相

違旨申立テ署名捺印シタリ昭和五年六月三十日ト記載シアリテ右訊問ヲ二十九日ニ終了シ同調書ヲ三十日ニ作成シタル形跡ナシ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人清一郎辯護人松下榮上告趣意書第一點ハ本件ニ於テ原院ハ塚田清一郎ヲ首魁者ト認メ重刑ヲ科シタリ右被告人塚田ハ果シテ首魁者トシテ目スヘキモノナルヤ疑ナキ能ハス元來首魁者タルノ要件ハ刑法別ニ定ムル處アラスト雖舊刑法ニ於テハ首魁及教唆者ハ共ニ重刑ヲ科シタリ而シテ現刑法ハ唯リ首魁者ノミヲ掲ケ教唆者ナルモノヲ除外シタル處ヨリ見ルモ首魁者ハ勿論本罪ニ於ケル主要ノ位地ニアリタルノ外當然教唆者タルモノナリ即チ他ノ共犯者ヲシテ犯意ヲ造出セシメタルモノナル事ヲ要スト見タルカ爲ナルヘシ故ニ本件ニ於ケル被告清一郎ハ首魁者タルニハ他ノ共犯者ヲ威壓シ唯命之ニ從ハシムル關係ニ置キタルカ又ハ各別ニ犯罪ノ事ニ從フヘク教唆ヲ爲シ之ニ因テ多數カ犯罪執行ノ意ヲ生シタルコトヲ要スルモノト信ス然ルニ本件發生ノ動機タルヤ小作爭議ニ端ヲ發シ頑迷ナル地主等ハ小作人ニ對シ其ノ要求ニ應セサルノミナラス進シテ裁判上訴訟ヲ提起シ且假處分ノ申請ニ出ル等或小作人等カ窮餘之カ對策ヲ講スルヤ地主近藤正次等ハ或ル小作人ノ住宅敷地ノ周圍ノ土壤ヲ掘リ以テ

交通ヲ妨ケ又ハ耕作田ヲ搔キ廻シテ其ノ收穫ヲ不能ナラシム等ノ手段ニ出テタリ茲ニ於テカ小作人等亦一段ノ憤怒ヲ加フルニ至リ終ニ常軌ヲ逸スルニ至リタルハ本件記録ニ依ツテ明ナリ故ニ本件被告等ノ行動ハ敢テ塚田清一郎等ノ指揮命令スル迄モナク其ノ爆發ハ免レ難キモノ換言スレハ本件多數ノ被告等ハ既ニ其ノ實行ノ意ヲ有シタルモノニシテ期セスシテ此ノ犯罪行爲ニ一致シタルモノ所謂共同的犯行ニ過キスシテ被告人塚田ヲ以テ首魁者ナリト斷スヘキ理由ナキナリ然ルニ原院ハ塚田ヲ首魁者ナリトシ騷擾ヲ誘發セントシ又ハ首謀策シ云々ト抽象的ニ説明スルモ何故ニ塚田ハ首魁者タリ得ルノ理由殆ント捕捉シ難シト云フニ在レトモ

【要旨第一】

騷擾罪ノ首魁トハ主動者トナリ多衆ヲシテ其ノ合同力ニヨリ騷擾行爲ヲ爲サシムル者ヲ謂フモノニシテ所論ノ如ク必スシモ他ノ共犯者ヲ威壓シ唯命之ニ從ハシムル關係ニ置キタルカ若ハ各別ニ犯罪ノ事ニ從フヘク教唆シタルモノナルコトヲ要スルモノニ非ス原判決ヲ查閱スルニ被告人清一郎ハ主動者ト爲リ本件騷擾行爲ヲ爲サシメタルコトヲ看取スルニ足リ原判決ハ被告人清一郎カ本件騷擾罪ノ首魁タルコトヲ判示スルニ於テ毫モ缺クル所ナキヲ以テ所論ノ如キ理由不備ノ違法アルコトナク論旨ハ理由ナシ

各被告人辯護人山崎今朝彌 河上丈太郎 細野三千雄 三輪壽壯 高島春二上告趣意書第一點ハ原判決ハ被告人傳次ニ對スル第二回豫審調書ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ右被告人傳次ニ對ス

ル第二回豫審調書ヲ閱スルニ其ノ冒頭ニハ「前略騷擾住居侵入建造物毀棄傷害被告事件ニ付昭和五年六月二十九日新潟地方裁判所長岡支部ニ於テ豫審判事代理判事高橋作兵衛ハ裁判所書記眞島清作立會ノ上前回ニ引續キ右高橋傳次ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ(豫審記録第五冊ノ二一四一丁)ト記載シアリテ右被告人ヲ訊問シタルハ昭和五年六月二十九日ナルカ如キモ其ノ末尾ニハ昭和五年六月三十日ノ日附アリテ(同記録二一六六丁)同日之レヲ作成セル如ク又二十九日ヨリ翌三十日迄夜ヲ越ヘ連續訊問ノ人權蹂躪ヲ敢テシタルカ如ク正確ニ其ノ作成日ヲ知ルヲ得サル結果同調書ハ結局刑事訴訟法第五十八條所規ノ年月日ヲ記載セサル無効ノモノカ又ハ豫審調書ノ性質ニ反シ即時其ノ日其ノ場所ニ於テ作成セス訊問ノ翌日之レヲ作成シタル無効ノモノカ或ハ又到底認容シ得サル人權蹂躪ノ結果作成セラレタル無効ノモノナリトス然ラハ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ先ツ記録ニ就キ所論被告人傳次ニ對スル第二回豫審調書ノ前後ニ編綴セラレタル豫審調書ヲ閱スルニ被告人池津嘉藤次及被告人萩野作一ニ對スル各豫審訊問調書ニ依レハ何レモ昭和五年六月二十九日同被告人等ノ訊問ヲ了シ各即日其ノ調書ヲ作成シタルモノト認ムルコトヲ得ヘク又長部長次郎ニ對スル訊問調書ニ依レハ同年六月三十日同被告人ノ訊問ヲ了シ即日同調書ヲ作成シタルモノナルコトヲ看取スルニ足レリ然ルニ所論被告人傳次ニ對スル第二回豫審調書ニハ其ノ冒頭ニ昭和五年六月二十九

日……………前回ニ引續キ右高橋傳次ニ對シ訊問スルコト左ノ如シトアリテ次テ二十數葉ニ互リ問答ヲ敘述シ而シテ末尾ニ右讀聞ケタルニ無相違旨申立テ署名捺印シタリ昭和五年六月三十日トノ記載アリ由是觀之右被告人傳次ニ對スル第二回豫審訊問ハ昭和五年六月二十九日ニ開始セラレタルモ同日終了セシテ翌三十日ニ互リ其ノ手續ヲ繼續シ三十日ニ至テ終了ヲ告ケ同日同調書ヲ作成シタルモノト解スルヲ相當ト認ム斯カル場合該豫審調書ヲ以テ直ニ無効ト爲スヘキニ非ス何トナレハ豫審判事カ被告人ヲ訊問スルニ當リ期日ヲ指定シタルトキハ訊問手續ハ其ノ日時ニ於テ開始セラルヘキモノナルモ終期ハ固ヨリ豫定セラレス一旦訊問手續カ開始セラレタル以上其ノ手續ノ終了ニ依テ其ノ期日ノ終了ヲ告クルモノナレハ即チ該訊問手續ノ進行中曆日ヲ代ヘ翌日ニ至ルコトアルモ之カ爲ニ當然其ノ訊問手續ヲ無効ト爲スヘキニ非サレハナリ然リ而シテ所論豫審ニ於ケル被告人傳次ニ對スル第二回訊問ハ前敍ノ如ク昭和五年六月二十九日ヨリ翌三十日ニ互リ行ハレタリト雖豫審事務ノ性質上往々夜ニ入りテ執務スルコトアルカ如キハ敢テ稀ナリトセス斯ル場合ニ於テハ豫審判事モ被告人モ共ニ多少ノ疲勞ヲ來タスコトアリト雖是レ已ムヲ得サルニ出テ他ニ特別ノ事情ノ加ハルニ非サレハ其ノ之アルノ故ヲ以テ直ニ被告人ノ人權ヲ蹂躪シタルモノト目スヘキニ非ス記録ニ依レハ特ニ同被告人ニ對シ不當ノ處置ヲ爲シタル形跡ノ認ムヘキモノナキヲ以テ所論被告傳次ニ對スル第二回豫審調書ニ於ケル供述記載ハ其ノ證據力ニ於テ缺クル所ナシト認ムルヲ相當トス然ラハ之ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル原判決ハ正當ニ

【要旨第二】

シテ所論ノ如キ不法アリト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○業務上横領背任被告事件(昭和七年(九)第八七)號 棄却)
(同年九月十二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 佐藤 實 辯護人 赤井 幸夫

【第一審】 金澤地方裁判所七尾支部 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

蝟配當ト背任罪及商法第二百六十一條第一項違反罪ノ關係

○判決要旨

蝟配當ト背任罪及商法第二百六十一條第一項違反罪ノ關係

取締役カ主トシテ株主ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キ利益ナキニ拘ラス假裝ノ利益ヲ計上シ株主ニ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ背任罪ニ問擬スヘキモノニシテ商法第二百六十一條ヲ適用處斷スヘキモノニ非ス

【參照】 刑法第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
商法第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

同法第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、検査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ
前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十七條第五十五條第二百五十三條等ヲ適用シテ被告人ヲ懲

役二年ニ處シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ外二百數名ト共ニ株式會社能登産業銀行(資本金二百萬圓)ノ設立ヲ企テ其ノ發起人總代トナリ專ラ設立ニ關スル所轄官廳トノ交渉株式ノ募集其ノ他創立準備ニ關スル一切ノ事務ニ奔走シ大正十年十月二十七日石川縣鹿島郡七尾町字一杉町十五番地ニ同銀行ヲ設立シ其ノ後株式會社金城貯金銀行(資本金三萬圓)ヲ買收シテ主務官廳ノ營業ノ認可ヲ受ケ同年十二月三十一日右銀行ノ設立登記手續ヲ經由スルト共ニ右金城貯金銀行ヨリ其ノ債權債務ノ引繼ヲ了シ同銀行ハ同日解散シテ大正十一年一月一日ヨリ能登産業銀行ノ營業ヲ開始スルニ至リタルトコロ同銀行設立當初ヨリ自ラ其ノ常務取締役トナリテ同銀行一切ノ行務ヲ處理シ來リタルモ其ノ後大正十三年四月中衆議院議員トシテ立候補スルニ及ヒ社會ニ對スル體裁ヲ顧慮シ同年四月九日形式上常務ノ職ヲ辭シ單ナル取締役ト爲リタルモ依然常務取締役ト何等異ルコトナク同銀行本支店ニ於ケル營業上重要ナル事項竝資金ノ借入融通其ノ他行務全般ヲ處理シ居タルトコロ

第一犯意ヲ繼續シテ

(イ) 被告人ハ右株式會社能登産業銀行ノ常務取締役若ハ取締役タル任務ニ違背シ同銀行株主ニ配當利益ヲ與フル目的ノ下ニ

(一) 前記株式會社金城貯金銀行ヨリ繼承シタル貸付金總額金七十五萬七千三百八十二圓二錢中ニ

ハ當初ヨリ合計三十四萬六千八百七十五圓四十錢ノ不良貸付アリテ其ノ回收不能ナルヲ熟知シ從テ右金額ハ能登産業銀行ノ缺損ニ計上スヘキニ拘ラス同銀行ノ資産ヲ假裝スル爲同銀行金澤支店ヲシテ大正十一年一月一日ヨリ昭和元年十二月三十一日ニ至ル迄ノ間決算期毎ニ右不良貸付金ニ對スル未收入利息ヲ計上シテ之ヲ元本ニ組入レシメ以テ確實ナル資産ノ如ク裝ヒ之ヲ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ遂ニ昭和元年十二月三十一日現在ニ於テ合計金五十八萬四千六百七十圓二十一錢ニ達セシメ

(二) 能登産業銀行創立ニ關スル運動費諸設備費株式募集費本支店派出所開店費其ノ他同銀行ノ爲ニ支出シタル金額中創立費トシテ計上シタル金九千八百六十三圓六十九錢ヲ控除シタル殘額金五萬九千六百八十圓八十五錢ハ決算期毎ニ其ノ決算期間中ニ支出シタルモノハ之ヲ同銀行資産ノ部ニ計上スヘキモノニ非サルニ拘ラス其ノ都度之ヲ自己名義ニテ同銀行本店ノ貸付金ト表示記帳セシメ依テ創立當初ヨリ昭和二年五月三十一日迄ノ間右金員ニ相當スル額ヲ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ

(三) 能登産業銀行石動支店ハ被告人カ代表取締役タル株式會社鹿島組ニ對シ大正十四年五月二日附ニテ金六千八百圓ヲ貸付ケタルコトナキニ拘ラス同支店ニ命シ右貸金アルモノノ如ク假裝セシメタル上同金額ニ對スル同年五月二十九日ヨリ昭和元年十二月三十一日迄ノ未收入利息二千十四

圓九十一錢ヲ昭和元年十二月三十一日ニ於ケル同銀行資産ノ部ニ記入計上セシメ

(四) 昭和元年十二月三十一日能登産業銀行金澤支店ヨリ自己カ金二千五百圓ヲ借受ケタルコトナキニ拘ラス同支店長宮川米次郎ヲシテ之カ借入レヲ爲シタルモノノ如ク記帳セシメテ同金額ヲ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ以テ同銀行ノ資産ヲ假裝シ加フルニ被告人ハ其ノ營業方針ヲ謬リタル爲同銀行ノ缺損次第ニ嵩ミ當時ノ狀態ニ在リテハ到底利益配當ヲ爲スコト能ハス強イテ之ヲ爲スニ於テハ同銀行ノ危機ヲ醸成スヘキ内情ナルコトヲ熟知シ居リタルニ拘ラス大正十二年上半期(大正十二年六月三十日現在)ヨリ昭和元年下半期(昭和元年十二月三十一日現在)ニ至ル迄ノ間只管同銀行ノ缺損ヲ隱蔽シ株主ノ意ニ迎合センカ爲大正十二年上半期ヨリ大正十三年上半期迄各年八分同下半期ヨリ昭和元年下半期迄各年七分ノ割合ニヨル利益配當金トシテ八回ニ互リ合計金二十四萬五千四百二十三圓五十錢ノ株主ニ對スル配當決議ヲ爲サシメ大正十二年七月下旬ヨリ昭和二年五月三十一日迄ノ間現實ニ合計金二十三萬六千三百八十九圓七十四錢ヲ同銀行株主ニ支拂ハシメ以テ同銀行ニ同額ニ相當スル損害ヲ加ヘタリ

(第一(ロ)背任及第二業務上横領ノ事實ハ之ヲ省略ス)

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

111111 (1111)

辯護人赤井幸夫上告趣意書第三點原判決ハ其ノ事實理由第一ニ於テ「(イ) 被告人ハ右株式會社能登産業銀行ノ常務取締役若クハ取締役タル任務ニ違背シ同銀行株主ニ配當利益ヲ與フル目的ノ下ニ(一) 前記株式會社金城貯金銀行ヨリ繼承シタル貸付金總額金七十五萬七千三百八十二圓二錢中ニハ當初ヨリ合計三十四萬六千八百七十五圓四十錢ノ不良貸付アリテ其ノ貸付不能ナルヲ熟知シ從ツテ右金額ハ能登産業銀行ノ缺損ニ計上スヘキニ拘ハラス同銀行ノ資産ヲ假裝スル爲同銀行金澤支店ヲシテ大正十一年一月一日ヨリ昭和元年十二月三十一日ニ至ル迄ノ間決算期毎ニ右不良貸付金ニ對スル未收入利息ヲ計上シテ之ヲ元本ニ組入レシメ以テ確實ナル資産ノ如ク裝ヒ之ヲ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ遂ニ昭和元年十二月三十一日現在ニ於テ合計金五十八萬四千六百七十圓二十一錢ニ達セシメ」ト認定シ被告カ右金額ヲ資産ノ部ニ計上シタルハ單ニ株主ニ配當利益ヲ與フル目的ニ出テタルモノナリト云フニ在リ然ルニ其ノ證據説明ノ部ニハ「原審ニ於ケル第一回公判調書中被告人ノ供述トシテ……仍テ之ニ對スル善後策ヲ講セサルヘカラサル筋合ナルモ能登産業銀行ヲ設立シ營業開始シテ間モナキコトトテ斯ノ如ク三十五萬圓餘ノ缺損金ノ存スルコトカ他ニ聞フレハ銀行ノ信用ニモ影響シ其ノ爲休業スルコトニモナレハ預金者等ノ迷惑ニモナルコト故能登産業銀行ノ信用維持ノ爲其ノ儘ニ爲シ置キ云々ノ供述記載」ト説明シアリテ被告人カ右金額ヲ缺損トナササルハ銀行ノ信用維持ノ爲換言スレハ銀行ノ利益ノ爲ナリト云フニ在リテ原判決認定ノ如ク右ハ單ニ株主ニ配當利益ヲ與フルカ爲ナリト證據ハ之ヲ舉示スル所ナシ然ラハ原判決ハ事實理由ト證據理由ト相齟齬スル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

原判決カ證據ニ依リ認メタル判示第一(イ)ノ事實ハ被告人ハ株式會社能登産業銀行ノ常務取締役若クハ取締役タル任務ニ違背シ同銀行株主ニ配當利益ヲ與フル目的ノ下ニ(一)株式會社金城貯金銀行ヨリ繼承シタル貸付金總額七十五萬七千三百八十二圓二錢中ニハ當初ヨリ合計三十四萬六千八百七十五圓四十錢ノ不良貸付アリテ其ノ回收不能ナルヲ熟知シ從テ右金額ハ能登産業銀行ノ缺損ニ計上スヘキニ拘ハラス同銀行ノ資産ヲ假裝スル爲同銀行金澤支店ヲシテ大正十一年一月一日ヨリ昭和元年十二月三十一日ニ至ル迄ノ間決算期毎ニ右不良貸付金ニ對スル未收入利息ヲ計上シテ之ヲ元本ニ組入レシメ以テ確實ナル資産ノ如ク裝ヒ之ヲ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ遂ニ昭和元年十二月三十一日現在ニ於テ合計金五十八萬四千六百七十圓二十一錢ニ達セシメ其ノ他判示(二)(三)(四)ノ如ク虛偽ノ債權ヲ作爲シテ同銀行資産ノ部ニ計上セシメ以テ同銀行ノ資産ヲ假裝シ同銀行ノ缺損次第ニ嵩ミ到底利益配當ヲ爲スコト能ハス強テ之ヲ爲スニ於テハ同銀行ノ危機ヲ釀成スヘキ内情ナルコトヲ熟知シ居リタルニ拘ラス大正十二年上半期ヨリ昭和元年下半期ニ至ルマテノ間只管同銀行ノ缺損ヲ隱蔽シ株主ノ意ニ迎合センカ爲年八分若八年七分ノ割合ニ依ル利益配當金トシテ八回ニ互リ合計金二十四萬五千四百二

十三圓五十錢ノ株主ニ對スル配當決議ヲ爲サシメ大正十二年七月下旬ヨリ昭和二年五月三十一日迄ノ間現實ニ合計金二十三萬六千三百八十九圓七十四錢ヲ同銀行株主ニ支拂ハシメ以テ同銀行ニ同額ニ相當スル損害ヲ加ヘタリト云フニ在リテ之ニ依レハ原判決ハ被告人カ右銀行ノ常務取締役若ハ取締役タル任務ニ背キ株主ニ配當利益ヲ與フル目的ノ下ニ同銀行ノ缺損ニ計上スヘキ右回收不能ノ不良貸付金ヲ缺損トシテ計上セス却テ未收入利息ヲモ計上シテ元本ニ組入レ恰モ確實ナル資産ノ如ク裝ヒ之ヲ資産ノ部ニ計上シ尙ホ虛偽ノ債權ヲ作爲シテ銀行ノ資産ヲ假裝シ缺損多大ニシテ株主ニ配當スヘキ利益ナキニ拘ラス恰モ配當スヘキ利益アルカ如ク裝ヒ所謂蝟配當ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルモノナリト雖被告人カ右回收不能貸付金ヲ缺損トシテ計上セサリシヲ專ラ株主ニ配當利益ヲ與フル目的ノミニ出テタリト認め同銀行ノ信用維持ノ目的毫モ之ナカリシトシテ之ヲ否定シタルモノニ非サルコト原判決カ所論ノ證據ヲモ引用シタルニ由リ之ヲ看取スルニ難カラスシテ原判決舉示ノ證據ヲ綜合スレハ右回收不能貸付金ヲ缺損トシテ計上セサリシハ主トシテ株主ニ配當利益ヲ與フル目的ニ出テ旁ラ銀行ノ信用ヲ維持スル爲ナリシコトヲ認ムルニ足ル而シテ敍上主從兩様ノ目的ノ下ニ右回收不能ノ貸付金ヲ缺損トシテ計上セサリトスルモ右原判示被告人ノ行爲ハ背任罪ヲ構成スルコト言フ俟タサル所ニシテ右從タル目的ノ有無ハ同罪ノ成否ニ影響ナキカ故ニ原判決ハ之ヲ事實理由ニ示ササリシニ過キサレモノト解スルヲ相當トス然ラハ原判決ハ所論ノ如キ齟齬アルモノニ非サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第八點原判決ハ第一ノ(イ)事實ニ付被告人ヲ背任罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ該事實ハ被告人カ判示銀行ノ常務取締役若クハ取締役トシテ株主ニ對シ不當ノ利益配當ヲ爲シタリト云フニ止マリ右行爲ヲ判示銀行ノ定款又ハ法令ニ違背スルトスルモ這ハ商法違反トナルハ格別刑法上ノ背任罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ被告人ノ右行爲ヲ背任罪ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

商法第二百六十一條第一項ニハ取締役カ法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ストアルモ同條第二項ニハ右第一項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セサル旨ノ規定アリ而シテ原判示第一(イ)ノ事實ハ論旨第三點ニ對スル説明ニ於テ開示シタル如クニシテ其ノ被告人ノ行爲ハ右商法第二百六十一條第一項ニ所謂法令ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタル事實ヲ包含スルモ刑法第二百四十七條所定ノ背任罪ヲ構成スルヲ以テ右第一項ノ違反罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス然ラハ原判決カ被告人ヲ背任罪ニ問擬シタルハ適法ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件（昭和七年（九）第八六八號
同年九月十六日第四刑事部判決 棄却）

〔上告人〕 被告人 小針善兵衛 辯護人 〔鈴木義男
高屋市二郎〕

〔第一審〕 白河區裁判所 〔第二審〕 福島地方裁判所

○判示事項

選舉ニ關スル報酬買收費及實費トシテ金員ノ供與ヲ受ケタル行爲
ト後日ノ費途

○判決要旨

選舉人又ハ選舉運動者ニ於テ議員候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ
有スル者ヨリ投票及選舉運動ヲ依頼セラレ其ノ報酬買收費及實費

選舉ニ關スル報酬買收費及實費トシテ金員ノ供與ヲ受ケタル行爲ト後日ノ費途

ヲ包括スル金員ヲ供與セラレ其ノ趣旨ヲ諒シテ之ヲ受取りタル以上後日該金員ヲ悉ク選舉運動ノ實費ニ充當シタリトスルモ之カ爲衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ノ罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

【參照】衆議院議員選舉法第一百十二條

左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
- 五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ百四十日間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金三十圓ヲ追徴ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ福島縣第二區ノ議員候補者釘本衛雄ノ選舉委員ナリシトコロ犯意繼續ノ上候補者ノ選舉事務所タリシ福島縣西白河郡白河町字本町白河ホテルニ於テ同選舉委員タリシ益田儀一ヨリ候補者ニ當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ右候補者ニ投票アリタキ旨並候補者ノ爲他ノ有權者ノ買收其ノ他ノ選舉運動方ノ依頼ヲ受ケ其ノ報酬並實費トシテ同月十一日頃金十圓同月十七日頃金二十圓ノ各供與ヲ其ノ趣旨ヲ了シテ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第四號刑法第五十五條ニ該當スルトコロ同條所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額内ニ於テ被告人ヲ罰金百四十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ百四十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク收受シタル金三十圓ハ判示ノ如ク報酬ト實費トヲ包含シ兩者ハ一體ヲ爲シ其ノ各部分ヲ區別スルニ由ナキ關係ニアリ且費消ニ係リ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ衆議院議員選舉法第十四條ヲ適用シ全部之ヲ追徴スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

選舉ニ關スル報酬買收費及實費トシテ金員ノ供與ヲ受ケタル行爲ト後日ノ費途

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木義男 高屋市二郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ 被告人ハ昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ福島縣第二區ノ議員候補者釘本衛雄ノ選舉委員ナリシトコロ犯意繼續ノ上同候補者ノ選舉事務所タル福島縣西白河郡白河町字本町白河ホテルニ於テ同選舉委員タリシ益田儀一ヨリ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右候補者ニ投票アリタキ旨竝ニ同候補者ノ爲他ノ有權者ノ買収其ノ他ノ選舉運動方ノ依頼ヲ受ケ其ノ報酬竝ニ實費トシテ同月十一日頃金十圓同月十七日頃金二十圓ノ供與ヲ其ノ趣旨ヲ了シテ受ケタルモノナリト認定シタリ而シテ其ノ證據說明ノ部ニハ「右事實ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ(一)被告人ノ當公判廷ニ於ケル自分ハ判示選舉ニ際シ判示候補者ノ委員ナリシトコロ各判示日時判示場所ニ於テ選舉委員タリシ判示益田儀一ヨリ判示各金員ヲ受領シタル旨ノ供述ト(二)被告人ニ對スル檢事聽取書ニ判示各金員ハ判示益田儀一ヨリ之ヲ頼ムト云ハレ承知シテ受取りタルモノニシテ勿論自分ノ判示候補者ニ對スル一票分ヤ自分ノ心當リノ選舉人ニ手當スル分ヤ自分ノ骨折料等ヲ含ム意味ノモノト考ヘタルカ自分ハ選舉委員ニテ臨時ニ出張等スル實費ヲ要スルコトモ起リ得ル故其ノ費用ニ自分カ適宜ニ流用スルモ差支ナキモノト考ヘ居リタル旨

ノ供述記載アルト(三)益田儀一ニ對スル檢事聽取書ニ判示各金員ハ判示候補者ノ爲宜敷頼ムト申シ被告人ニ渡シタルモノニシテ其ノ様ナコトヲ申シタル心持ハ勿論被告人ノ一票ヲ同候補者ニ投シテ貰フ分ヤ被告人カ適宜他ノ選舉人ニ同候補者ノ爲ニ手當スル分ヤ被告人ノ骨折賃等ヲ含メテ出シタルモノニシテ被告人モ之ヲ承知シタル風ニテ受取吳レタル旨ノ供述記載アルトヲ綜合シテ之ヲ認ムト説明シ以テ該金員ノ授受カ候補者ニ投票スル報酬竝ニ他ノ有權者ノ買収費トシテ爲サレタルモノト認定シタリ然レトモ被告人ニ對スル檢事聽取書ヲ見ルニ前掲引用ノ續キトシテ「私トシテモ後テ良ク考フレハ投票買収等ト云フコトハ惡イ事テモアルノテ(中略)勿論其ノ金ハ一金ト雖他ノ選舉人等ニ配ラス自分カ福島ヤ棚倉ヘ事務所ノ用事テ出カケタ汽車賃自動車賃等トシテ使ヒマシタトアリテ檢事ニ對シテモ其ノ金員ヲ投票買収等ニ使用セサルコトヲ明言シ且第一審公判ニ於テ證人大屋麻次郎 矢吹幸一 原又藏 吉田廣次 星野儀平 鈴木義臣 益田儀一等ヲ以テ詳細ニ該金員ノ使途ヲ立證シ悉ク實費ニ充當シタルコトヲ明ニシ居ルモノナリ然ルニ原判決ハ分離スヘカラサル證據ヲ分割シテ其ノ一部ヲ援用シ被告人ノ投票報酬竝ニ投票買収ノ犯意竝ニ事實ヲ認定シタルハ探證ノ法則ニ反スルモノニシテ破毀スヘキモノト信ス況ヤ該檢事聽取書ノ供述ハ被告人ニ於テモ益田儀一ニ於テモ眞意ニアラサルニ檢察當局ノ糾問苛烈ヲ極メタル爲心ナラスモ容認シタルモノニ外ナラサルコトヲ第一審第二審公判ニ於テ反覆縷述スルトコロニシテコトハ殊ニ原審第一回公判ニ於ケル供述「私ハ昭和七年三月十三日

白河區裁判所檢事ノ呼出ヲ受ケ出頭ノ際母ヤ子弟カ病中ナリシヲ以テ其ノ旨ヲ話シ檢事ヨリ翌朝出頭スヘキコトヲ命セラレ夜十一時頃歸宅ヲ許サレタノテアリマシタカ翌朝十時頃出頭シタルトコロ檢事ハ私ニ對シ益田儀一ヨリ福島縣第二區衆議院議員候補者釘本衛雄ノ爲有權者買收其ノ他選舉運動ノ依頼ヲ受ケ供與サレタル金員ヲ選舉有權者買收ニ費消シタルニ相違アルマイトノコトナリシモ私ハ選舉運動ノ爲棚倉須賀川福島方面ニ出張シタル自動車賃其ノ他ノ實費ニ使用シタタケテ供與ヲ受ケタル金員ハ一文モ有權者買收費等ニハ使用セヌト答ヘタノテアリマシタ然ルニ檢事ハ一件テモ良イカラ買收シタコトヲ話セト申シ立會書記ヲ室外ニ立去ラセ私ノ身邊ニ近寄り私ノ肩ノ邊リヲ突キ乍ラ有權者ヲ買收シタルニ相違アルマイト責メ書記ニ私ノ供述ヲ半分位書キ取ラセマシタル際點燈少シ前頃ト思フカ高等係刑事ラシキ人カ室内ニ入り來リ紙片ニ記載シタルモノヲ書記ニ手渡シタルヲ檢事ニ渡シタノテ檢事ハ書取ヲ中止サセ又私ヲ叱リ始メタノテアリマシタ私ハ其ノ日家ヲ出ル際病氣ノ子供カ重態テアリ私ノコトヲ心配シテ病氣ニ障ル様ナコトカアツテハ困ルト思ヒ子供ニハ替ヘラレヌ故公判廷ニ於テ事實ノコトヲ申シ立テタ方カ良イト考ヘ檢事ノ云フ通り述ヘ捺印シ夜十一時頃漸ク歸宅ヲ許サレタ様ナ次第テ其ノ聽取書ハ事實ト相違シテ居リマス云々トアルニ徵シテ明ナリトス而シテ檢事聽取書所載ノ如キ事實ナキコトハ公判ニ於ケル證人調ニヨリ明瞭トナリタルコトハ之亦記録ニ照シテ明ナリ即チ原判決ハ立證セラレタル事實ヲ故意ニ無視シ被告人竝ニ證人益田儀一カ極力否認スル檢事聽取

書ニ依リテノミ認定シタルモノニシテ甚シク採證ノ法則ニ反スルモノニシテ從テ事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

苟モ選舉人又ハ選舉運動者ニ於テ議員候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ有スル者ヨリ投票及選舉運動ヲ依頼セラレ其ノ投票報酬運動報酬及他ノ選舉人ニ供與スヘキ投票報酬並實費トシテ供與セラレタル金圓ヲ其ノ趣旨ヲ諒シテ受取リタル以上ハ之ニ依リ衆議院議員選舉法第一百二十二條第四號ノ犯罪ハ直ニ成立シ其ノ後該選舉人又ハ選舉運動者ニ於テ其ノ受ケタル金圓ヲ投票ノ買收等ニ使用セス悉ク之ヲ選舉運動ノ實費ニ充當シタリトスルモ之カ爲右選舉法違反罪ノ成否ニ何等ノ消長ヲ來スモノニ非ス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ福島縣第二區ノ議員候補者釘本衛雄ノ選舉委員ナリシトコロ犯意繼續ノ上同候補者ノ選舉事務所タリシ福島縣西白河郡白河町字本町白河ホテルニ於テ同選舉委員タリシ益田儀一ヨリ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右候補者ニ投票アリタキ旨並同候補者ノ爲他ノ有權者ノ買收其ノ他選舉運動方ノ依頼ヲ受ケケ其ノ報酬並實費トシテ同月十一日頃金十圓同月十七日頃金二十圓ノ各供與ヲ其ノ趣旨ヲ諒シテ受ケタリト云フニ在リテ該事實ハ原判決援用ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク所論被告人ニ對スル檢事聽取書中ノ兩供述ハ分離シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ記録ニ徵スルモ原判決ノ右認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナク又所論ノ如キ採證上ノ違法アルコトナシ然

レハ被告人ノ本件行爲ハ敍上衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ニ該當スル犯罪ニシテ縱令被告人カ所論ノ如ク其ノ受ケタル金圓ヲ後日投票ノ買收等ニ使用セス悉ク之ヲ選舉運動ノ實費ニ充當シタリトスルモ被告人ニ於テ右罪責ヲ免ルルコトヲ得サルハ敍上ノ理由ニ依リ明ナルヲ以テ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○恐喝被告事件(昭和七年(九)第九三〇號
同年九月十九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 服部 一次 辯護人 花村 四郎

【第一審】 長野地方裁判所 外一名
【第二審】 東京控訴院

○判示事項

債務引受證ト刑法ニ所謂財物

○判決要旨

某會社ノ取締役力自己ノ資格ニ於テ某銀行ニ對スル其ノ會社ノ債務ヲ引受ケ辨濟スヘキコトヲ該會社ノ株主中ノ或者ニ約シテ交付シタル債務引受證ハ刑法ニ所謂財物ニ該當シ恐喝罪ノ目的トナリ得ルモノトス

【參照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人奥澤亮治郎ヲ懲役一年被告人服部一次ヲ懲役九月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人奥澤亮治郎ニ對シテハ百二十日被告人服部一次ニ對シテハ百八十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ被告人服部一次同奥澤亮治郎ノ兩名ハ長野縣松本市所在松筑座株式會社ノ株主ナル處同會社カ建築費

債務引受證ト刑法ニ所謂財物

及營業上ノ缺損等合計約十萬圓ノ債務ヲ負擔シタル儘其ノ整理ヲ爲サス營業モ亦殆ト休止ノ状態ニ在リタルヨリ同會社株主石曾根玉三郎外數名カ株主擁護會ヲ設立シ昭和五年七月六日其ノ協議會ヲ同會社内ニ開催シ被告人兩名ハ其ノ席上ニ於テ實行委員ニ選任セラレ更ニ同月十九日山本明 百瀬市作ト共ニ實行委員中ノ常任委員ニ選任セラレ同會社重役ニ對シ右負擔整理等ノ交渉ノ任ニ當ルコトトナリタルヲ奇貨トシ重役等ヲ恐喝シテ金品ヲ交付セシメンコトヲ企テ共謀ノ上犯意繼續シテ

第一 昭和五年七月二十六日右松筑座株式會社内ニ於テ同會社取締役福島幸重 百瀬彦一郎 小澤柳

赤木廣雲 監査役松澤豊一 丸山英雄 武井由太郎ト交渉スルニ當リ被告人亮治郎ハ重役ニ於テ是非共會社ノ債務ヲ承認セヨ然ラサレハ自分等ノ顔カ立タヌト申シ向ケ被告人一次ハ腰ニ差シタル矢立ヲ拔取リテ赤木廣雲ニ突キ付ケ「グレタコトヲ云フナ」ト云ヒナカラ椅子ヲ倒シテ脅カシ右重役等ヲシテ前記債務ヲ同會社ノ負擔タル債務トシテ承認セシメ更ニ同年八月二日松本市小柳町料理店魚網ニ於テ右債務ノ辨濟ニ付キ右重役等ト交渉ノ際同人等ニ於テ容易ニ被告人等ノ要求ニ應スル意ナキヲ觀取シ被告人亮治郎ハ右百瀬彦一郎ノ態度不遜ナリト號シ突然立上リ其ノ場ニ在リタル硝子製菓子器ヲ執リテ茶舞臺ニ叩キ付ケ算盤ヲ振り廻シナカラ「警察モ裁判モ法律モナイ奥澤法テヤルノタ」ト叫ヒ尻ヲ捲リテ茶舞臺ノ上ニ胡座ヲカキ「大町ノ富豪タ南安曇ノ富豪タ銀行ノ頭取タト此ノ木葉野郎奴折井家ニ四萬五萬ノ金ヲ出サセナカラ僅カ三千ヤ五千ノ金カ出セヌカ全部出セ七十萬圓出

サネハ此處カラ一步モ出サヌ」ト怒號シ被告人一次モ「俺ノ云フコトモ奥澤ノ云フコトモ同シタ」ト力ミ「サア十萬圓ノ證書ヲ書ケ」ト云ヒナカラ紙ト筆トヲ赤木廣雲ニ突キ付ケ尙被告人亮治郎ハ弟喜作及乾兒數名ヲシテ該室ノ内外ニ立塞カラシメテ重役等ヲ畏怖セシメ元社長タル折井政之丞個人名義ニテ瀧澤銀行ヨリ借り受ケタル元金五萬圓ノ債務ノ辨濟ヲ爲スヘキコトヲ約諾セシメタルモ重役等ニ於テ何等ノカ履行ヲ爲ササルヨリ被告人兩名ハ同年八月二十四日松本市六九町綠屋旅館事三村さわ方ニ於テ右重役福島 百瀬 赤木 松澤 武居等ノ會合中山本明 百瀬市作ト共ニ其ノ席ニ至リ被告人亮治郎ハ右福島等ノ重役ニ對シ「瀧澤銀行ニ對シ八月十三日迄ニ返濟スルコトヲ約シ金四千五百圓モ利子ヲ負ケテ貰フヤウ承諾ヲ得タルニ拘ラス諸君カ之ヲ履行セサリシ爲顔ヲ商賣トシテ居ル此ノ奥澤ノ顔カ立タナクナツタ俺ノ男カ頼ツタ以上株主トシテ自分ノ思フ通りノ行動ヲ執ルカ如何ナルコトヲスルカモ知レヌ又乾兒ニ對シテモ顔ヲ潰サレタ自分ハ我慢シテモ乾分ニハ色々ノ奴カ居ルカラドンナコトヲシテ諸君ニ迷惑ヲ掛ケルカモ知レヌ」ト申シ向ケ被告人一次モ其ノ際大聲ニテ怒號シ以テ右重役ヲシテ被告人ノ要求ヲ容レサル時ハ如何ナル危害ヲ加ヘラルヤモ測リ難シト畏怖セシメ因テ福島幸重等前記重役ヲシテ瀧澤銀行ニ對スル元金五萬圓ノ前記ノ債務ヲ引受ケ辨濟スヘキコトヲ承諾セシメタル上其ノ旨ノ債務引受書一通(昭和五年押第三十九號ノ一)ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第二 次テ被告人亮治郎一次ノ兩名ハ同日前記綠屋旅館ニ於テ福島幸重 武居由太郎等ノ前記重役等カ前記ノ如ク畏怖シ居ルニ乘シ同人等ニ對シ株主擁護會ノ實行委員トシテノ費用金二三千圓ヲ立替出金セラレ度シト強要シ更ニ同夜同市大字北深志料理店鯛萬事山田長藏方ニ於テ再ヒ同様出金方ヲ迫リ以テ若シ右重役等ニ於テ之カ出金ヲ爲ササルニ於テハ如何ナル危害ヲ加ヘラレルヤモ測ラレスト畏怖ノ念ヲ抱カシメ因テ前記重役等ヨリ各金二百五十圓宛合計金二千圓ヲ出金スルコトヲ承諾セシメタル末同月末ヨリ同年九月上旬迄ノ間ニ前記費用立替金名義ノ下ニ重役ナル武居由太郎 松澤豐一 小田長藏ヨリ各金二百五十圓 赤木廣雲ヨリ金五十圓百瀬彦一郎及福島幸重分トシテ松澤豐一ヨリ金五百圓丸山英雄ヨリ金百圓合計金千四百圓ヲ被告人亮治郎ノ肩書居宅ニ夫々持參セシメテ之ヲ喝取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人一次同亮治郎ノ判示第一第二ノ恐喝ノ所爲ハ各刑法第二百四十九條第一項第六十條ニ該當スルトコロ判示第二ノ恐喝ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情最モ重キ武居由太郎ニ對スル恐喝罪ノ刑ニ從フヘク而シテ判示第一ト第二ノ恐喝ハ連續犯ノ關係アルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ一罪ト爲シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人亮治郎ヲ懲役一年ニ被告人一次ヲ懲役九月ニ處スヘク尙同法第二十一條ヲ適用シ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人亮治郎ニ對シテハ百二十日被告人一次ニ對シテハ百八十日ヲ夫々右本刑ニ

算入スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十八條ニ則リ被告人兩名ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人奥澤亮治郎辯護人花村四郎上告趣意書第一點ハ原審判決ハ事實摘示中第一ト題スル未段ニ於テ一前記重役ヲシテ瀧澤銀行ニ對スル元金五萬圓ノ前記ノ債務ヲ引受ケ辨濟スヘキコトヲ承諾セシメタル上其ノ旨ノ債務引受書一通(昭和五年押第三九號ノ一)ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シタリト判示シ恰モ法律上有效ナル債務引受證書一通ヲ交付セシメタルモノトシ之ヲ以テ財物ノ喝取ト認定シタリ然レトモ右債務引受書(昭和五年押第三九號ノ一)ハ法律上有效ナル文書ニアラス蓋シ債務引受ニハ免責的債務引受ト重疊的債務引受トアリト雖何レモ債權者ト新債務者又ハ債權者ト新舊債務者間ノ契約ニシテ債權者ノ承諾ナクンハ何レノ場合ヲ問ハス債務引受契約ノ成立セサルコトハ法律上一點ノ疑ナキ所ナリ然リ而シテ本件ニ於テ果シテ債務引受契約成立シタルモノナルヤ否ヲ見ルニ本件ハ會社重役ノ一部ノ人ト被告等カ關與シテ債務引受證書ナルモノヲ作成シタルモノナルモ債權者タル瀧澤銀行ノ之ニ關與シタルモノ毫モナシ而モ該證書ヲ作成シ(昭和五年押第三九號ノ一)之ヲ被告亮治郎カ瀧澤

銀行ニ持參シ之カ證書ノ差入レ方ヲ交渉シタルモ同銀行ニ於テハ之ヲ拒絕シ承認ヲ與ヘサリシコトハ記録ニ於テ一見明瞭ナル處ニシテ(被告亮治郎 瀧澤稻雄 遠藤龜之助調書參照)債權者ノ事後承認スラモナカリシモノニシテ債務引受契約ノ成立セサリシコトハ疑ノ餘地ナキモノトス果シテ然ラハ債務引受書ト題スル證書ハ假ニ重役ノ一部カ署名捺印シタレハトテ又假ニ被告等ノ恐喝手段ニヨリテ重役等カ債務引受ノ意思ヲ包藏スルニ至レリトスルモ債務引受契約カ一方的行爲ニアラスシテ債權者間ノ意思合致ヲ必要トスル契約ナル以上本件ハ債務引受ノ法律效果ヲ生シ得サルコトハ是レ又明瞭ナリト云ハサルヘカラス然ラハ本件ノ債務引受書ハ法律上效力ナキモノニシテ一片ノ反古同様ノ紙片ナリト斷スルコトヲ得ヘシ從テ右債務引受書ト題スル書證ハ刑法ノ所謂財物ト云フコトヲ得サルモノトス然ルニ原審カ該引受證書ヲ以テ債務負擔ノ效力アルモノトシテ之ヲ喝取シタリト判示シタルハ事實ノ認定竝法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ先ツ本件債務引受證カ恐喝罪ノ目的物タリ得ルヤ否ノ點ニ付案スルニ原判決舉示ノ債務引受證(昭和五年押三十九號ノ一)ト其ノ他ノ證據トヲ對照スルトキハ右債務引受證ハ被告人等ノ要請ニヨリ判示松筑座株式會社ノ重役福島幸重等カ個人ノ資格ニ於テ同會社社長名義ノ瀧澤銀行ニ對スル元金五萬圓ノ債務ヲ引受ケ辨濟スヘキコトヲ被告人等ニ約シテ交付シタルモノナルコトヲ認メ得ルカ故ニ所論瀧澤銀行トノ關係ニ於テハ債權者タル同銀行ノ承諾ナキ限り債權債務ノ關係發生セサルコト所論

ノ如シトスルモ被告人等トノ關係ニ於テハ右證書ハ敍上ノ約旨タル法律關係ヲ證明スルニ足ル文書ト謂フヲ得ヘキヲ以テ刑法ニ所謂財物ニ該當シ恐喝罪ノ目的物ト爲ルコトヲ得ルヤ勿論ナリ原判決ノ事實理由ヲ通讀スレハ原判決ハ判示引受證ヲ右ト同趣旨ニ解シタルモノト認メ得ヘキカ故ニ被告人等カ判示福島幸重等松筑座株式會社ノ重役ヲ判示ノ如ク強迫畏怖セシメ右引受證ヲ交付セシメタルハ明カニ刑法第二百四十九條第一項ノ恐喝罪ヲ構成スルヲ以テ同條項ヲ適用處斷シタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○騷擾傷害建造物損壞被告事件 (昭和七年(九)第八九四號 棄却)

一三四二 (108)

【上告人】 被告人 松本 宇助 辯護人

外九名

星島 山本 山松 野本 大平 牧野 山松 菊市 治藏

外一名

【第一審】 高松地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

屋根瓦ノ剝離ト建造物損壞罪

○判決要旨

他人ノ所有ニ係ル家屋ノ屋根瓦ヲ不法ニ剝離スル行爲ハ建造物損壞罪ヲ構成スルモノトス

【参照】 刑法第二百六十條

他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○事實

第二審ハ被告人笹野七太郎ニ對シ左記事實ヲ認定シ刑法第六條第二號後段第二百六十條前段第五十四條第一項前段第十條第二十一條ヲ適用シテ同被告人ヲ懲役六月ニ處シ未決勾留日數中二十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ(本件總被告人ニ對スル騷擾ノ事實ハ省略ス)

被告人笹野七太郎 小山淺吉ハ右騷擾ノ際被告人小柳多郎吉ノ指圖ニ從ヒ各日本刀ヲ携ヘテ田中茂穂方襲撃ノ應援ニ赴キ笠島港ヘ到着スルヤ警察ヘ急報ノ爲出帆セントシタル中川武吉郎所有ノ渡海船ニ飛乗り被告人七太郎ハ右武吉郎ヲ其ノ場ニ突倒シ被告人兩名ハ田中方ニ殺到シ同家屋根ニ上リテ瓦數枚ヲ剝取り之ヲ投棄テ以テ率先助勢シタリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告辯護人星島二郎 山本玄吾 牧野良三 平松市藏 大山菊治上告趣意書第一點原判決ハ判示第一事實ニ付證據ニ依ラスシテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アルモノナリ原判決ハ判示第一事實ノ被告人松本宇助 今治安平 松下伊太郎 竹内新吉 梶田龜吉 笹井貞三郎等カ首魁トナリテ田中茂穂方ヲ襲撃シ暴行脅迫ヲナサシメタル旨ヲ認定シ其ノ證據說明ニ於テ一判示第一ノ事實ハ敍上摘示ノ(イ)乃至(カ)ノ各供述記載ヲ綜合シテ之ヲ認メタル旨說示シタリ然レトモ右說示ニ係ル(イ)乃至(カ)ノ各供述事實中ニハ右被告人等カ首魁トナリタル旨ノ供述存在セス而シテ又之ヲ綜合スルモ單ニ判示事實中ノ一部タル一右被告人等カ下津井漁業組合ノ部落惣代トシテ中西組合長ヨリ係争漁業期間更新問題ニ付鹽飽五漁業組合代表者田中茂穂ト交渉シタル顛末ノ報告ヲ受ケ其ノ對策ヲ協議シタル際一、二ノ者

屋根瓦ノ剝離ト建造物損壞罪

一三四三 (109)

ヨリ往年紛争ニ付多衆ニテ談判ニ乗込マントシタル處官憲ノタメ阻止セラレ却テ圓滿解決シタルコトアルヲ以テ今回モ同様ノ方法ヲ採ルヘシトノ意見アリタル結果之ニ從ヒ圓滿解決ノ手段トシテ示威運動ノタメ右田中方ニ乗込ムコトトナリ之ヲ總會ニ諮ルコトニ決シ總會ヲ開キ右事情ヲ報告シタルトコロ滿場一致右實行ヲ決議シ且ツ一同田中茂穂ノ措置ニ痛憤シ直ニ同人方ニ乗込ムコトトナリタル趣旨ヲ認メ得ルニ止マル然レトモ未タ右被告人等カ襲撃漁民ヲ指揮統率スル等首魁トシテ行動シタル内容事實ヲ認定スルニ足ルヘキ證據資料トナルヘキモノニアラス故ニ原判決ハ證據ニ依ラストシテ被告人等ヲ首魁ノ責任アルモノトスル重要事實ヲ認定シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ

騒擾ヲ惹起スル目的ヲ以テ自ら主謀者トシテ首唱劃策シテ多衆ヲ聚合シ暴行脅迫ヲ爲スニ至ラシメタル以上刑法第六條第一號ノ首魁ヲ以テ論スヘク必シモ其ノ多衆ヲ指揮統率スルコトヲ要スルモノニ非ス原判決ノ判示冒頭及第一事實ニ依レハ所論ノ被告人等ハ本件騒擾ニ付孰レモ其ノ主謀者ト爲リテ田中茂穂方襲撃ノ謀議劃策ヲ爲シ漁民等百數十名ヲシテ右田中方ヲ襲撃シ暴行脅迫ヲ爲サシメタルモノニシテ其ノ事實ハ原判決ニ引用セル證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘキカ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ證據ニ依ラスシテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

同第八點ハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ其ノ法律適用ニ於テ被告人笹野七太郎ノ判示第四ノ(四)建造物損壞ノ點ハ刑法第六條第二號後段ノ騒擾罪及刑法第二百六十條前段ノ建造物損壞罪ニ

該當シ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段ノ想像上ノ併合罪ナル旨説示シタリ然レトモ騒擾罪ハ群衆犯罪タル特別ノ暴行脅迫ニ付特ニ其ノ首魁其ノ他率先者ノ刑ヲ加重シ同時ニ他ノ共同者ノ刑ヲ減輕スル趣旨ヲ存スルモノニシテ此ノ規定ノ精神ニ鑑ミルトキハ建造物損壞ノ如キハ當然騒擾罪ノ行爲中ニ想像セラレ之ニ包含セラルルモノト解スヘキモノナリ況ンヤ右被告人ノ行爲ハ瓦數枚ヲ剝取リタル事實ニ過キササルニ於テオヤ故ニ本件右被告人ノ行爲ハ單ニ騒擾罪ノ規定ノミヲ適用スレハ足ルモノナルニ原判決ノ前記兩罪ニ該當スルモノトシ所謂想像上ノ併合罪ナリト解シタルハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルモノナリト云フニアレトモ

騒擾罪ノ成立要件タル暴行脅迫ハ他ノ罪名ニ觸レサル程度ノモノナルヲ以テ足り其ノ暴行脅迫ニシテ他ノ罪名ニ觸ルル場合ニ於テハ其ノ行爲ハ一面騒擾罪ヲ成立セシムルト同時ニ他ノ罪名ニ觸ルルモノトス原判決判示第四ノ(四)ノ事實ニ依レハ被告人七太郎ハ本件騒擾ニ付原審相被告人小山淺吉ト共ニ相被告人多郎吉ノ指圖ニ從ヒ各日本刀ヲ携ヘテ右襲撃ノ應援ニ赴キ笠島港ヘ到着スルヤ警察ヘ急報ノ爲出帆セムトシタル中川武吉郎所有ノ渡海船ニ飛乗り右武吉郎ヲ其ノ場ニ突倒シ次テ小山淺吉ト共ニ田中茂穂方ニ殺到シ同家屋根ニ上リ瓦數枚ヲ剝取り之ヲ投棄テ以テ卒先助勢シタルモノナレハ騒擾ノ點ハ刑法第六條第二號後段ニ建造物損壞ノ點ハ同法第二百六十條前段ニ該當シ而モ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用スヘキハ勿論ナルカ故ニ原

審ハ是等ノ法條ニ問擬シタルハ正當ニシテ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ同第九點ハ原判決ハ前點同様ノ違法アルモノナリ原判決ハ被告人笹野七太郎ノ判示第四事實ノ(四)ノ瓦數枚ヲ剝取り投棄シタル行爲ニ付建造物損壞罪ニ該當スル旨判示シタリ然レトモ屋根瓦數枚ヲ剝取ル程度ノ行爲ハ之ニ依リテ建造物トシテノ效用上何等ノ影響ナキノミナラス屋根瓦ハ硝子障子等同シク建物自體ヨリ容易ニ除去シ得ラルルモノナレハ之ヲ數枚剝取り損壞シタル行爲ハ刑法第二百六十一條ニ該當スルハ格別同第二百六十條ノ建造物自體ノ損壞ト解スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ右行爲ヲ以テ建造物自體ノ損壞ナリト解シ刑法第二百六十條ヲ適用シタルヲ以テ違法ナリト云フニアレトモ

【要旨】

建造物損壞罪ハ建造物ノ全部若ハ一部ヲ損壞スルコトニ因リテ成立ス而シテ家屋ノ屋根ニ葺キアル瓦ハ家屋ニ附着シテ之ト一體ヲ成シ別個ノ存在ヲ有セサルカ故ニ家屋ノ一部ヲ成スモノト觀ルヲ至當トスヘク從テ之ヲ剝離スルカ如キハ即建造物ノ一部ヲ損壞スルモノニ外ナラス原判決判示第四ノ(四)ノ事實ハ論旨第八點ニ對スル説明中ニ掲ケタル如クニシテ即被告人七太郎ハ本件騷擾ニ付原審相被告人小山淺吉ト共ニ田中茂穂方ニ殺到シ同家屋根ニ上リテ瓦數枚ヲ剝取り之ヲ投棄テタルモノナレハ其ノ行爲ハ刑法第二百六十條前段ニ該當スルモノト謂フヘク從テ原判決ニハ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事大原昇關與

○麻藥取締規則違反關稅法違反被告事件 (昭和七年(九)第九五八號 棄却)

(昭和七年九月二十二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 今村金治郎 辯護人 小野村胤敏

外一名

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

麻藥ノ密輸入罪ト關稅通脫罪トノ關係

○判決要旨

内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテモルヒネ、ヘロインヲ輸入シ稅關官吏ヲ欺キ其ノ關稅ヲ通脫シタル場合ニハ麻藥取締規則違反罪ト關稅

麻藥ノ密輸入罪ト關稅通脫罪トノ關係

通脱罪トノ二罪成立シ併合罪ヲ以テ論スヘキモノトス

【参照】麻薬取締規則第九條第一項 麻薬ヲ輸入又ハ移入セントスル者ハ左ノ各號ノ

事項ヲ具シ主タル業務所所在地地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 品名及數量

二 輸入又ハ移入ノ目的

三 出荷人ノ氏名(法人ニ在リテハ名稱)又ハ商號及業務所所在地

四 輸入又ハ移入ノ期間

五 送荷ノ方法

六 輸入又ハ移入港名(郵便ニ依ル場合ニ在リテハ郵便局名)

同規則第二十一條第一項 第二條第一項、第三條第六條第一項、第九條第一項又ハ第十

條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

關稅法第七十五條 關稅ノ通脱ヲ圖リ又ハ關稅ヲ通脱シタル者ハ其ノ通脱ヲ圖リ又

ハ通脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

刑法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付確定裁判アリタ

ルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人清三郎ヲ懲役三月及罰金三萬八千八百五十九圓十二錢ニ被告人金治郎ヲ懲役三月及罰金三萬三千四百五十九圓十五錢ニ處シ各懲役刑ニ付テ

ハ三年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫シ各罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置日數ヲ各三百日ト定メ被告人兩名ヨリ各金十五萬八千九百九十四圓九十五錢ヲ被告人清三郎ヨリ金五萬七千七百二十圓一錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人清三郎ハ實弟同幸次郎等ト共ニ昭和二年七月頃土耳其スタンプルニ於テモルヒネ、ヘロイン等ノ製造ヲ目的トスルオリエンタル、プロダクト、コムパニトヲ創立シ爾來其ノ經營ニ從事シ被告人金治郎ハ大阪市南區安堂寺橋通三丁目ニ於テ雜貨染料貿易業ニ從事セルモノナル處右三名ハ何レモモルヒネ、ヘロインヲ日本内地ニ輸入スルニ付内務大臣ノ許可ヲ得サルニ拘ハラヌ

第一 右三名ハ昭和四年四月阪急沿線岡本所在地ノ幸次郎宅ニ於テモルヒネ、ヘロインヲ日本内地ニ密輸入シ利益ヲ獲得センコトヲ共謀シ右謀議ニ基キ

- 一 昭和四年十一月粗製モルヒネ三十疋ヲ骨灰ト詰メ合セテスタンプルヲ積出シマルセーユニ於テ日本郵船株式會社汽船榛名丸ニ積替ノ上昭和五年一月二十六日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸稅關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虛偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同稅關吏員ヲ欺キ同年二月一日右モルヒネ三十疋此ノ輸入價格一萬千六百四十四圓八十錢(市場價格一萬六千七百六十八圓五十錢)ノモノヲ脫稅ノ儘通關手續ヲ了シテ同稅關構内ヨリ搬出シ因テ右輸入價格ニ對スル二割ノ關稅金二千三百二十八圓九十六錢ヲ通脱シ

麻薬ノ密輸入罪ト關稅通脱罪トノ關係

二 昭和五年一月粗製モルヒネ五十庇ヲ骨灰ヲ詰合セテスタンブルヲ積出シマルセーユニ於テ日本郵船株式會社汽船熱田丸ニ積替ノ上同年三月十一日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月十五日右モルヒネ五十庇此ノ輸入價格一萬九千四百八圓(市場價格二萬七千九百四十七圓五十錢)ノモノヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ右輸入價格ニ對スル二割ノ關税金三千八百八十一圓六十三錢ヲ逋脱シ

三 昭和五年三月鹽酸モルヒネ三十庇ヲ骨灰ト詰合セテスタンブルヲ積出シマルセーユニ於テ日本郵船株式會社汽船伏見丸ニ積替ノ上同年五月五日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月十四日右モルヒネ三十庇(市場價格二萬二千三百二十圓)ヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ一斤ニ付十三圓五十錢ノ割合ニ因ル關税金六百七十五圓ヲ逋脱シ

四 昭和五年四月鹽酸モルヒネ二十三庇ヲ密蠟ト詰合セテスタンブルヲ積出シマルセーユニ於テ佛蘭西汽船ポートス號ニ積替ノ上同年六月十三日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月十九日右モルヒネ二十三庇 市場價格一萬七千百十二圓)ヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ一斤ニ付十三圓五十錢ノ割合ニ依ル關税金五百十七圓四十九錢ヲ逋脱シ

五 昭和五年六月鹽酸モルヒネ五十庇ヲ種子物ト詰合セテスタンブルヲ積出シマルセーユニ於テ佛蘭西汽船ダータグナン號ニ積替ノ上同年七月二十四日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月二十九日右モルヒネ五十庇(市場價格三萬七千二百圓)ヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ一斤ニ付十三圓五十錢ノ割合ニ依ル關税金千二百二十五圓ヲ逋脱シ

六 昭和五年六月鹽酸モルヒネ五十庇及鹽酸ヘロイン十五庇ヲ羊毛ト詰合セテスタンブルヲ積出シマルセーユニ於テ日本郵船株式會社汽船鹿島丸ニ積替ノ上同年八月十六日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ及ヘロイン在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月二十九日右モルヒネ五十庇(此ノ市場價格三萬七千二百圓)ヘロイン十五庇此ノ輸入價格七千五百圓(市場價格一萬八百圓)ノモノヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ右モルヒネニ對スル一斤十三圓五十錢ノ割合ニ依

ル關税金千二百二十五圓及右へロイン輸入價格ニ對スル從價二割ノ關税金千五百圓ヲ逋脱シ

第二 被告人清三郎ハ昭和五年十月頃土耳其スタンブルノ二宮昌平ニ對シ鹽酸モルヒネ八十庇ヲ羊毛ト詰合セテ神戸港揚ニテ發送スヘキ旨電命シ二宮ニ於テ之ニ應シ同月末鹽酸モルヒネ八十庇ヲ羊毛ト詰メ合セテスタンブルヲ積ミ出シナポリニ於テ日本郵船株式會社汽船香取丸ニ積替ノ上同年十二月二十日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之ヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且神戸税關ニ對シモルヒネ在中ノ事實ヲ隱秘シタル虚偽ノ輸入申告書ヲ提出シテ同税關吏員ヲ欺キ同月二十九日右モルヒネ八十庇(市場價格五萬九千五百二十圓)ノモノヲ脱税ノ儘通關手續ヲ了シテ同税關構内ヨリ搬出シ因テ一斤十三圓五十錢ノ割合ニヨル關税金千七百九十九圓九十九錢ヲ逋脱シタモノナリ

被告人兩名ノモルヒネ類輸入ノ所爲及關稅逋脱ノ所爲ハ夫々意思繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中(一)内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ粗製モルヒネ鹽酸モルヒネ鹽酸へロインヲ輸入シタル點ハ昭和五年内務省令第十七號麻藥取締規則第九條第一項ニ違反シ同第二十一條第一項刑法第五十五條ニ該當シ(二)關稅ヲ逋脱シタル點ハ關稅法第七十五條刑法第五十五條ニ該當シ右ハ併合罪ニ係ルヲ以テ刑法第四十五條第四十八條第一項ニ依リ(一)ニ付テハ被告人兩名ヲ各懲役三月ニ處シ且同法第二十五條ニ從ヒ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ(二)ニ付テハ被告人清三郎ヲ逋脱合計金一萬二千九百五十三圓四錢ノ三倍ニ相當スル罰金三萬八千八百五十九圓十二錢ニ被告人金

治郎ヲ逋脱稅合計金一萬一千百五十三圓五錢ノ三倍ニ相當スル罰金三萬三千四百五十九圓十五錢ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人兩名ヲ各三百日間勞役場ニ留置シ尙判示粗製モルヒネ鹽酸モルヒネ鹽酸へロインハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ關稅法第八十三條第一項ニ依リ判示第一ノ市場價格十六萬九千三百四十八圓ヨリ關稅ニ相當スル金額一萬一千百五十三圓五錢ヲ控除シタル金十五萬八千九百九十四圓九十五錢ヲ犯則者タル被告人兩名ヨリ各追徵シ判示第二ノ市場價格ヨリ關稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金五萬七千七百二十圓一錢ヲ犯則者タル被告人清三郎ヨリ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人金治郎辯護人小野村胤敏上告趣意書第一點ハ原判決ハ其ノ理由ニ於テ被告人ニ對スル犯罪事實トシテ第一、右三名ハ昭和四年四月阪急沿線岡本所在ノ幸次郎宅ニ於テモルヒネ、へロインヲ日本内地ニ密輸入シ利益ヲ獲得センコトヲ共謀シ右謀議ニ基キ(一)昭和四年十一月粗製モルヒネ三十庇ヲ骨灰ト詰合セテスタンブルヲ積出シマルセトユニ於テ日本郵船株式會社汽船榛名丸ニ積替ノ上昭和五年一月二十六日神戸港内ニ到着スルヤ其ノ頃之レヲ同港ニ陸揚シテ輸入シ且ツ神戸税關ニ對シモルヒ